

(六) 植栽ノ方法 ハ樹種地勢地質等ノ如何ニヨリテ多少相違アルニヨリ特ニ注意ヲ要ス又本項ニ付テ研究スヘキ事項ハ苗樹ノ運搬ハ如何ス可カ植栽地ニ於ケル荆蕪雜草ヲ剷除スル等地拵ハ如何ス可カ植栽スヘキ土地穿堀ハ如何スヘキカ即チ各地種々ノ關係事情ニヨリテ盡ク兒童ヲシテ之ニ當ラシムルカ又ハ一部分ハ別ニ人夫ヲ雇フテ之ニ當ラシムルカ若シ全部兒童ヲシテ之ニ當ラシムルトセハ之ニ要スル種々ノ器具器械等ハ如何スヘキヤ又器具器械ノ平生ニ於ケル保管等ハ果シテ如何スヘキヤ又其植栽ハ個人ヲ以テ一樹又ハ數樹ニ當ラシムルカ又ハ一級一團ヲ以テ一定ノ區域ニ當ラシムルカ又兒童ハ男女並ニ長幼ノ別ヲ問フ必要ナキカ又高等科尋常科若クハ其上級下級等ニ據リテ區別スルノ必要ナキカ又其男女、長幼團級ノ別ニヨリテ樹種並ニ方法ヲ異ニスル必要ナキカ等皆其局ニ當ルモノノ大ニ講究スヘキ要點ナラント信ス又植栽ニ關スル一般ノ方法順序等ニ至リテハ多少林學上ノ趣味ヲ加フルト然ラサルトハ將來ノ發達並ニ利益ノ上ニ著シキ影響ヲ來スニ至ルヘシ

(七) 植栽後ノ手入及保護 若シ樹木ヲ植栽シテ其儘之ヲ放置センカ寧ロ植ヘサルノ優レルニ若カサルナリ之ヲ植スルハ易シ之ヲ保護教育シテ大木ト爲ラシムルハ頗ル難シ故ニ豫メ之レカ用意ヲ要スヘキハ勿論ナリ蔓草ノ刈拂ヒ蟲害ノ驅除、火災ノ豫防枯死ノ補植等總テ或ル一定ノ程度迄ハ必ス兒童ヲシテ之ニ當ラシムル方尤モ必要ナラン(其必要ナル理由等ハ之ヲ略ス)而シテ若シ兒童ヲシテ之ニ當ラシムルモノトセハ其方法順序等ハ如何スヘキヤ又之ヲ伐採シテ世用ニ供スル迄ノ幾多ノ日子間ニ於ケル保護ノ方法等モ亦大ニ講究スヘキノ點ナラン
其他ノカ實施ニ對スル監督ノ方法、將來管理ノ方案、記錄ノ備付、主副產物ノ採收利用法等豫メ講究ヲ要スルノ點決シテ僅少ニアラサルヘシ
惟フニ一度此樹栽日ノ美譽タルヲ信シ且ツ之ヲ以テ容易ノ事ト見做シ之カ方案等モ考慮セス直ニ以テ

實際ニ試ミント欲スルカ如キ豈ニ寒心セサルヘケンヤ前記略述スルカ如ク之レカ若手容易ニアラスト雖トモ之ヲ其成功ノ難易ニ比スレハ殆ント同日ノ談ニアラサルナリ故ニ若シ之ヲ實施セントセハ其初ニ於テ充分ノ注意ヲナシ實地ニ適當ナル方案ヲ設ケテ之ヲ施行セサレハ管ニ勞費ヲ消耗シテ遂ニ其良果ヲ見サルノミナラス一樹一木モ其跡ヲ止メス如何ニ之ヲ獎勵スルモ兒童ハ倦ミテ之ヲ避ケ教師ハ捨テ之ヲ顧ミサルニ至ルヘシ果シテ此ノ如キ有様ニ陥ルトキハ折角ノ美譽モ徒ニ弊害ヲ醸スノ泉源トナリ遂ニ一種ノ流行熱トシテ笑ヲ後世ニ貽スニ過キサランコトヲ憂フルナリ

○學校樹栽著手獎勵及實施督勵方

(明治三十七年八月六日 文部省訓令第七號)

北海道廳 府 縣

學校樹栽ノコトタル教育上幾多ノ裨益アルノミナラス學校基本財産造成ノ一法タリ故ニ文部省ハ從來之ヲ督勵シ地方當局者亦之ニ熱心ナル者アリシヲ以テ近年之レカ實施ヲナスモノ漸ク多キヲ加フルノ傾向アリ又時局ニ際シ二三地方ニ於テ紀念學林ヲ設クルノ計畫ヲ立テタルカ如キ甚タ喜フヘキモノアリ然リト雖モ顧ミテ統計ニ徵スルニ現ニ之ヲ實施セル市町村立小學校ハ尙二千餘校ニ超キス其ノ發達ノ遅々タルハ遺憾トスル所ナリ地方長官ハ宜シク管内學校ノ狀況ヲ調査シ既ニ樹栽ニ著手セルモノハ益々之ヲ獎勵シ其ノ末ヲ著手セサルモノニハ樹栽地ノ廣狹ニ拘ラス樹數ノ多少ヲ問ハス實施ヲ督勵シ以テ其ノ効果ヲ收メシコトヲ努ムヘシ

○小學校植樹獎勵規程

(明治四十五年七月五日 靜岡縣令第六十八號)

小學校植樹獎勵規程左ノ通相定ム

小學校植樹獎勵規程

- 第一條 市町村、町村學校組合若ハ其ノ區ニ於テ市町村立小學校基本財産ヲ造成スル目的ヲ以テ生徒ニ植樹ヲナサシムルトキハ補助金ヲ交付ス
- 第二條 前條ノ補助金ハ植栽ニ關スル費用總額ノ十分ノ五以内ニ於テ之ヲ定ム
- 第三條 補助金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ左ノ各號ノ書類ヲ具シ毎年七月末日限り町村ハ郡役所ヲ經市ハ直ニ知事ニ申請スヘシ
 - 一 植樹ニ關スル市町村會、組合會又ハ區會ノ決議謄本
 - 二 植栽地圖面(縮尺二百分一)
 - 三 市町村、字、地番、地目、反別及所有假借ノ別ヲ附記シ圖面ニハ地番ノ區劃ヲ明記スヘシ
 - 四 植栽ニ關スル仕様書
- 第四條 植栽樹種及其ノ各本數、植栽時期(着手、完了、豫定)苗木、樹齡、植栽ノ方法其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ
- 第五條 植栽費、明細書
- 第六條 補助金ハ植栽完了ノ届出ヲ爲シタル後其ノ請求ヲ待テ之ヲ交付ス
- 第七條 補助金交付ノ指令ハ其ノ日付ノ屬スル年度内ニ植栽ヲ了セサルトキハ之ヲ取消スコトアルヘシ
- 第八條 補助金交付ノ指令ヲ受ケタル後已ムヲ得サル事情アリテ其ノ仕様等ヲ變更セントスルトキハ事由ヲ詳具シテ知事ノ認可ヲ受クヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ補助金額ヲ變更スルコトアルヘシ
- 第九條 豫定ノ事業ヲ遂行セス其ノ他不都合ノ行爲アルコトヲ認メタルトキハ補助金ハ未渡ノ分ハ之ヲ交付セス既渡ノ分ハ其ノ一部若ハ全部ヲ還納セシムルコトアルヘシ
- 第十條 補助ヲ得テ植栽シタル植樹地ニツキテハ左ノ作業ヲ行フヘシ
 - 一 防火線ヲ設置シ植栽後五ケ年間ハ毎年一回以上其ノ手入ヲナスコト
 - 二 植栽後五ケ年間毎年一回以上上下刈手入ヲナスコト
 - 三 植栽後二ケ年以内ニ枯損シタル樹木アルトキハ其ノ翌年度ノ終迄ニ之ヲ補植スルコト
- 第十一條 補助ヲ得テ植栽シタル植樹地非常變災ノ爲損害ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク知事ニ報告スヘシ
- 第十二條 補助ヲ得テ植栽シタル植樹地ノ成績ハ植栽後五ケ年間毎年四月十日限り左記様式ニ依リ其ノ前年度分ヲ知事ニ報告スヘシ

何小學校植樹地成績報告書

明治 年度分

種別	年	月	摘	要	補助指令年月	植	樹	地
防火線設置(入手)	明治	年	月	設置(入手)ヲ行ヒタル防火線ノ延長等	明治	年	月	
下刈手入	明治	年	月	下刈手入ヲ行ヒタル反別等				何村、字何第何番地
補植	明治	年	月	補植ヲ行ヒタル反別樹種本數等				
成育ノ状況								
何々								

第十一條 補助ヲ得テ植栽シタル樹木ニヨリテ小學校基本財産ヲ設定シタルトキハ其ノ植樹地、基本財産設定額及其ノ年月日ヲ具シ知事ニ報告スヘシ

第十二條 本規程ニ基キ町村ヨリ提出スル書類ハ郡長之ヲ調査シ第三條第四條第六條ノ書類ニツキテハ其ノ意見ヲ副申スヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年静岡縣令第四十九號小學校植樹獎勵規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
舊令ニ依リ補助ヲ受ケテ植栽シタルモノニツキテハ本令第七條乃至第十二條ヲ適用ス

○小學校樹栽地ニ關スル件 (明治三十八年三月十六日)
(静岡縣通牒第三四九號ノ一)

從來小學校生徒樹栽地トシテ官有地拂下若クハ貸渡ノ際ハ男生徒ニ限リ官有地特別處分規則第一條第一項ニ依リ處理相成リ候處自今女生徒樹栽ノ場合モ同様該條項ヲ適用シ生徒一人ニ付三十坪以上五十坪以内ノ割合ヲ以テ許可相成候條爲御心得此段及通牒候也

○樹木ノ愛養保護ニ關スル件 (明治三十八年三月十六日)
(静岡縣通牒第三四九號ノ二)

近年植樹事業各地ニ勃興致シ候ニ就キテハ一面ニハ之カ愛養保護ノ方法ニ關シ最深キ注意ヲ要スル義ト存シ候處村落若クハ道路等ニ接近シタル植栽地ニ於テハ往々毀損セラレタル樹木ヲ發見致シ甚々遺憾ノ義ト存シ候是等ハ小學校生徒若クハ兒童等ノ惡戯ニ出ツルモノナキヲ保シ難シト存候間御部内教員ヲシテ是等ニ關シ相當注意ヲナサシムル様致度依命此段及通牒候也

○小學校一覽表様式標準 (明治四十年十月九日)
(静岡縣通牒未學第一〇四〇號)

静岡縣何市何町(學校組合)立何小學校一覽表 明治何年四月末調

御影	拜載年月日	第一
勸語諒本	拜載年月日	第二

非常本遷所

學級編制及教員				設置		校舎及附屬物			
計	別級	年	兒童數	校地坪數	體操場坪數	及附屬地		校舎坪數	及附屬物
						植樹概況	樹木數		
	小學					學校園坪數	植樹地坪數		特別教室數
	男								及其坪數
	女								及其坪數
	計								及其坪數

受持教員	姓名	資格	俸給	年功加俸	勤務年月	本校就職年月

第五編 普通教育 (小學校一覽表様式標準)

前年度	學齡兒童中既達就學期者																修業年限	配置																																				
	學就																	加除教科目	尋常科	高等科																																		
	不																																																					
	就																																																					
尋常科	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">總計</th> <th colspan="2">合者</th> <th colspan="2">除貧窮</th> <th colspan="2">免疾病</th> <th colspan="2">者豫病</th> <th colspan="2">猶病</th> <th colspan="2">合計</th> <th colspan="2">卒業者</th> <th colspan="2">現在就學者</th> </tr> <tr> <td>男</td><td>女</td> <td>男</td><td>女</td> <td>男</td><td>女</td> <td>男</td><td>女</td> <td>男</td><td>女</td> <td>男</td><td>女</td> <td>男</td><td>女</td> <td>男</td><td>女</td> <td>男</td><td>女</td> </tr> </table>																總計		合者		除貧窮		免疾病		者豫病		猶病		合計		卒業者		現在就學者		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	尋常科	高等科
總計		合者		除貧窮		免疾病		者豫病		猶病		合計		卒業者		現在就學者																																						
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女																																					
<table border="1"> <tr> <th colspan="6">學校</th> <th colspan="6">事務</th> <th colspan="6">管理</th> </tr> <tr> <td>器具價</td><td>標本價</td><td>器械價</td><td>圖書價</td><td>家屋價</td><td>附屬地價</td> <td>員委</td><td>務學</td> <td>學校醫</td><td>管理</td><td>者</td><td>氏</td> <td>名</td><td>俸</td> <td>給</td><td>勤務年月數</td><td>本校就職年月</td> </tr> </table>																		學校						事務						管理						器具價	標本價	器械價	圖書價	家屋價	附屬地價	員委	務學	學校醫	管理	者	氏	名	俸	給	勤務年月數	本校就職年月		
學校						事務						管理																																										
器具價	標本價	器械價	圖書價	家屋價	附屬地價	員委	務學	學校醫	管理	者	氏	名	俸	給	勤務年月數	本校就職年月																																						

校區內狀勢							卒業及入學						設置區域外		出席歩合	
町村及字名							前年以前						尋常科		高等科	
戶數							卒前						高等科		高等科	
人口							卒前						尋常科		高等科	
生業							卒前						尋常科		高等科	
一班							卒前						尋常科		高等科	
重要							卒前						尋常科		高等科	
物產							卒前						尋常科		高等科	
遠通距離							卒前						尋常科		高等科	
地有民內區校							兒童貯金						人員		產額	
合計							學校實業ノ入學者						職員		產額	
原野							學校實業ノ入學者						職員		產額	
山林							學校實業ノ入學者						職員		產額	
宅地							學校實業ノ入學者						職員		產額	
島田							學校實業ノ入學者						職員		產額	
種目							學校實業ノ入學者						職員		產額	
別地							學校實業ノ入學者						職員		產額	
別業							學校實業ノ入學者						職員		產額	
無職業							學校實業ノ入學者						職員		產額	
計							學校實業ノ入學者						職員		產額	
漁業							學校實業ノ入學者						職員		產額	
工業							學校實業ノ入學者						職員		產額	
商業							學校實業ノ入學者						職員		產額	
農業							學校實業ノ入學者						職員		產額	
合計							學校實業ノ入學者						職員		產額	

○通俗教育ノ施設ニ關スル件

(明治四十四年十二月十三日 靜岡縣通牒學第五九二八號)

通俗教育ノ施設ニ關シテハ先般及通牒置候次第モ有之元々適當ノ施設ヲナシ斯種教育ノ普及發達ヲ圖ラレ居候義ト存候得共今般文部省通俗教育調査委員會ニ於テ學校等ニ於ケル通俗教育施設ニ關シ別紙ノ通決議相成候趣ヲ以テ其筋ヨリ通牒有之候ニ付テハ右御參照ノ上土地ノ情況ニ應シ適切ノ施設ヲナシ其ノ効果ヲ擧ケラレ候様御配意相成度依命此段及通牒候也(縣立學校農、工業、水産試驗場ヘモ同意味ノ通牒アリ)

公立私立諸學校ニ於ケル通俗教育ノ施設ニ關スル件

- 一 各學校ニ於テ學校教育上妨ナキ限リ時々通俗講演會、展覽會、幻燈、活動寫真會等ヲ開催シ父兄母姉ハ勿論廣ク一般公衆ヲシテ之ヲ聽講觀覽セシムルコト
- 二 前項ノ通俗講演會ニ於テハ理科ニ關スル實驗ヲ行ヒ又ハ幻燈、活動寫真、蓄音機ヲ用フル等通俗教育上最モ趣味ニ富ミ兼テ娛樂ヲ供スルノ工夫ヲ凝スコト
- 三 各學校ノ校舍、運動場、圖書、器具、機械、標本、及其他ノ設備中通俗教育ニ資スヘキモノハ學校教育上妨ナキ限リ可成一般公衆ヲシテ之ヲ利用スルヲ得シムルコト
- 四 各學校ノ施設ハ便宜ノ時機ニ於テ一般公衆ノ縱覽ヲ許スコト特ニ各種實業學校ノ實習地工場等ノ施設ハ可成公衆ヲシテ之ヲ熟知セシムルコト
- 五 各學校ノ職員ヲシテ本務ノ余暇可成其ノ地方ニ於ケル通俗教育ノ普及發達ニ關シ盡力セシムルコト
- 六 圖書館、試驗場、講習所等ニ於テモ前諸項ニ準スルコト

學校ノ外各種ノ團體等ニ於ケル通俗教育ノ施設ニ關スル件

學校ノ外地方ニ於ケル各種ノ團體ニ於テモ互ニ聯絡ヲ圖リ協力スルハ勿論各學校等トモ聯絡シテ通俗講演ヲ初メ其他各自適切ナル通俗教育上ノ事業ヲ行フコト

備考 地方ニ於ケル團體ハ凡ソ左ノ如クナルヘシ

- | | | | |
|---------|-------|-------|---------|
| 教育會 | 青年團體 | 農會 | 商業會議所 |
| 產業組合 | 衛生組合 | 赤十字支部 | 愛國婦人會支部 |
| 武德會支部 | 體育會支部 | 在郷軍人會 | 報德會 |
| 斯民會 | 自疆會 | 一德會 | 弘道會 |
| 其他ノ各種團體 | | | |

二 地方ニ於テハ可成各團體相協議シテ通俗教育上ノ媒介機關ヲ作ルコト

第五編 追録

第一章 小學校令 (追録)

○小學校令並小學校令施行規則中改正ノ要旨

(明治四十四年七月三十一日 文部省訓令第十三號)

北海道廳 府 縣

今般勅令第二百十六號ヲ以テ小學校令中ニ改正ヲ加ヘラレ文部省令第二十四號ヲ以テ小學校令施行規則中ニ改正ヲ施セリ因テ左ニ其ノ改正ノ要旨ト施行上特ニ注意ヲ要スル事項ノ大要トヲ舉示シ實施上遺漏ナカランコトヲ望ム

高等小學校ノ目的ハ義務教育ヲ終リタル兒童ニ對シ更ニ進ミタル普通教育ヲ施シ國民道德ヲ涵養スルト共ニ生活ニ必須ナル知識技能ヲ授ケ卒業後各種ノ事業ニ從事スルニ一層適切ナル性格ヲ得シムルニ在リ是レ從來其ノ教科目中ニ手工、農業、商業ヲ加ヘラレタル所以ナリ而シテ近時時勢ノ必要ニ應シ之ヲ加設スル高等小學校益々増加シ今ヤ少數ノモノヲ除ク外悉ク其ノ施設ヲ見ルニ至レルヲ以テ今回ノ改正ニ於テハ從來ノ隨意科目ヲ廢シテ必修科目ト爲シ兒童ニハ必ス手工、農業、商業ノ何レカ一ヲ課スルコトトシ又其ノ教授時數ヲ増加シ以テ當該教科目教授ノ效果ヲ完カラシメ高等小學校本來ノ目的ヲ貫徹セントス又英語ハ從來獨立ノ一教科目トシテ土地ノ情況ニ依リ加設スルコトヲ得シメタルモ今回之ヲ改メ商業中ニ加ヘテ之ヲ授クルコトヲ得シメ以テ該科目ヲシテ實用上一層適切ナラシメンコトヲ期セリ故ニ從來既ニ此等ノ實業ニ關スル教科目ヲ設置セルモノハ改正ノ旨趣ニ依リテ益々教員設備等ノ改善ヲ圖リ其ノ未タ之ヲ設置セサルモノニ在リテハ速ニ適切ノ施設ヲ爲サシメンコトヲ要ス但シ

地方ニ依リテハ適良ナル教員ヲ得難ク隨テ今速ニ普ク之ヲ施設セシムルコト能ハサルモノアルヘキヲ察シ特別ノ事情アルモノハ特ニ府縣知事ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得シメタリ

代用教員ノ制ハ實際ノ狀況ニ顧ミ正教員ノ不足ヲ補充スルカ又已ムヲ得スシテ設ケラレタルモノナルモ兒童教育上ノ影響ヨリ觀レハ毫モ正教員ト異ナルモノニアラス然ルニ從來其ノ進退ハ郡市長ヲシテ之ヲ行ハシメタルヲ以テ之ヲ正准教員ニ比スレハ著シク權衡ヲ失スルノミナラス代用教員ノ勤績期間ハ頗ル短クシテ交迭頻繁ナルカ爲教育上ノ影響モ亦實ニ憂フヘキモノアリ是レ今回代用教員ノ進退ニ關スル規定ヲ改正シ其ノ進退ハ府縣知事ヲシテ之ヲ掌ラシメ以テ一層其ノ選任ヲ慎マシメ優良ナル人物ヲ得テ教育ノ改善ヲ期セントスル所以ナリ地方長官ハ宜シク此ノ旨ヲ體シ一方ニ於テ代用教員ノ入選ヲ慎ムト同時ニ地方經濟ノ狀況ニ應シ成ルヘク其ノ俸給額ヲ増シ適當ノ人物ヲ得ルニ努ムルト共ニ他方ニ於テハ正教員補充ニ關シ益々其ノ施設ヲ進メ速ニ其ノ不足ヲ補ヒ以テ小學校教育改善ノ實ヲ舉ケンコトヲ期セララルヘシ

幼稚園ニ於ケル保育事項等ヲ小學校ニ於ケル教則其ノ他ノ如ク劃一ニ規定スルハ却テ保育ノ進歩發達ヲ促ス所以ニアラサルノミナラス往々ニシテ保育ノ本旨ヲ誤ルノ虞ナキヲ保セヌ又從來ノ如ク保育時數ヲ制限スルハ實際上不便ナルヲ以テ適宜之ヲ伸縮スルヲ得シムルノ要アリ尙從來ノ實驗上幼兒ノ定員ヲ増加シテ實際ノ施設ニ便ナラシムルノ必要ヲ認メタリ是レ幼稚園ニ關スル規定ヲ改正シタル所以ナリ

此ノ他小學校ノ教則、休業日、教員檢定等ニ關スル規定ニ改正ヲ加ヘタルハ要スルニ從來ノ實驗ニ微シ必要ナル改正ヲ施スト共ニ小學校教育ノ内容ノ充實改善ヲ期セントスルニ外ナラス

本大臣ハ地方長官カ施設監督宜シキヲ得小學校ノ教育ヲシテ其ノ本來ノ目的ヲ貫徹スルニ於テ益々適切ナラシメ其ノ效果ヲ舉ケ以テ今回改正ノ旨趣ニ副ハンコトヲ望ム

第四章 教科用圖書 (追録)

○高等小學校兒童用農業教科書採定 (大正元年十一月一日 靜岡縣令第十六號)

高等小學校兒童用農業教科書ヲ左ノ通採定シ大正二年四月一日ヨリ施行シ第一學年及第二學年共一時ニ之ヲ使用セシム

明治四十年靜岡縣令第四十一號ハ大正二年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

書名	冊數	著者	發行	定價
新定 農業教科書	卷二 二冊	靜岡縣教育協會	吉見義次	卷一 金拾八錢 卷二 金拾八錢

[番六二一話電長]

新新流行洋服
調進所



靜岡 辻洋服店

[番六九九一京東座口替振]

第六編

普通教育 (二)

營業品目

卷上 ス プ リ ン グ ス	白 青 茶 襦 ア ラ イ ン ド	窓 日 覆	ス マ ノ ト グ 各 類	羅 ノ リ 物 類	織 敷 物 類	紋 リ ン ド ネ	ウ マ ニ ラ ド ン	朱 子 子 目 織	天 子 子 掛	硝 子 子 各 種	陳 列 子 各 種	寢 子 子 各 種	火 鉢 子 子 各 種	建 具 類 一 式 及 受 買
----------------------------------	---	-------------	---------------------------------	-----------------------	------------------	-----------------------	----------------------------	-----------------------	------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------------	--------------------------------------

御候仕製速=價廉且利便御等繕修張子椅
候仕可上參第次報一御拘不=少多ハ節ノ用

業品飾裝内室買販造製式一具家洋和
達用御應官諸

平利谷磯屋銀白

地番三十七町屋研市岡靜
〔番四〇〇千話電〕

和洋文具

洋式帳簿
洋畫額椽

濱松市連尺

Ⓚ 大氣堂

鐵筆毛筆膽寫版印刷器
並附屬品一式取次販賣

第一章 中學校

○中學校令 (明治三十二年二月七日 勅令第二十八號)

朕中學校令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

中學校令

- 第一條 中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス
- 第二條 北海道及府縣ニ於テハ土地ノ情况ニ應ジ一箇以上ノ中學校ヲ設置スヘシ
- 第三條 前條ノ中學校ノ經費ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔トス
- 第四條 郡市町村北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム又ハ町村學校組合ハ土地ノ情况ニ依リ須要ニシテ其ノ区域内小學教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限リ中學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第五條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ中學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第六條 土地ノ情况ニ依リ中學校ノ分校ヲ必要トスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ設置スルコトヲ得但シ一校ニ付一分校ニ限ル
- 第七條 中學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第八條 公立中學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官ノ規定ム
- 第九條 中學校ノ修業年限ハ五箇年トス但シ一箇年以内ノ補習科ヲ置クコトヲ得
- 第十條 中學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト

明治三十二年四月一日施行
沖繩縣令
自然消滅及
果北海
日北海
同ル例
令第三十
號勅令
四十二年
法發地方
海道北
號勅令
沖繩縣令
沖繩縣令
日北海
同ル例
令第三十
號勅令
四十二年
法發地方
海道北
號勅令
沖繩縣令

同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ(明治四十年勅令第二十八號ヲ以テ改正)

- 第十一條 中學校ノ學科及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣ノ規定ム
- 第十二條 中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得
- 第十三條 中學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣ノ規定ム
- 第十四條 中學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
- 第十五條 中學校教員免許狀ニ關スル規則ハ文部大臣ノ規定ム
- 第十六條 公立中學校職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外地方長官ノ規定ム(上同)
- 第十七條 中學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣ノ規定ム
- 第十八條 公立中學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得
- 第十九條 公立中學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム(上同)
- 第二十條 私立中學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム(上同)

附則

- 第十九條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス
- 第二十條 既設ノ尋常中學校分校ニシテ第六條ノ制限ニ超過スルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經テ本令施

行ノ日ヨリ五箇年以内存置スルコトヲ得

第二十一條 明治十九年勅令第十五號中學校令第十二條ニ依リ設置シタル農業工業商業等ノ專修科ハ本令施行ノ日ニ於テ現ニ在學スル生徒ノ卒業スル迄之ヲ存置スルコトヲ得

第二十二條 既設ノ公立尋常中學校ハ本令施行ノ日ヨリ中學校ト改稱ス
他ノ法令中尋常中學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然中學校ト看做ス

明治四十年勅令第二百八十號附則

本令ハ明治四十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十條ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
修業年限四箇年ノ尋常小學校ノ課程ヲ卒リタル者ノ入學ニ付テハ第十條施行後ト雖仍從前ノ例ニ依ル

○中學校令施行規則 (明治三十四年三月五日 文部省令第三號)

中學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

中學校令施行規則

- 第一章 學科及其ノ程度
- 第二章 學年、教授日數及式日
- 第三章 編 制
- 第四章 設 備
- 第五章 設置及廢止
- 第六章 入學、在學、休業、退學及懲戒
- 第七章 補 則
- 第八章 附 則

中學校令施行規則

第一章 學科及其ノ程度

第一條 中學校ノ學科目ハ修身、國語及漢文、外國語、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、實業、圖畫、唱歌、體操トス (明治四十四年文部省令第二十六號ヲ以テ本條改正)

外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

實業ハ農業、商業又ハ手工トス

法制及經濟、實業、唱歌ハ當分ノ内之ヲ缺クコトヲ得

實業ハ隨意科目トナスコトヲ得

第二條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ中等以上ノ社會ニ於ケル男子ニ必要ナル品格ヲ具ヘシメンコトヲ期シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家、社會及家族ニ對スル責務並人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國道德ノ特質ヲ悟ラシムヘシ (明治四十四年文部省令第二十六號ヲ以テ改正)

第三條 國語及漢文ハ普通ノ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ得シメ文學上ノ趣味ヲ養ヒ兼テ智徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ國文ニ及ホシ又平易ナル漢文ヲ講讀セシメ簡易ニシテ實用ニ適スル國文ヲ作ラシメ國語文法ノ大要及習字ヲ授クヘシ (上同)

第四條 外國語ハ普通ノ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ兼テ知識ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字ヨリ始メ近易ナル文章ノ讀方、譯解、話方、作文、書取ヲ授ケ進ミテハ普通ノ文章ニ及ホシ又文法ノ大要及習字ヲ授クヘシ (上同)

第五條 歴史ハ歴史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、邦國盛衰ノ由ル所ヲ理會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ兼テ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス(明治四十年省令第二十六號ヲ以テ改正)

第六條 地理ハ地球ノ形狀、運動並ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

第七條 數學ハ數量ニ關スル知識ヲ與ヘ計算ニ習熟セシメ應用ヲ自在ナラシメ兼テ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス(同上)

第八條 博物ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ理會セシメ兼テ觀察力ヲ發達セシムルヲ以テ要旨トス(明治四十四年省令第二十六號ヲ以テ本條改正)

第九條 物理及化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則並ニ人生ニ對スル關係ヲ理會セシメ兼テ觀察及思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス(同上)

第十條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民ノ生活ニ必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

第十一條 圖畫ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

第十二條 唱歌ハ歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ兼テ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

第十三條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ身體ヲ強健ナラシメ動作ヲ機敏ナラシメ快活剛毅堅忍持久ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス(明治四十四年省令第二十六號ヲ以テ本條改正)

第十四條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ(明治三十五年省令第二號ヲ以テ表中修正、同四十四年省令第二十六號ヲ以テ本條改正)

學科	身	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修	身	一	一	一	一	一

計	體操	唱歌	圖畫	實業	法制及經濟	物理及化學	博物學	數學	地理	歷史	外國語	國語及漢文
二九	三	一	一				二	四	三	六	八	
二九	三	一	一				二	四	三	七	七	
三〇	三	一	一				二	四	三	七	七	
三〇	三	一	一	(二)	四	二	四	四	三	七	六	
三〇	三	一	一	(二)	二	四	四	四	三	七	六	

農業ノ實習ハ前表ノ教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得(明治四十四年文部省令第一號、同四十四年一月文部省令第二號、同四十四年文部省令第二十六號ヲ以テ本項改正)
 法制及經濟又ハ唱歌ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ便宜他ノ學科目ニ配當スヘシ(明治四十四年文部省令第二十六號ヲ以テ本項改正)
 實業ノ每週教授時數ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ他ノ學科目ノ每週教授時數ヲ減シテ之ニ充ツルコトヲ得(明治四十四年文部省令第一號、同四十四年一月文部省令第二號、同四十四年文部省令第二十六號ヲ以テ本項改正)

實業ノ每週教授時數ヲ増加シ又ハ第三學年ヨリ實業ヲ課セントスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ他ノ學科目ノ每週教授時數ヲ減シテ之ニ充ツルコトヲ得(上同)
 體操ハ前表ノ教授時數ヲ三時以内増加シテ之ヲ課スルコトヲ得但シ每週教授時數ノ合計三十四時ヲ超ユルコトヲ得ス(明治三十五年文部省令第二號ヲ以テ追加、同四十四年文部省令第二十六號ヲ以テ本項改正)

第十五條 補習科ノ學科目ハ第一條ノ學科目中ニ就キ之ヲ定ムヘシ但シ土地ノ情況ニ依リ隨意科目トシテ實業ニ關スル學科目ヲ加フルコトヲ得(明治四十一年文部省令第二號ヲ以テ但書追加)
 補習科ノ各學科目ハ隨意科目ト爲スコトヲ得

第二章 學年、教授日數及式日

第十六條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

前項ニ依ル學年ノ外土地ノ情況ニ依リ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル學年ヲ置クコトヲ得(明治四十四年文部省令第一號、同四十四年文部省令第二十六號ヲ以テ本項改正)

學年ハ分テ三學期トス(上同)

補習科ニ關シテハ前三項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得(上同)

第十七條 教授日數ハ每學年二百二十日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス(上同)

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第十八條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ事由アルトキハ地方長官ハ道廳府縣立以外ノ中學校ノ休業ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ事由ヲ具シ遲滞ナク文部大臣ニ届出ツヘシ

第十九條 紀元節、天長節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編 制

第二十條 中學校ノ生徒數ハ四百人以下トス但シ特別ノ事情アル時ハ六百人マテ之ヲ増スコトヲ得

分校ノ生徒ハ三百人以下トス
補習科ノ生徒數ハ前學年ニ於テ當該學校ヲ卒業シタル者ノ數ヲ超ユルコトヲ得ス
前項ノ生徒數ハ第一項ノ生徒ニ算入セス

第二十一條 學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ之ヲ編制スヘシ
一學級ノ生徒數ハ五十人以下トス

第二學年以上ニ於ケル各學年ノ學級數ハ第一學年ノ學級數ニ超過スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス(明治三十六年文部省令 第二十八號ヲ以テ追加)

前項ノ場合ニ於テ分校ノ學級數ハ本校ノ學級數ニ算入ス(同上)

第二十二條 修身、實業、唱歌及體操ハ學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得(明治四十四年文部省令 第二十六號ヲ以テ改正)

第二十三條 分校ニハ第四學年以上ノ生徒ヲ置クコトヲ得ス

第二十四條 教員ノ數ハ五學級以下ノ學校ニ於テハ一學級毎ニ二人以上トシ五學級以上一學級ヲ加フル毎ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増スヘシ但シ一學級毎ニ一人ハ他ノ職ヲ兼テス又ハ他ノ職ヨリ兼テサルコトヲ要ス

實業ヲ課スル場合ニ於テハ前項ニ依ル員數ノ外一人以上ヲ増スヘシ體操ニ於テ擊劍及柔術ヲ加フル場合亦同シ(明治四十四年文部省令 第二十六號ヲ以テ追加)

第二十五條 中學校又ハ其ノ分校ニ於テハ校地、校舍、寄宿舎、體操場及校具ヲ備フヘシ但シ特別ノ

第四章 設 備

事情アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ寄宿舎ヲ設ケサルコトヲ得(明治三十七年文部省令第三號、同四十一年文部省令第二十六號ヲ以テ改正)

校地ハ道德上並ニ衛生上害ナキ所タルヘシ

校舍ハ教授上、管理上並ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナランコトヲ要ス(明治三十七年文部省令 第三號ヲ以テ本項改正)

第二十七條 (同上)

第二十八條 (同上)

第二十九條 (同上)

第三十條 (同上)

第三十一條 (同上)

第三十二條 (同上)

第三十三條 校具ハ圖書、器械、器具、標本、模型及表簿等トス

第三十四條 中學校又ハ其ノ分校ニ於テ備フヘキ表簿ノ種類左ノ如シ

中學校ニ關係アル法令

- 一 學則、日課表、教科用圖書配當表及學校醫觀察簿
- 二 職員ノ名簿、履歷書、出勤簿並ニ擔任學科目及時間表
- 三 生徒ノ學籍簿、出席簿、身體檢査ニ關スル表及徵兵猶豫ニ關スル書類
- 四 入學試驗及學年試驗ノ問題、答案及成績表
- 五 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、器械、器具、標本、模型ノ目錄
- 六 往復書類
- 七 生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及其ノ

學年、卒業ノ年月日、入學試験ノ有無、轉學、退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ(明治三十五年文部省令第二號、同廿六)

第一項ノ表簿中生徒學籍簿ハ十五箇年以上之ヲ保存シ其ノ他ノ表簿ハ五箇年以上之ヲ保存スヘシ(明治三十六年文部省令第二十八號ヲ以テ本項改正)

第三十五條 土地ノ情況ニ依リ學校長、舍監及教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第三十六條 校舍、寄宿舎ノ建設又ハ變更ハ道廳府縣立中學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ届出ツヘク其ノ他ノ中學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ(明治三十六年文部省令第四號ヲ以テ改正)

第三十七條 (同上) 前項ニ依リ地方長官ニ於テ認可ヲ爲シタルトキハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ届出ツヘシ

第五章 設置及廢止

第三十八條 中學校又ハ其ノ分校ノ設置ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

一 名 稱

二 生徒定員

三 開校年月

四 經費及維持ノ方法

前項ノ事項ノ外公立學校ニ就キテハ地方長官ニ於テ位置ノ認可ヲ申請シ私立學校ニ就キテハ設立者ニ於テ位置ヲ具シ申請スヘシ

第一項第一號乃至第三號及位置ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
前二項ノ位置ニ關スル申請ニハ校地ノ面積、地質、屋外體操場ノ區域、面積並ニ附近ノ情況ヲ記載

シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添附スヘシ

第三十九條 中學校又ハ其ノ分校ノ廢止ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

中學校ヲ廢止シタルトキハ三十日以内ニ第二十四條第一項第四號ノ生徒學籍簿ヲ地方長官ニ提出スヘク地方長官ハ十五箇年以上之ヲ保存スヘシ監督官廳ノ命令ニ依リ中學校ヲ閉鎖シタルトキ亦同シ(明治三十六年文部省令第二十八號ヲ以テ追加)

第四十條 公立中學校ノ費用負擔者又ハ私立中學校ノ設立者ヲ變更シ、私立中學校ヲ公立中學校ニ公立中學校ヲ私立中學校ニ變更シ、若ハ分校ヲ獨立ノ中學校ト爲サントスルトキハ第三十八條第一項ノ事項ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ(明治四十四年文部省令第二十六號ヲ以テ改正)

第六章 入學、在學、休學、退學及懲戒(同上)

第四十一條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス但シ缺員アルトキハ第二學期ノ始ヨリ十日以内ニ臨時入學セシムルコトヲ得(明治四十一年文部省令第二號ヲ以テ本項改正)

前項ノ規定ハ補習科ノ生徒入學ニ關シテハ之ヲ適用セス(明治三十六年文部省令第二十八號ヲ以テ本項追加)

第五學年ニハ轉學又ハ當該學年ニ於テ退學シタル者ノ再入學ヲ除クノ外新ニ生徒ノ入學ヲ許スコトヲ得ス(明治四十一年文部省令第二號ヲ以テ本項追加)

第四十二條 第一學年入學志願者中尋常小學校ヲ卒業セサル者ニ就キテハ試験ニ依リテ其ノ學力ヲ檢定スヘシ(同上)

第一學年入學志願者中尋常小學校ヲ卒業シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許スコトヲ得尋常小學校ヲ卒業シタル者ノ數入學ヲ許スヘキ人員ニ超過スルトキハ試験ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ

第四十三條 前條第一項ノ試験ハ國語、算術、日本歴史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リテ之ヲ行フヘシ(明治四十一年文部省令第二號ヲ以テ改正)

第四十四條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齢ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リテ檢定スヘシ

第四十五條 中學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタルトキヨリ一箇年以内ニ於テ中學校ニ入學ヲ志願シタルトキハ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得(明治三十六年文部省令第二十八號ヲ以テ本項改正)

前項ノ場合ニ於テ其ノ退學シタル中學校ニ再入學ヲ志願シタル者ニ限リ試験ニ依ラサルコトヲ得(同上本項追加)

第四十六條 他ノ中學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル場合ニ限リ其ノ生徒ノ在學證明書及成績表ヲ移轉先學校ニ送附スヘシ(明治四十一年文部省令第二號ヲ以テ本項改正)

移轉先學校ニ於テハ缺員アル場合ニ限リ前項生徒ノ轉學ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ轉學ヲ許可スル生徒ハ試験ヲ行ハスシテ同一學年ニ編入スルコトヲ得

第四十七條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ學業ノ成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得(明治三十五年文部省令第二號ヲ以テ但書追加、同)

試験ハ國語及漢文、外國語、數學、實業、圖書、唱歌、體操ニ就キテハ之ヲ行ハサルコトヲ得(明治四十四年文部省令第二十六號ヲ以テ本項改正)

第四十八條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得

第四十九條 學校長ハ中學校ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第五十條 補習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者タルヘシ

補習科生徒ノ在學期間ハ中學校ヲ卒業シタル日ヨリ起算シ二箇年ヲ超ユルコトヲ得ス但シ徵兵令第二十三條ノ關係ヲ有セサルモノハ此ノ限リニアラス(明治三十六年文部省令第二十八號ヲ以テ追加同四十二年文部省令第二號ヲ以テ改正同第二十四號ヲ以テ但書追加)

補習科ヲ修了シ又ハ退學シタル者補習科ニ再入學スルトキハ其ノ修了又ハ退學前ニ於ケル補習科在學ノ期間ハ之ヲ前項ノ期間ニ算入ス(明治三十六年文部省令第二十八號ヲ以テ追加)

學校長ハ補習科ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書ヲ授與スルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引繼キ一箇年以上缺席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引繼キ一箇月以上缺席シタル者

五 出席常ナラサル者(明治四十一年文部省令第二號ヲ以テ追加)

第五十二條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十三條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第五十四條 中學校ノ學則ヲ定メタルトキハ遲滯ナク文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一 學年、學期及休業日ニ關スル事項(明治四十四年文部省令第二十六號ヲ以テ本項改正)

- 二 學科課程、教授時數ニ關スル事項
- 三 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項 (明治三十五年文部省令第二號ヲ以テ本號改正)
- 四 生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項
- 五 授業料、入學料等ニ關スル事項
- 六 寄宿舎ニ關スル事項
- 第五十五條 道廳府縣立以外ノ中學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ
- 前項ノ文書中、學校ノ設置及廢止ニ關スル申請ニ就キテハ地方長官ハ其ノ意見ヲ具スヘシ
- 第五十六條 本令中、學校長トアルハ私立學校ニ在リテハ其ノ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ包含ス

第八章 附 則

- 第五十七條 本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス
 - 第五十八條 本令施行ノ際現ニ中學校ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ其ノ生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得
 - 第五十九條 明治二十七年文部省令第七號及同第十三號ノ規定ニ依リ設ケタル中學校ノ實科ハ本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ル
 - 第六十條 明治三十二年文部省令第三號第二十三條乃至第二十五條ノ規定ニ依リ中學校ノ編制及設備ニ關シ文部大臣ノ與ヘタル認可ハ本令ノ規定ニ依リ其ノ効力ヲ失フコトナシ
 - 第六十一條 明治十九年文部省令第十四號、明治二十七年文部省令第七號、同第十三號、明治三十二年文部省令第三號、同第四號、同第十四號、同第三十三號ハ之ヲ廢止ス
- 明治四十一年文部省令第二號附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
修業年限四箇年ノ尋常小學校ノ課程ヲ卒業タル者ノ第一學年ノ入學ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

明治四十四年文部省令第二十六號附則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ中學校ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ其ノ卒業ニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

○中學校教授要目 (明治四十四年七月三十一日 文部省令第十五號)

北海道廳 府 縣

明治三十五年文部省訓令第三號中學校教授要目左ノ通改正ス地方長官ハ各中學校長ヲシテ本改正要目ニ準據シテ適切ナル教授細目ヲ定メシメ以テ各學科目教授ノ内容ヲ充實シ克ク中學教育ノ本旨ヲ貫徹センメンコトヲ期セラルヘシ

中學校教授要目

本要目實施上ノ注意

- 修身
- 國語及漢文
- 外國語
- 歷史
- 地理
- 算學

博物
物理及化學
法制及經濟
實業
農業 商業 手工
圖畫
唱歌

本要目實施上ノ注意

- 一 各學科目ヲ教授スルニハ其ノ固有ノ目的ヲ達スルコトヲカムルト共ニ互ニ聯絡補益シテ統一ヲ保
タシコトヲ要ス
- 二 本要目ニ掲クタル事項及順序ハ斟酌ヲ加フルモ妨ナシ
- 三 教授ハ漫ニ繁多ノ事項ヲ注入シ又ハ形式ニ流ルルコトナク生徒ヲシテ正確ニ理會シ應用自在ナラ
シメンコトヲ期スヘシ
- 四 教授ハ學年ノ始ニ精シクシテ其ノ終ニ粗ナルカ如キ弊ニ陥ラサランコトヲ要ス
- 五 教授用具ハ教授上差支ナキ限リ成ルヘク日用品ヲ利用シ又ハ教員自ラ製作シテ之ニ充テシコトヲ
力ムヘシ又諸學科ニ通スル用具ハ成ルヘク之ヲ兼用スヘシ

修身 第一學年

每週一時

生徒心得

學校・家庭・國家及社會ニ關聯シテ日常心得ヘキ事項ヲ教授シ生徒タルノ本分ヲ明ニ悟ラシムヘシ

教育ニ關スル勅語

勅語ノ全文ニ就キテ丁寧慎重ニ述義シ且之ヲ暗誦・暗寫セシムヘシ

作法

第二學年及第三學年

每週一時

道德ノ要領

誠實 勤勉 勇氣 忍耐 自重 廉恥 節制 身體ノ鍛鍊等

孝行 友愛等

敬愛 從順 信義 恭儉 禮節 同情 寬恕 謝恩等

忠君 愛國 奉公等

以上ノ事項ハ適切ナル例話ヲ舉ケテ平易ニ教授スヘシ

作法

第四學年及第五學年

每週一時

戊申詔書

詔書ノ全文ニ就キテ述義シ聖旨ノ存スル所ヲ知ラシムヘシ

道德ノ要領

皇位及皇室

國 國 臣民

家 祖先 親子 夫婦 兄弟・姉妹 親族 僕婢

社會合同生活

合同ノ精神 秩序 風俗 公益
職業 名譽 財產 權利・義務
人格

國 交

外國ニ對スル信義 外國人ニ對スル禮儀・交際

我國道德ノ特質

我國道德ノ由來 祖先尊崇 忠孝一致 愛國奉公

作 法

注 意

- 一 教育ニ關スル勅語ハ第二學年以上ニ於テハ每學年適宜若干ノ時間ヲ以テ復習セシムヘキノミナラス常ニ教授ノ歸趣ヲ此ニ求メ聖旨ノ存スル所ヲ切實ニ領得セシムヘシ
- 二 修身ノ教授ハ生徒ノ思想年齡ニ應セシメ又力メテ實際ノ生活ニ適切ナラシメンコトヲ要ス
- 三 本要目中責務ノ對象ヲ示セルモノニ就キテハ主トシテ之ニ對スル責務ヲ説キ且之カ實踐ニ必要ナル諸徳ノ涵養ヲ力メンコトヲ要ス
- 四 作法ヲ教授スルニハ克ク其ノ精神ノ存スル所ヲ知ラシメ應用宜シキヲ得シメンコトヲ要ス但シ之ヲ授クルニハ特ニ時間ヲ設ケス他ノ修身教授ニ於テ便宜併セ課スルモノ可ナリ
- 五 教訓ニ資スヘキ事件ノ偶發シタル時又ハ國民ノ記念スヘキ日及忠良賢哲ノ記念日等ニ於テハ適宜教訓スルヲ可トス

國語及漢文

國語及漢文ヲ國語講讀・漢文講讀・作文・文法及習字ノ五分科トス

國 語 講 讀

國語講讀ノ材料ハ普通文ヲ主トシ口語文・書牘文・韻文ヲ交フ
普通文ハ現代文ヲ主トシ近世文・近古文ヲ交フ何レモ平易ニシテ作文ノ模範トスヘキモノタルヘシ
口語文ハ簡明ニシテ方言ヲ雜フルコトナク口語ノ標準ヲ示スニ足り話方・作文ノ模範トスヘキモノタルヘシ

書牘文ハ平易ニシテ繁縟ニ失セス日用書牘文ノ模範トスヘキモノタルヘシ
韻文ハ新體詩・短歌・今樣・俳句等ニ亘リテ格調高雅ナルモノタルヘシ

右諸種ノ文章ハ我國體又民族ノ美風ヲ記シ國民性ヲ發揮スルニ足ルモノ、健全ナル思想ヲ述ヘ道義的觀念ヲ涵養スルニ足ルモノ、忠良賢哲ノ事蹟ヲ叙シ修養ニ資スヘキモノ、文學的趣味ニ富ミ心情ヲ高雅ナラシムルニ足ルモノ、又ハ日常ノ生活ニ裨益シ常識ヲ養成スルニ足ルモノ等タルヘシ

漢 文 講 讀

漢文講讀ノ材料ハ平易雅馴ニシテ成ルヘク我國ニ慣用セラルル熟語・成句等ヲ包含セルモノタルヘシ
右材料ハ句讀點・返點・送假名ヲ施シタルモノタルヘシ但シ送假名ハ高學年ニ於テハ便宜之ヲ省クコトヲ得

作 文

右材料ノ内容ノ標準ハ略シ國語講讀ノ項ニ述ヘタル所ニ據ル
作文ハ現代文ト主トシ口語文及書牘文ヲ併セ課スヘシ

文 法

第六編 普通教育 (中學校教授要目)

文法ハ主トシテ現代文ニ通有セル法則ヲ説明スヘシ

習字

習字ハ楷書・行書・草書ノ三體トシ大字及細字ヲ練習セシメ又假名ヲ併セ課スヘシ

第一學年

每週八時

國語講讀 每週四時

讀本ハ尋常小學讀本トノ聯絡ヲ圖リ現代文ヲ主トシ口語文・書牘文ヲ交ヘ間韻文ヲ加ヘテ組織セルモノタルヘシ但シ現代文・口語文ノ種類ハ記事文・敘事文トス

讀方及解釋 發音ヲ明確ニシテ句讀ヲ正シクシ假名遣・漢字ノ字畫・用法及語句・文章ノ意義ヲ領

得シテ全文ノ大意ヲ把握セシメ文意・文勢ヲ誦讀ノ上ニ表サシメ材料ニ應シテ文章ノ妙味ヲ玩味セシメ布置・結構ヲ説明シテ思想排列ノ法ヲ知ラシムヘシ

話方 主トシテ讀本所載ノ事項ニ就キ談話ヲ練習セシム其ノ際發音ニ注意シ方言訛言ヲ矯正セシムコトヲカムヘシ

暗誦 隨時適當ナル章句・文章及格言等ヲ暗誦セシムヘシ

書取 讀本若ハ讀本以外ノ語句・文章ヲ筆記セシメ假名遣ヲ正シ漢字ノ字畫・用法ヲ正確ニ

シ且速記ノ習慣ヲ養フヘシ

漢文講讀 每週二時

讀本ハ初ニ漢文ノ組織ト國語ノ組織トノ異同ヲ示セル簡單ナル句例ヲ擧ケ次テ用語平易ニシテ結構簡易ナル短篇ヲ採録セルモノタルヘシ

讀方及解釋 成ルヘク國語ノ法則ニ從ヒテ誦讀セシメ文字ノ字畫・用法ニ注意セシム且口語ト密接シテ語句・文章ノ意義ヲ領得セシムヘシ

書取 隨時熟語・成句等ヲ書取ラシメ字畫・用法ヲ正確ナラシムヘシ

作文 每週一時

主トシテ自作文ヲ課シ便宜生徒既習ノ事項ニ關聯シテ文話ヲナシ又正誤法・敷衍法・短縮法・改作法(復文)等種々ノ練習ヲ行フヘシ

自作文ノ種類ニ就キテハ記事文・敘事文ヲ主トシテ書牘文ヲ併セ課シ文體ニ就キテハ文語文ヲ主トシ口語文ヲ併セ課スヘシ

習字 每週一時

楷書・行書トシ大字・細字ヲ練習セシメ又假名ヲ併セ課スヘシ

第二學年

每週七時

國語講讀 每週三時

讀本ハ現代文ヲ主トシ近世文・口語文ヲ交ヘ間韻文・讀文ヲ加ヘテ組織セルモノタルヘシ但シ現代文・近世文・口語文ノ種類ハ記事文・敘事文及論說文トス

讀方及解釋 話方 暗誦 書取

前學年ニ準ス

漢文講讀 每週二時

讀本ハ主トシテ平易ナル記事文及敘事文ヲ採録セルモノタルヘシ

讀方及解釋 前學年ニ準シ又材料ニ應シテ文章ノ妙味ヲ玩味セシメ布置・結構ヲ説明シテ思想排列ノ法ヲ知ラシムヘシ

暗誦

隨時適當ナル章句・文章及格言等ヲ暗誦セシムヘシ

書取 前學年ニ準ス

第六編 普通教育 (中學校教授要目)

作 文 每週一時

前學年ニ準ス

習 字 每週一時

行書ヲ主トシ楷書・草書ヲモ交ヘ以テ大字・細字ヲ練習セシメ又假名ヲ併セ課スヘシ

國語 講 讀 第三學年 每週七時

讀本ハ現代文ヲ主トシ近世文ヲ交ヘ間ニ口語文・書牘文・韻文ヲ加ヘテ組織セルモノタルヘシ但シ名

家ノ平易ナル著書又ハ抄本ヲ併用スルモ妨ナシ

讀方及解釋 話方 暗誦 書取

前學年ニ準ス

漢文 講 讀 每週二時

讀本ハ程度ノ稍進メル記事文・敘事文及簡易ナル論說文ヲ主トシテ組織セルモノタルヘシ但シ名家

ノ平易ナル著書又ハ抄本ヲ併用スルモ妨ナシ

讀方及解釋 暗誦 書取

前學年ニ準ス

隨時國語ノ簡單ナル章句ヲ漢文ニ譯セシメ措辭・用字ノ法ヲ會得セシムヘシ

作 文 隔週一時

前學年ニ準ス但シ自作文ハ其ノ種類ニ就キテハ記事文・敘事文・論說文ヲ主トシ書牘文ヲ併セ課スヘ

文 法 每週一時

習 字 每週一時

成ルヘク既修ノ材料ニ基キ主トシテ現代文ニ必須ナル法則ヲ示スヘシ

行書ヲ主トシ楷書・草書ヲ交ヘ以テ細字ヲ練習セシメ又假名ヲ併セ課スヘシ

國語 講 讀 第四學年 每週六時

讀本ハ現代文・近世文ヲ主トシテ近古文ヲ交ヘ間ニ書牘文・韻文ヲ加ヘテ組織セルモノタルヘシ但シ

名家ノ平易ナル著書又ハ其ノ抄本ヲ併用スルモ妨ナシ

讀方及解釋 話方 暗誦 書取

前學年ニ準ス

漢文 講 讀 每週二時及隔週一時

讀本ハ更ニ程度ノ進メル記事文・敘事文・論說文ヲ主トシテ組織セルモノタルヘシ但シ名家ノ著書又

ハ其ノ抄本ヲ併用シ若ハ代用スルモ妨ナシ

讀方及解釋 暗誦 書取

前學年ニ準ス

作 文 隔週一時

前學年ニ準ス但シ自作文ハ文體ニ就キテハ専ラ文語文ヲ用フヘシ

文 法 每週一時

前學年ニ準ス

國語 講 讀 第五學年 每週六時

讀本ハ更ニ程度ノ進メル記事文・敘事文・論說文ヲ主トシテ組織セルモノタルヘシ但シ名家ノ著書又

ハ其ノ抄本ヲ併用シ若ハ代用スルモ妨ナシ

讀方及解釋 暗誦 書取

前學年ニ準ス

作 文 隔週一時

前學年ニ準ス但シ自作文ハ文體ニ就キテハ専ラ文語文ヲ用フヘシ

文 法 每週一時

前學年ニ準ス

國語 講 讀 第五學年 每週六時

讀本ハ更ニ程度ノ進メル記事文・敘事文・論說文ヲ主トシテ組織セルモノタルヘシ但シ名家ノ著書又

ハ其ノ抄本ヲ併用シ若ハ代用スルモ妨ナシ

讀方及解釋 暗誦 書取

前學年ニ準ス

作 文 隔週一時

前學年ニ準ス但シ自作文ハ文體ニ就キテハ専ラ文語文ヲ用フヘシ

文 法 每週一時

前學年ニ準ス

國語 講 讀 第五學年 每週六時

前學年ニ準ス

漢文 講讀 每週三時及隔週一時

前學年ニ準ス

作文 隔週一時

前學年ニ準ス

注意

- 一 各分科ノ教授ハ互ニ聯絡補益センコトヲカムヘシ
- 二 講讀ノ際ニハ常ニ他ノ學科目ト相俟チテ生徒ノ思想・感情ヲ啓發陶冶センコトヲ期スヘシ
- 三 漢字ヲ教授スル際ニハ普通ニ行ハルル字音並俗字・和字・略字等ノ字體ヲ避ケス實用ニ適センコトヲ主トシテ煩瑣ナル考證ニ趨ラサランコトヲ要ス
- 四 字畫及語意ノ異同ハ常ニ相對比シテ教授シ又其ノ語ヲ部分トセル普通ノ熟語ヲ附帶シテ教授スヘシ
- 五 故事・古語等ハ大體ノ説明ヲ與フルニ止メ其ノ出典等ニ關シテ煩瑣ナル穿鑿ニ趨ラサランコトヲ要ス
- 六 適當ノ時期ニ於テ字書ノ用法ヲ授ケ其ノ使用ニ慣レシムヘシ
- 七 作文ノ教授ハ迂遠ニ流レズ難澁ニ失セス簡明達意ノ文ヲ作ラシメンコトヲ期スヘシ
- 八 作文ハ初ハ主トシテ即題ヲ課シ學年ノ進ムニ從ヒテ漸ク之ヲ減シ宿題ト相半スルニ至ラシムヘシ
- 九 作文ハ添削ノ際批正スヘキ部分ニシテ生徒ノ自ラ訂正シ得ヘキモノハ符號ヲ付シテ推敲ヲ促シ共通セル誤謬又ハ參考ニ資スヘキ事項ハ之ヲ一般ニ知ラシムル等常ニ其ノ成績ヲ利用センコトヲカムヘシ

- 十 文法ハ特ニ其ノ時間ヲ設ケサル學年ニ在リテモ便宜講讀・作文等ニ附帶シテ之ヲ教授シ又ハ練習セシムヘシ
- 十一 文法ハ實例ニ就キテ歸納的ニ教授シ實用ニ適切ナラシメンコトヲ要ス
- 十二 習字ヲ教授スル際ニハ間架・結構ノ大要ヲ知ラシムヘシ但シ專ラ實用ニ適切ナラシメンコトヲ主トシ徒ニ繁雜ナル書論ニ涉ルコトヲ避ケヘシ
- 十三 習字ハ特ニ其ノ時間ヲ設ケサル學年ニ在リテモ作文・書取其ノ他ノ場合ニ於テ常ニ書寫ニ練熟セシメンコトヲカムヘシ

外國語

外國語ノ各分科ニ於テ授ケル事項左ノ如シ

發音 綴字

單語ニ就キテ單音・連音・「あくせん」と及文字ノ組合セテ授ケ

讀方及譯解

文章ノ聽方・讀方及解釋ヲ授ケ

話方及作文

話方ニ於テハ對話・說話ノ聽方・言方ヲ授ケ

作文ニ於テハ凡左ノ諸例ニ準シ適宜之ヲ課ス

- 一 讀方及譯解又ハ話方ニ於テ練習セル事項ヲ應用シテ記述セシムルモノ
- 一 國語ヲ外國語ニ譯セシムルモノ
- 一 記述スヘキ事項ノ梗概ヲ授ケ又ハ使用スヘキ語句ヲ示シテ之ヲ綴ラシムルモノ

一 課題ヲ與ヘ自由ニ文ヲ綴ラシムルモノ
書 取

文章ヲ臨寫セシメ又ハ之ヲ朗讀シテ筆記セシム
習 字

書寫文字ノ書方ヲ授ク
文 法

品詞論及文章論ノ一斑ヲ授ク
第一學年

每週六時

發 音 綴 字

初ハ專ラ發音・綴字ヲ授ケ後ニハ他ノ分科ニ關聯シテ之ヲ練習セシムヘシ
讀方及譯解 話方及作文 書取

近易ナル文章ニ就キテ讀方及譯解ヲ授ケ之ト關聯シテ近易ナル話方及作文・書取ヲ練習セシメ兼テ
便宜文法上ノ事項ヲ知ラシムヘシ
習 字

成ルヘク既習ノ語句・文章ニ就キテ之ヲ授クヘシ
習字ヲ授クル爲メ每週一時間以內ヲ分ツコトヲ得

讀方及譯解 話方及作文 書取
第二學年

每週七時

前學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ
習 字

前學年ニ準ス

第三學年

每週七時

讀方及譯解 話方及作文 書取

普通ノ文章ニ就キテ讀方及譯解ヲ授ケ之ト關聯シテ話方及作文・書取ヲ練習セシムヘシ
文 法

成ルヘク既習ノ材料ニ基キテ文法ニ關スル一般普通ノ法則ヲ授クヘシ
文法ヲ授クル爲メ每週一時以內ヲ分ツコトヲ得

第四學年

每週七時

讀方及譯解 話方及作文 書取

前學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ但シ話方及作文ヲ練習セシムル爲メ每週二時以
內ヲ分ツコトヲ得
文 法

前學年ニ準ス

第五學年

每週七時

讀方及譯解 話方及作文 書取

前學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ之ヲ授ケ兼テ文法上ノ練習ヲ爲サシムヘシ
注 意

一 發音ハ何レノ學年ニ於テモ之ヲ忽ニスヘカラスト雖モ初期ノ教授ニ於テ特ニ注意シテ之ヲ正ス
ヘシ
二 發音ヲ授クルニ際シ必要アルトキハ舌・齒・唇等ノ位置ヲ説明シ又ハ發音圖ヲ示スヘシ

- 三 讀方及譯解ニ於テハ場合ニ依リ實物・繪畫等ヲ用ヒ又彼我風俗・習慣等ノ相違ヲ説キテ意義ノ了解ヲ助クヘシ
- 四 解釋ハ成ルヘク精密ニ原文ノ意義ニ適應セシメ國語ヲ以テスル場合ニハ其ノ正格ナルモノヲ使用セシムヘシ
- 五 教授中教師ハ生徒ノ了解シ得ル程度ニ於テ成ルヘク外國語ヲ使用スヘシ
- 六 生徒ノ學力ニ應シ正確明瞭ニ會得セル文章ニ就キ時々暗誦ヲ課スヘシ
- 七 適當ノ時期ニ於テ豫習ヲ課シ又辭書ノ用法ヲ授ケ其ノ使用ニ慣レシムヘシ

日本歷史

第一學年

神代

神武天皇

崇神天皇

日本武尊

垂仁天皇

仁德天皇

大陵トノ交通

佛敎ノ傳來

蘇我・物部兩氏ノ爭亂

聖德太子

支那ヘノ使節派遣

每週一時

皇基ノ遠遠

任那及三國

神功皇后

文物ノ傳來

佛敎ノ興隆

蘇我氏ノ無道

大化ノ新政

蝦夷ノ服屬

新羅ノ朝鮮半島統一

律令ノ選定

奈良奠都

聖武天皇

和氣清麻呂

平安奠都

朝鮮半島ノ變遷

佛敎ノ新宗派

攝政・關白

菅原道真

地方ノ情況

平安時代ノ文物

刀伊ノ入寇

後三條天皇

源平二氏ノ隆替

美術工藝ノ進歩

百濟・高麗ノ滅亡

隼人及西南諸島ノ服屬

奈良時代ノ佛敎・文物

蝦夷ノ鎮定

渤海ノ入貢

漢文學

承平・天慶ノ亂

前九年・後三年ノ役

院政

平氏ノ滅亡

第二學年

每週二時

源 賴 朝 鎌倉幕府 守護・地頭
 承久ノ亂 北條氏ノ執權
 鎌倉時代ノ佛教・文物
 蒙古ト高麗 元 冠
 朝廷ト幕府
 北條氏ノ滅亡
 建武中興 足利尊氏ノ反 楠木正成・新田義貞等ノ勤王
 吉野ノ朝廷
 室町幕府 足利義滿
 關東管領 永享・嘉吉ノ亂
 應仁ノ亂
 室町時代ノ佛教・文物
 足利氏ノ季世 群雄割據
 明トノ交通 高麗ト朝鮮 歐羅巴人ノ來航
 織田信長
 豐臣秀吉
 豐臣秀吉ノ朝鮮征伐
 徳川家康 關ヶ原ノ戰 豊臣氏ノ滅亡
 江戸幕府 徳川家光
 海外諸國トノ交通 天主教ノ禁 島原ノ亂

徳川綱吉 徳川吉宗
 江戸時代ノ佛教・文物 西洋學術ノ傳來
 諸藩ノ治
 國史古典ノ研究 尊王論 蝦夷地ノ開拓
 露國人ノ來航 海防論 開港・攘夷ノ論 和親條約
 亞米利加合衆國使節ノ來朝 幕府ノ衰頹
 安政ノ大獄
 長州征伐
 大政奉還
 鳥羽・伏見ノ戰 明治戊辰ノ役
 現代ノ一般
 第五學年
 第二學期 每週二時
 第三學期 每週二時
 建國ノ體制
 氏族制度
 國初ヨリ平安時代末ニ至ル大勢變遷ノ概要
 朝鮮半島トノ關係 支那トノ交通
 武家政治
 鎌倉・吉野朝廷時代ニ於ケル王政復古ノ運動
 鎌倉・室町時代ニ於ケル支那及朝鮮半島トノ交通
 歐羅巴人ノ來航 通商貿易 天主教ノ傳播 邦人ノ海外渡航

江戸時代朝鮮ノ來聘

江戸時代ニ於ケル外國貿易

鎖國政策

邊境ノ事情

開港ノ顛末

幕府ノ衰亡

明治ノ新政

版籍奉還

外 交

朝鮮トノ關係

清國トノ修好

北海道ノ拓殖

地方ノ騷亂

琉球ノ處分

明治十五年京城ノ變

立憲政體ノ楷梯

内閣制度ノ創立

憲法發布

法典編纂

明治二十七八年戰役

王政復古

五箇條ノ御誓文

廢藩置縣

使節派遣

征韓論

臺灣事件

千島・樺太ノ交換

朝鮮トノ修好

明治十七年京城ノ變

國會開設ノ大詔

地方自治制ノ實施

帝國議會

條約改正

臺灣ノ經營

東京奠都

歐米文物・制度ノ採用

徵兵ノ制

天津條約

明治三十三年清國事變 日英同盟

明治三十七八年戰役

樺太及租借地ノ經營 韓國ノ保護

亞米利加合衆國トノ外交文書交換

韓國併合

學術ノ進歩

交通機關ノ擴張

世界ニ於ケル日本ノ地位及日本ト諸外國トノ現在關係

外國歴史

甲 支那ヲ中心トセル東方諸國

第三學年

每週二時

清國ノ保全 日英同盟ノ擴張

產業・貿易ノ振興

日佛・日露ノ協約

産業・貿易ノ振興

交通機關ノ擴張

世界ニ於ケル日本ノ地位及日本ト諸外國トノ現在關係

外國歴史

甲 支那ヲ中心トセル東方諸國

第三學年

上代ノ支那

夏、殷、周

春秋・戰國

周代ノ文物

秦ノ統一

漢ノ統一

武帝ノ業

前漢ノ衰亂

西域トノ交通

兩漢ノ文物

孔子

四夷ノ服屬

後漢

印度

佛敎ノ東流

三國	晉ノ統一
胡族ノ侵入	
南北朝	隋ノ統一
唐ノ創業	
玄宗ノ文物・宗教	安史ノ亂
唐ノ衰亡	南海ノ貿易
宋ノ統一	五代
渤海・遼・金ノ興廢	
宋代ノ文物	
蒙古ノ勃興	宋ノ滅亡
元ノ世祖	マルコポーロ
東西ノ交通	諸汗國ノ盛衰
元ノ衰亡	帖木兒
明ノ統一	滿洲ノ勃興
明ノ衰運	葡萄牙人ノ來航
莫臥兒帝國	通商及宣教
元・明ノ文物	
清ノ統一	
聖祖	清・露ノ交渉

邊外ノ征服 清ノ文物

英國ノ東方經略

鴉片戰役

長髮賊

露國ノ滿洲經略

露國ノ中央亞細亞經略

佛ノ印度支那經略

清國ニ對スル諸強國ノ壓迫

乙 西洋諸國

第四學年

每週二時

太古ノ東方諸國

希臘諸國

羅馬ノ建國

基督敎

日耳曼諸族ノ侵入

サラセンノ勃興

フランク王国

ノルマンノ活動

神聖羅馬帝國

西歐ノ制度及國情

歷山王 希臘ノ文物 共和制 シーザー 帝 政

西羅馬帝國ノ滅亡

回教

佛蘭西・獨逸兩國ノ分立

羅馬法王

十字軍及其ノ結果
 英・佛ノ交渉 百年戰役
 土耳其ノ勃興 東羅馬帝國ノ滅亡
 文藝ノ復興及諸發明
 西班牙ト葡萄牙 地理上ノ發見 新大陸ノ殖民
 宗教改革 和蘭ノ獨立
 三十年戰役
 ルイ十四世
 英吉利ノ革命
 西班牙繼承ノ役
 南洋及東洋ニ於ケル葡萄牙・西班牙・和蘭・英吉利
 ベートル大帝 北方戰役
 フレデリック大王 奧地利繼承ノ役 七年戰役
 波蘭ノ分割 西比利亞ノ拓殖
 殖民地ニ於ケル英・佛人ノ衝突
 亞米利加合衆國ノ獨立
 十八世紀ニ於ケル歐洲諸國ノ情勢及文物
 佛蘭西革命 ナポレオン一世
 維納列國會議 神聖同盟
 亞米利加諸國及希臘ノ獨立

第五學年

第一學期 每週二時

七月革命 二月革命
 ナポレオン三世 クリミア戰役
 伊太利ノ統一
 亞米利加合衆國ノ膨脹 南北戰爭
 普・奧戰役
 普・佛戰役 獨逸ノ統一
 露・土戰役 伯林會議
 伯林會議後ニ於ケル歐洲諸國ノ形勢
 亞細亞ニ於ケル歐米諸國ノ經營
 亞弗利加及大洋洲ニ於ケル歐米諸國ノ經營
 最近文明ノ進步

注意

- 一 歴史ヲ授クルニハ社會ノ變遷、邦國ノ盛衰ニ關スル明晰ナル概念ヲ得シメ特ニ我國體ノ特異ナル所以及大義名分ヲ明カナラシムルコトヲ主トシ徒ニ細密ナル事實ノ穿鑿ニ流レテ其ノ要領ヲ失ハサランコトヲ要ス
- 二 偉人ノ事蹟ヲ授クルニ當リテハ其ノ性行・事業及當時ノ事情ヲ詳ニシ生徒ノ德性涵養ニ資センコトヲ力ムヘシ
- 三 有名ナル詩歌・文章・傳記等ニシテ歷史上ノ事蹟ノ説明ニ資スヘキモノハ便宜之ヲ引用シテ興味ヲ助クヘシ

- 四 特ニ學校所在地方ニ關係多キ事蹟ハ稍詳ニ之ヲ授クルヲ可トス
- 五 外國歴史ハ特ニ我國ニ關係アル事蹟ニ留意シテ之ヲ授ケ又我國體ト背馳スルカ如キ事歴ニ就キテハ彼我國情ノ異ナル所以ヲ明ニシ生徒ヲシテ誤解ヲ生セサラシメンコトヲ期スヘシ
- 六 對照年表ヲ用ヒテ紀年ノ聯絡ヲ知ラシメ又成ルヘク地圖・實物・圖書・標本等ヲ示シテ生徒ノ智識ヲ確實ナラシムヘシ
- 七 地名・人名等ノ稱呼ハ必シモ此ノ要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス

地理

第一學年

每週二時

日本地理

帝國ノ位置

地方誌

尋常小學校地理トノ聯絡ヲ圖リ地方又ハ府縣ニ就キ重要ナル事項ヲ選擇シテ補習セシムヘシ

總括

山川 湖沼 平野 海岸 島嶼等

氣候及天產物

生業及物產

農業 林業 水產業 鑛業 工業 商業等

住民

人口 都會等

政治

立法 行政 司法 兵備 外交等

教育・神社・宗教

交通

道路 鐵道 航路 郵便 電信・電話等

第二學年

每週一時

滿洲地理

關東州

位置 境域 地勢 氣候 生業 交通 住民 政治 都會 沿革等

滿洲

關東州ノ項ニ準ス

世界地理

亞細亞洲

總說 位置・境域・地勢・氣候・天產物・生業・交通・住民・區劃等ノ概要ヲ授クヘシ以下之ニ倣フ

各國又ハ各地方ニ就キテ位置・境域・地勢・氣候・生業・交通・住民・政治・都會等ノ事項ヲ授クヘシ但

シ國ノ大小・我國トノ關係ノ多少ニ依リ教授事項ノ分量ヲ斟酌スヘシ以下之ニ倣フ

清國

亞細亞洲

亞細亞土耳其 亞刺比亞

イラン地方

印度支那

馬來諸島

第三學年

每週一時

世界地理

歐羅巴洲

總說

各說

露西亞

スカンデナヴィヤ半島

丁抹

獨逸

埃地利・洪牙利

瑞西

佛蘭西

白耳義

和蘭

英吉利

イペリヤ半島

伊太利

バルカン半島

第四學年

每週一時

世界地理

亞弗利加洲

前例總說記載事項ノ外更ニ政治・都會等ノ事項ヲ加フヘシ

北亞米利加洲

總說

各說

加奈陀及ニユーファウンドランド

亞米利加合衆國

墨西哥

中央亞米利加

西印度諸島

南亞米利加洲

亞弗利加洲ノ項ニ準ス

大洋洲

亞弗利加洲ノ項ニ準ス

第五學年

每週一時

自然地理概説

宇宙太陽系太陽

地球及其ノ運動
月及其ノ運動

曆

陸界ノ變動及地形

海洋ノ狀態

氣界ノ狀態 天氣及氣候

地勢氣候生物相互ノ關係

人文地理概説

自然ト人類トノ關係

住民及其ノ狀態

生業及重要産物ノ分布

交通

國家

世界主要諸國ノ國力比較

世界ニ於ケル本邦ノ地位

注意

一 地理ヲ授クルニハ成ルヘク事實ノ比較聯合ヲ力メ特ニ外國地理ヲ授クルニ當リテハ我國ノ狀態ヲ以テ比較ノ基礎ト爲スヘシ

二 學校所在府縣及之ト密接ノ關係アル地方ノ地理ハ稍々詳細ニ教授スヘシ

三 世界地理ニ於テ政治ヲ授クルニ當リテハ必要ニ應ジ其ノ沿革ノ大要ヲ説クヘシ

四 實地ニ觀察シ得ヘキ事項ハ成ルヘク直接ニ觀察セシメ其ノ他ハ常ニ地圖・標本・寫眞・繪畫・表等ニ依リ又之ヲ幻燈等ニ映寫シテ生徒ノ智識ヲ確實ナラシムヘシ

五 地圖ヲ使用スルニ當リテハ其ノ讀方ニ注意セシメ又畧圖ノ書方ニ慣レシムヘシ

六 自然地理ハ特ニ我國ニ關スル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ

七 人文地理ハ時々ノ異動ニ留意シテ之ヲ授クヘシ

八 地理ヲ授クルニハ必要ニ應ジテ歴史等トノ關係ニ留意スヘシ

九 地名ノ稱方・書方ハ必シモ此ノ要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス

算術

數學ハ算術・代數・幾何及三角法ニ分チ各學年ニ對シテ教授事項ヲ配當スト雖モ常ニ相互ノ聯絡ヲ圖

リテ教授シ特ニ算術ニ關スル複雑ナル事項ハ代數及幾何ヲ授クル場合ニ之ヲ教授スヘシ

第一學年

每週四時

算術

尋常小學校ニ於ケル算術トノ聯絡ヲ保チ整数・小數・話等數・分數・歩合算ノ補習及練習ヲ爲サシメ且比

例ヲ授クヘシ

第二學年

每週四時

代數

負數

整數

分數式	一次方程式	約數・倍數	
約分・通分	四則	分數方程式	每週五時
開平方	代數	第三學年	
開立方	幾何	二次方程式	無理式
直線	平行線		
直角	平行線		
直線	平行四邊形		
圓	第四學年		每週四時
代數	代數		
比例	比例	複比例	比例配分
比	比例	複比例	混合
級數	等比級數		
等差級數	等比級數		

比例	相似形		每週四時
代數	第五學年		
對數	代數		
步合算	幾何		
步合算	利息		
平面	二面角	立體角	
平面	二面角	立體角	
多面體	角錐		
角錐	角錐		
曲面	圓錐	球	
圓錐	圓錐	球	
三角函數	三角法		
銳角ノ三角函數	一般角ノ三角函數	二角ノ和及差ノ三角函數	
三角形ノ解法			
簡易ナル測量			
注意			

- 一 數學ハ正確ニ理會セシムルノミナラス計算ニ熟シ應用ニ慣レシメンコトヲ要ス
- 二 算術ニ於テハ暗算及筆算ノ外ニ珠算ヲ併セ課スルモ妨ナシ
- 三 幾何ニ於ケル軌跡・作圖・面積及體積ハ適當ナル場合ニ於テ便宜之ヲ授クヘシ

第一學年	植物	動物	每週二時
第二學年	植物	動物	同
第三學年	動物	生理及衛生	同
第四學年	礦物	博物通論	同

植物ノ教授ハ觀察・實驗ニ基キ適宜左ノ事項ヲ授クヘシ
凡七十八時

植物體ノ主要ナル器官 其ノ種々ナル變形

顯花植物 被子植物・裸子植物及其ノ主要ナル科ノ性質・適例
隱花植物 羊齒植物・蕨苔植物・蘚藻植物ノ性質・適例

學校所在地方ノ普通植物ノ分類
根・葉及莖ノ構造

生理 養分 吸收 同化 蒸散 呼吸 成長 運動 刺激感應 生殖

植物生活ト外界トノ關係及其ノ植物ノ形態・生理・分布上ニ於ケル影響

地理的分布 生態的分布 學校所在地方ニ於ケル分布

應用 主要ナル食用・嗜好料・藥用・有毒・建築用・工業用・觀賞用植物 醱酵・腐敗・傳染病等ノ原因トナル植物 肥料・飼養ニ用フル植物及農林業ニ有害ナル植物採集・栽培・標本調製ノ實習
凡七十八時

動物ノ教授ハ觀察・實驗ニ基キ適宜左ノ事項ヲ授クヘシ

- 脊椎動物
 - 哺乳類 鳥類 爬蟲類 兩棲類 魚類 帶頭索類 被囊類
- 節足動物
 - 昆蟲類 蜘蛛類 多足類 甲殼類
- 軟體動物
 - 頭足類 腹足類 瓣鳃類
- 蠕形動物
 - 環蟲類 圓蟲類 扁蟲類
- 棘皮動物
 - 海膽類 海星類 沙嚙類
- 腔腸動物

珊瑚類 水母類

海綿動物

原始動物

形態

動物體ノ主要ナル部分

解剖

骨骼・筋肉・内臓等ノ位置・形狀・關係 他ノ動物トノ比較

生理

消化 循環 呼吸 排泄 運動 神經作用 生殖 發生 變態

習性

習性ノ中其ノ構造トノ關係ノ顯著ナルモノ 自然現象トシテ趣味アルモノ 人生ニ密接關係アルモノ等

寄生・共生・害敵ニ對スル保護等

分布

動物ノ傳播 地理上ノ分布

應用

寄生蟲ニ對スル豫防 病毒媒介動物ニ對スル注意 農林・水產業上ノ有益動物有害動物相互ノ關係

及其ノ利用 家畜 肥料 水産物ノ利用

食料 衣料 藥品 染料 裝飾品 賞翫用等

採集・飼育・標本調製ノ實習

生理及衛生

凡六十時

人體ノ構造

骨 骼 系

骨ノ構造・聯接・機能・發育

筋 肉 系

筋肉ノ種類・構造・機能・發育

消化系

飲食物

消化器及其ノ機能

循環系

血液

循環器及其ノ機能

淋 巴

呼吸系

呼吸器及其ノ機能

發 聲 器

排 泄 系

排泄器及其ノ機能・尿

皮 膚

皮膚ノ構造及其ノ機能 脂肪

毛髮 爪

神經系

腦髓・脊髓・神經・五官及其ノ機能・發育

衛生ハ左記ノ事項ニ就キ前記ノ事項ト共ニ若ハ別ニ之ヲ授クヘシ
各機關ノ衛生並普通ノ疾患
全身ニ關スル事項

體温 新陳代謝 疲勞 恢復 發育 老衰

個人衛生

節制 清潔 運動 休息 睡眠 修學 執業

救急療法 疾患ニ對スル心得

酒・煙草ノ害

公衆衛生

居住地 交通 集會 職業 傳染病

礦物

凡五十六時

礦物ノ教授ハ左ノ材料ニ就キ觀察・實驗ニ基キ適宜其ノ形態・性質・成分又ハ組成・成因・變化・產狀・產地・應用等ヲ授ケ又鑑別ヲモ爲サシムヘシ

主要ナル岩石及造岩礦物

火成岩及其ノ造岩礦物 花崗岩 綠石 石英 長石 陶土 雲母 角閃石 附石 輝石 電氣石

橄欖岩 附蛇紋岩

石英粗面岩 安山岩 熔岩 黑曜石 浮石 火山灰 玄武岩

水成岩及其ノ造岩礦物

砂岩 礫岩 泥岩 粘板岩 凝灰岩 珪岩 石灰岩 附方解石

變成岩

片麻岩 結晶片岩

地殼構造概要

地史概要

造岩礦物以外ノ主要ナル有用礦物

金礦 銀礦 銅礦 鐵礦 鉛礦 亞鉛礦 あんちもにー鐵 錫礦 滿俺鐵 こばると鐵 くらむ鐵

水銀礦 あるみにうむ鐵 黃鐵礦 硫黃 螢石 岩鹽 石膏 明礬石 磷灰石 蛋白石 柘榴石

黃玉石 鋼玉石 金剛石 石墨 琥珀 石炭 あすふあるこ 石油

凡十六時

動植物三界ノ差異及相互ノ關係

生物體ノ構造

原形質 細胞 組織 器官

生活現象

生活作用 生活法ノ種類 外界ト生活狀態 生活狀態ト生物ノ形態及構造

蕃殖・維持

生物ノ進化

生物ノ分布

人生ト動植礦三界トノ關係

注意

- 一 本要目ニ掲ケタル事項ハ土地ノ情況ト季節トニ依リ便宜斟酌スヘシ
- 二 博物ハ區分シテ之ヲ授クト雖モ常ニ植物・動物・礦物三界ノ相互ノ關係ニ留意シ生徒ヲシテ自然界ノ統一ニ就キテ明晰ナル概念ヲ得シムヘシ
- 三 博物ハ特ニ物理及化學・地理・農業ノ學科目ト聯絡シテ之ヲ授クヘシ

物理及化學

物理

第四學年

每週二時

物性

物質・慣性 重力・質量・密度 物質ノ三態 分子力 彈性 液體ノ壓力 比重 氣體ノ壓力 表面張力・毛管現象

熱

溫度 膨脹 比熱 三態ノ變化 潛熱 濕度 熱ノ移動

運動及力

運動・速度・加速度・力 運動量 力ノ作用及反作用 力ノ釣合 力ノ能率・重心 單一器械 摩擦 宇宙引力 落體・拋射體 圓運動 仕事 えねるぎー 熱ノ仕事當量 振子 彈性體ノ振動 波動

音

第五學年

每週二時

音波 強サ 高サ 干涉 調和 音色 共鳴

光

直進 光度 反射 屈折 分散 輻射・吸收 光波

電氣及磁氣

磁石 磁氣感應 磁場 地球磁氣 二種ノ電氣 傳導 電氣感應 空中電氣 電流・電池 電流ノ強サ・電動力・抵抗 電氣分解 電流ト熱 電流ト磁氣 電流相互ノ作用 感應電流 えつくす線 放射能 電波

化學

第四學年

每週二時

空氣 酸素 窒素

水 水素

無水炭酸 炭素

鹽素・臭素・沃素・弗素及其ノ化合物

物

酸素・硫黃及其ノ化合物

窒素・磷・砒素・あんちもん及其ノ化合物

炭素・珪素・硼素及其ノ化合物

第五學年

每週二時

なとりうむ・かりうむ及其ノ化合物

あむもにうむ化合物

かるしうむ・ばりうむ及其ノ化合物

あるみにうむ及其ノ化合物

錫・鉛・蒼鉛及其ノ化合物

まぐねしうむ・亞鉛及其ノ化合物

鐵・につける・こばると・まんがん・くろむ及其ノ化合物

銅・水銀・銀・金・白金及其ノ化合物

沼氣 えちれん あせちれん 石油

あるこーる えーてる

あるでひど けとん

有機酸

脂肪・油

しあん化合物 尿素

炭水化物

こーるたーる べんせん あにりん 色素

へるべん

あるからいご

蛋白質

左ニ掲クル術語・定律・假說等ハ適當ナル場合ニ於テ之ヲ説明スヘシ但シ稍々複雑ナルモノハ成ルヘク後ニ之ヲ授クヘシ

質量不變ノ定律 定比例ノ定律 倍數比例ノ定律 氣體反應ノ定律

分子量・原子量 化學式

酸・塩基・塩

溶液ノ性質 電離

可逆反應 化學的平衡

週期律 注意

一 實驗ノ簡易ナルモノハ成ルヘク生徒ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

二 適切ナル場合ニ簡易ナル計算問題ヲ課スヘシ

三 日常生活ニ資スヘキ事項並實業上主要ナル機械・器具並製品及其ノ製方ニ就キテ説明ヲ與フル

コトヲカムヘシ

法制及經濟 制

國家 憲法 憲法發布ノ勅語

天皇 大權

臣民(服從ノ義務・納稅兵役ノ義務・選舉權ノ行使ニ關スル事項等)

帝國議會 選舉

國務大臣及樞密顧問

中央官廳

地方官廳及公共團體自治ノ本旨

行政ノ大要

訴願及行政訴訟

條約附國際關係

入 親族 家 相続 法人 附商會社
物 權利ノ得喪

所有 用役 債權 債務 擔保

罪及刑

裁判所 民刑訴訟ノ大要

法 法ノ重シスヘキ所以 法ト道德トノ關係等

經濟

生產 分業及協力 企業 機械

物價 貨幣 信用及信用證券 銀行 貿易 交通

地代 賃金 利子 利潤

消費 貯蓄 奢侈 保險

國家ノ財政 自治體ノ財政

注意

一 法制及經濟ハ理論ニ馳セスカメテ簡易實用ヲ主トスヘシ

二 法制ヲ授クルニハ法文ニ拘泥セス制度ノ精神ヲ會得セシムルコトヲ力ムヘシ

三 法制ヲ授クル際便宜登記ニ關スル事項ヲ授クヘシ

四 經濟ヲ授クル際便宜產業組合ニ關スル事項ヲ授クヘシ

農業

農業ハ土地ノ情況ニ依リ本要目中ヨリ便宜選擇分合シテ授クヘシ

第四學年及第五學年

每週二時

土壤

土壤ノ分類・組成及性質 土壤ノ微生物 土壤ノ改良

肥料

肥料ノ分類・配合・評價 主要ナル肥料ノ性質・効用・施用・貯藏等

栽培

作物 品種 選種 種子豫措 整地及其ノ用具 蕃殖法 苗床 移植・除草・中耕及其ノ用具 施肥

收穫・調製・貯藏及其ノ用具 作付順次

作物病蟲害

主ナル作物病蟲其ノ防除 主ナル害蟲並之カ防除 益蟲・益鳥及其ノ蕃殖・保護

農業經濟法規

農業ノ要素 農業組織 農業管理 農業簿記 農業ノ發達ニ必要ナル諸機關 農業法規

重要作物

左ノ作物ノ栽培・利用等 禾穀類 苧穀類 工藝作物 飼料作物等

園藝

果樹蔬菜・花卉ノ蕃殖・管理・利用等 庭園

耕地改良

測量・制圖 灌溉 排水 區畫整理 耕地整理法等

蠶業

蠶室 蠶具 蠶ノ品種 飼育 蠶病 繭ノ利用 製種 製絲等

畜産

家畜・家禽・蜜蜂等ノ品種・蕃殖・飼育・管理・疾病・利用等

造林

林樹 種苗 蕃殖及移植 保護 保安林 利用 經理一般 測量・製圖等

水産

漁船 漁具 水族並漁場・漁期 漁法 製造 養殖等

注意

- 一 農業ハ博物・物理及化學ト密接ノ關係ヲ保タシムヘシ
- 二 農業ニ在リテハ其ノ地方ノ農業學校及農事試驗場等ト密接ノ聯絡ヲ保ツコトヲカムヘシ
- 三 農業ノ教授ハ適當ノ範圍ニ於テ實驗・實習ヲ課スヘシ
- 四 教授時數ヲ増減シタル場合ニ於テハ本要目ニ掲ケタル材料ヲ斟酌シテ便宜之ヲ定ムヘシ

商業 第四學年

每週二時

論 商事要項及商業算術

緒論

商業ノ組織及經理

商業機關

手形・有價證券

賣買

賣買取引ノ條件・手續及方法
 賣買取引上重要ナル書類及之ニ關スル計算
 取引所ノ意義及種類
 取引所ニ於ケル取引ノ種類

稅關

關稅・戻稅・交附金
 船舶出入ノ手續
 貨物輸出入ノ手續
 關稅ニ關スル計算

倉庫

倉庫業者ノ業務
 倉庫證券
 貨物出入ノ手續
 倉敷料ノ計算

銀行

銀行ノ意義及種類
 普通銀行ノ業務

鐵道 銀行事務ニ關スル計算

鐵道業者及運送取扱人ノ業務
旅客及貨物取扱手續並之ニ關スル重要ナル書類
運賃手数料ニ關スル計算

海運

海運ニ依ル物品運送契約及之ニ關スル重要書類
積込及引渡ニ關スル手續
海損

保險

運賃及海損ニ關スル計算
保險ノ意義及種類
保險證券約款
保險ニ關スル手續

第五學年

每週二時

複式簿記

貸借及仕譯ノ意義
勘定科目

仕譯ノ練習

帳簿及其ノ記入法

結算

例題記帳及結算練習

主要帳及補助帳ヲ用フル場合ニ於ケル帳簿及諸表ノ種類・關係

特種ノ勘定科目

例題記帳及結算練習

單式簿記

帳簿及其ノ記入法

例題記帳練習

結算

單・複兩式ノ差異及變更ノ手續

銀行簿記

帳簿ノ種類及組織

勘定科目

事務取扱ノ順序及手續

例題記帳練習

商品

其地方ノ重要ナル商品ニ就キ生産・消費・種類・品位・製造・用途・荷造・賣買・單位等ノ大要ヲ説明スヘシ

注意

- 一 商事要項及商業算術ハ成ルヘク其ノ地方ノ商業ノ實際ト聯絡セシムヘシ
- 二 諸證券類ハ成ルヘク雛形ヲ示シ又各種ノ取引上ニ必要ナル書式ハ生徒ヲシテ實地練習セシムヘシ
- 三 簿記ハ記帳練習ニ重キヲ置キ例題ハ實際ノ取引ニ準據センコトヲ力ムヘシ
- 四 商業算術及簿記ニ於ケル計算ノ際珠算ヲ練習セシムヘシ
- 五 生徒ヲシテ其ノ地方ノ商業機關・商況・貨物ノ集散・交通機關等ニ就キ隨時實地調査セシムヘシ
- 六 地方ノ情況及教授時數ニ應シ本要目ニ掲ケタル事項ハ適宜斟酌スルヲ妨ケス

第四學年

每週二時

粘土石膏細工

普通ノ粘土細工及之ヲ石膏ニ寫スコト

材料ノ性質・用法及工具ノ使用法

竹細工

普通ノ竹細工材料ノ性質・用法及工具ノ使用法

木工

鉋削及鋸斷練習 簡易ナル日用器具等ノ製作 材料ノ性質・用法及工具ノ使用法

簡易ナル製圖

設計圖 見取圖

第五學年

每週二時

木工

簡易ナル日用器具等ノ製作 材料ノ性質・用法及工具ノ使用法

金工

簡易ナル日用器具等ノ製作 (針金細工・板金細工) 普通金屬ノ加工法 材料ノ性質・用法及工具ノ使用法

簡易ナル製圖

前學年ニ準ス

工業大意

工業ノ種類及之ニ關スル經濟・法規等

注意

一 材料ノ性質・用法及工具ノ使用法等ニ關スル事項ハ實習ニ附帶シテ之ヲ授ケ又工具ノ使用法ヲ授クル際ニハ工具ノ手入法・保存法ヲモ授クヘシ

二 圖畫科トノ聯絡ハ勿論數學・物理・化學等トノ關係ニ注意スヘシ

三 土地ノ情況ニ依リ便宜蔓細工・柳細工等ヲ加ヘ若ハ之ヲ以テ竹細工ニ代フルモ妨ナシ

四 教授時數ヲ増減シタル場合ニ於テハ本要目ニ掲ケタル材料ヲ斟酌シテ便宜之ヲ定ムヘシ

第一學年

每週一時

寫生畫 臨畫

幾何形體 器物 模型 植物

考案畫

主トシテ幾何的模様ヲ授クヘシ

寫生畫及臨畫ニテ簡易ナル著色ヲ爲サシメ考案畫ニテ配色ノ應用ヲ爲サシムルモ妨ナシ

第二學年

每週一時

寫生畫 臨畫

器物 模型 植物 動物

考案畫

幾何的模様及天然物ヨリ便化シタル模様ヲ授クヘシ

寫生畫及臨畫ニテ著色ノ練習ヲ爲サシメ考案畫ニテ配色ノ應用ヲ爲サシムヘシ

第三學年

每週一時

寫生畫 臨畫

器物 植物 動物 建築物 人物 景色

考案畫

前學年ニ準ス

色彩ニ關シテハ前學年ニ準ス

幾何畫

直線 角 圓 多角形 曲線

第四學年

每週一時

寫生畫

植物 動物 建築物 人物 景色

考案畫

前學年ニ準シ更ニ器物圖案ヲ授ケ便宜既授ノ模様ヲ之ニ應用セシムヘシ

色彩ニ關シテハ前學年ニ準ス

幾何畫

立體ノ平面圖 立面圖 側面圖

第五學年

每週一時

幾何畫

前學年ニ準シ更ニ切斷面・展開圖・等角圖ヲ加ヘ又透視畫法ノ一斑ヲモ授クヘシ

注意

一 自在畫ハ初ヨリ幾何畫ト聯絡ヲ保タシムルコトニ注意シ又時々記憶畫及見取畫ヲ練習セシムヘシ

二 色彩ヲ授クルニハ著色法ノ外六色及其ノ明色ト暗色トノ區別ヲ知ラシメ更ニ色ノ性質・對比及

調和ヲ示スヘシ

三 幾何畫ヲ授クル際ニハ成ルヘク幾何ノ知識ト聯絡ヲ保タンコトヲカムヘシ

四 生徒ヲシテ成ルヘク名作品又ハ其ノ複製品ヲ見シメ趣味ノ涵養ニ資スヘシ

唱歌

第一學年

每週一時

基本練習

發聲練習 音程練習 聽音練習 呼吸練習

歌曲

平易ナル單音唱歌

第二學年

每週一時

基本練習

前學年ニ準ス

歌 曲

單音唱歌 平易ナル輪唱歌

第三學年

每週一時

基本練習

前學年ニ準ス

歌 曲

單音唱歌 輪唱歌 平易ナル重音唱歌

注意

- 一 唱歌ノ教授ニハ總テ本譜ヲ用フヘシ
- 二 歌曲ハ歌詞・曲調共ニ高尚優雅ナルモノヲ選フヘシ
- 三 歌曲ハ其ノ數多キヲ求メスシテ十分ニ之ニ熟達セシメンコトヲ期スヘシ
- 四 歌曲ヲ授クル際ニハ便宜樂典上ノ近易ナル事項ヲ附帶シテ教授スヘシ
- 五 生徒中變聲期ニ際セル者ニハ唱歌セシメサルコトヲ得

○中學校武術教員ノ件 (明治四十五年二月十四日)

靜岡縣通牒學第一八五號ノ一

中學校ニ於ケル柔術及擊劍擔任教員ノ件ニ付別紙寫ノ通り其筋ヨリ通牒相成候條爲御心得此段及移牒候也

追テ武術教員俸給ノ件ニ關シ先般四十五年度ニ於テハ同教員トシテ一人分月額四十六圓本科教員給中ニ計上有之候旨及及通知置候處右ハ武術擔任教員ノ俸給ノミニ充當セラルヘキ趣旨ニ付御了知相成度爲念此段申添候(縣立學校以外ハ追書ヲ省ク)

記

客年文部省令第二十六號ヲ以テ中學校令施行規則中改正ヲ加ヘラレ來學年ヨリ體操科ニ於テ擊劍及柔術ヲ授クルコトヲ得ルコト、相成候ニ就テハ自然右受持教員採用ノ向モ可有之ト存候處何等教員免許狀ヲ有セスシテ專ラ擊劍及柔術ヲ受持ツヘキ教員ハ明治三十三年文部省令第十五號第三條ノ關係ニ於テハ教諭助教諭ト稱スルコトヲ得サルハ勿論ニ候ヘ其第四條ノ關係ニ於テハ當分ノ內有資格無資格何レニモ屬セサルモノトシテ御取扱相成度依命此段及通牒候也(明治四十五年一月十七日一部改正)

○每週教授時數增加及補習科ニ實業科目ヲ加ヘタル趣

旨ノ件 (明治四十一年一月十七日)

文部省普通教育學務局長通牒第四一〇號

今般文部省令第二號ヲ以テ中學校令施行規則中改正相成各學年ニ於ケル每週教授時數ヲ所定ノ時數以外ニ尙二時間以内必要ニ應シ増加スルヲ得シメラレ候間右ハ學校ノ情況ニ依リ國語漢文歷史外國語數學等ノ時間ヲ増加スルノ必要ヲ感スルモノ從來往々有之等ノ事情ヲ斟酌シ改正相成リタル義ニ付改正規定ニ依リ時間ヲ増加スル場合ニ於テハ可成之ヲ右等ノ學科目ノ中ニ充テシメラレ候様致度又今回新ニ補習科ニ於テ隨意科目トシテ實業ニ關スル學科目ヲ加フルヲ得シメラレ候處右ハ商事要項商業經濟簿記又ハ農業工業ニ關スル簡易ナル學術ヲ授ケ中學校卒業後直ニ出テ、實地ノ業務ニ就カントスル者ノ爲ニ其業務上直接必要ナル知識ヲ得シメントスルノ趣旨ニ有之候ニ付各學校ヲシテ土地ノ情況ニ應シ適宜右規定ヲ利用シ其效果ヲ收メシムル様御獎勵相成度依命此段及通牒候也

○教授細目ヲ定ムル件 (明治三十五年三月一日)

靜岡縣通牒第三八四六號

今般文部省ニ於テ中學校教授要目ヲ編纂セラレタルニ付(貴郡立中學校長ヲシテ)之ヲ斟酌シ適當ナル

教授細目ヲ定メ以テ各學科教授ノ効果ヲ完カラシメンコトヲカメ(シメ)ラルヘク依命此段及通牒候也

(縣立中學校校長、賀茂、櫻原兩郡長宛)

追テ中學校教授要目ハ三十五年二月六日發刊官報第五千五百七十五號訓令欄ニ就キ了知セラルヘク此段申添候也

○縣立中學校學則 (明治三十四年三月三十日 靜岡縣令第三十號)

- 第一章 學科課程、教授時數、學年、學期及休業日
- 第二章 入學轉學及退學 (明治三十五年靜岡縣令第十一號ヲ以テ改正)
- 第三章 修業及卒業 (同上)
- 第四章 授業料及入學料
- 第五章 獎勵 (明治四十一年靜岡縣令第二十七號ヲ以テ改正)
- 第六章 懲戒
- 第七章 寄宿舎
- 第八章 服飾制
- 第九章 補習科
- 第十章 附則

縣立中學校學則

第一章 學科課程、教授時數、學年、學期及休業日

第一條 中學校ノ學科課程及教授時數ハ左表ノ如シ但學校長ニ於テ每週教授時數ヲ三學年以下一時、

各學年體操科ハ二時以內増加スルコトヲ得 (明治三十五年縣令第十一號ヲ以テ改正、明治四十四年縣令第百三號ヲ以テ但書改正)

學科目	學年別	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	一	生徒ニ關心シテ勸得	道德ノ要領	同上	戊申詔書 我國道德ノ特質	同上
國語	八	國語講義 漢文讀法	同上	國語講義 漢文讀法	國語講義 漢文讀法	國語講義 漢文讀法
漢文	八	國語講義 漢文讀法	同上	國語講義 漢文讀法	國語講義 漢文讀法	國語講義 漢文讀法
外國語 (英語)	六	發音練習 讀方取習 讀方取習 讀方取習	同上	同上	同上	同上
歷史	三	日本歷史	世界地理	世界地理	同上	同上
地理	三	日本地理	世界地理	世界地理	同上	同上
數學	四	算術	代數	幾何	同上	代數
博物	二	植物 動物	同上	同上	同上	同上
物理及化學					同上	同上
法制及經濟					同上	同上

圖	畫一	寫生	畫一	同上	同上	同上	同上	同上	同上
體	操四	擊劍、柔術	操四	同上	同上	同上	同上	同上	同上
計	元	元	元	元	元	元	元	元	元

第二條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
學年ハ分テ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル (明治四十四年縣令第百三號ヲ以テ改正)

第二條ノ二 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 祝日 大祭日

二 日曜日

三 夏季休業 七月二十六日ヨリ九月五日ニ至ル

四 冬季休業 十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

五 學年末休業 一週間以内(同上)

第三條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ每學年ノ始ヨリ三十日以内ニ於テ其ノ都度學校長之ヲ定ム

但シ第二學期ノ始ヨリ十日以内ニ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ (明治四十一年縣令第百二十七號ヲ以テ改正)

第四條 中學校ニ入學スルコトヲ得ヘキ者ハ身体健康品行方正ノ者タルヘシ

第五條 第一學年入學志願者中尋常小學校ヲ卒業シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許ス (明治四十四年縣令第二十號ヲ以テ改正)

尋常小學校ヲ卒業シタル者ノ數入學ヲ許可スヘキ人員ニ超過スルトキハ國語、算術ノ二科目ニ就キ

尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ試験ヲ行ヒ入學者ヲ選拔ス (明治四十四年縣令第百三號ヲ以テ改正)

第六條 入學ヲ許スヘキ生徒ノ人員及入學試験ノ期日等ハ生徒募集ノ都度之ヲ廣告ス

第七條 在學生徒ニシテ他ノ中學校ニ轉學ヲ志望スル者ハ其ノ事由ヲ具シ學校長ニ願出ソヘシ

第八條 入學志願者ハ左式ノ入學願書及履歷書ヲ差出スヘシ (明治四十五年縣令第百五十七號ヲ以テ改正)

入學願書式 (用紙左) (七號ヲ以テ書式中改正)

履歷書式 (用紙左) (三號ヲ以テ書式中改正)

入學願書
 某儀(入學志願者ノ名)御校第何學年へ入學志願ニ付御許可被成下度尤モ入學ノ上ハ御規則等堅ク相守可申候依テ別紙履歷書相添此段相願候也
 年 月 日
 住 所 (本籍地) 入學志願者 氏 名 印
 族 籍 (現住地) 職 業
 父兄若ハ後見人 氏 名 印

學校長 宛

履 歷 書

住 所 (本籍地) 族籍誰子弟等

- 學業
- 一 何年何月何府縣何郡何市(町)(村)(私)立何々小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科若クハ高等小學校ノ教科(修業年限何々年)卒業又ハ其ノ第何學年修了
 - 一 何年何月何公(私)立學校ニ於テ何科卒業若クハ其ノ第何學年修了
 - 一 何年何月ヨリ何年何月迄何地ニ於テ何某ニ就キ何學修業
- 賞罰
- 一 何年何月何々ノ廉ニヨリ何々ヨリ何々ノ賞罰ヲ受ク
 - 一 何々
- 右之通候也

氏名 年月日

年月日 氏名印

第九條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ學校長指定ノ日ニ父兄若クハ父兄ノ代理人附添出校スヘシ

第十條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ戶籍吏ノ作りタル戶籍謄本及左式ノ保證書ヲ差出スヘシ(明治四十五年號ヲ以テ改正)

保證書式(用紙美濃紙) (明治四十四年縣令第百三號ヲ以テ書式中改正)

收錢紙印

住所(本籍地) 族籍(現住地) 族籍(子弟等)

保 證 書

氏名 年月日

右今般御校へ入學被差許候ニ就テハ御規則堅ク爲相守且本人在學中ニ關スル事件ハ一切私共ニ於テ引受可申依テ保證書如此候也

年 月 日 (第十一條第二號ノ關係ヲ記入スヘシ)

住所(本籍地) 族籍(現住地) 族籍(子弟等)

保 證 人 氏 名 印

同 上

保 證 人 氏 名 印

同

保 證 人 氏 名 印

學校長宛 (同上)

第十一條 保證人ハ二名ニシテ左ノ各號ニ該當スル者ニ限ル但シ學校長ニ於テ不適當ト認メタルトキ又ハ第十三條ノ手續ヲ怠リタルトキ及學校長ノ召喚ニ應セサルコトアルトキハ之ヲ取換ヘシムルコトアルヘシ

一 一戸ヲ構ヘ相當ナル家計ヲ立ツル成年以上ノ男子ニシテ且禁治産ノ處分ヲ受ケサル者但シ内一名ハ當該學校ヨリ一里以内ニ居住スル者タルヘシ(明治三十五年縣令第十一號ヲ以テ改正)

二 父兄後見人若クハ親族或ハ父兄後見人ニ代リ生徒監督ノ責ヲ負フニ足ルヘキ者

第十二條 保證人改氏名印若クハ轉居ノ場合ハ其ノ旨速ニ學校長ニ届出ツヘシ

第十三條 保證人死亡若クハ第十一條ノ要件ヲ失ヒタルトキハ直ニ相當保證人ヲ定メ保證書ヲ差換フヘシ(明治四十四年縣令第百三號ヲ以テ改正)

第十三條ノ二 學校長ハ生徒ニシテ傷疾疾病ノ爲永ク課業ヲ關クヘシト認メタル者ニ對シ一個年未滿ノ休學ヲ許可スルコトアルヘシ

生徒ニシテ前項ニ該當シ若ハ兵役ニ服スルニヨリ休學セントスルトキハ其ノ事由及期間ヲ具シ保證

人ノ連署ヲ以テ學校長ニ願出ツヘシ但シ前項ニ該當スル者ニ在リテハ主治醫ノ診斷書ヲ添付スヘシ
(明治四十五年縣令第百三十三號ヲ以テ改正)

第十四條 生徒ハ半途ニシテ退學ヲ爲スコトヲ得ス若シ止ムコトヲ得サル事情アリテ退學セントスルトキハ保證人ノ連署ヲ以テ學校長ニ願出ツヘシ
(明治四十四年縣令第百三十三號ヲ以テ改正)

第三章 修業及卒業

第十五條 各學科目ノ成績ハ評點ヲ以テ之ヲ表シ定點ヲ一百トス但シ數學ハ算術、代數、幾何、三角法ヲ物理及化學ハ物理、化學ヲ各一學科目ト見做シ國語及漢文、英語ハ左表ノ類別ニ依リ其ノ一類ヲ一學科目ト見做ス
(明治四十四年縣令第百三十三號ヲ以テ改正)

學科	日	學科別				
		第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
國語及漢文	第一類	國語講讀	同	上	上	上
	第二類	漢文講讀	同	上	上	上
	第三類	作文	同	上	上	上
英語	第一類	發音、讀方、譯讀、會話、習字	同	上	上	上
	第二類	讀方、譯讀、會話、習字、取字	同	上	上	上
	第三類	會話、取字、習字、作文	同	上	上	上

第十六條 試驗ヲ行フ學科目ハ試驗ノ成績ニ平素ノ學業成績ヲ參酌シ試驗ヲ行ハサル學科目ハ平素ノ學業成績ヲ考查シ第一學期及第二學期ニ在リテハ學期評點ヲ、第三學期ニ在リテハ學年評點ヲ定ム

第十七條 學年間成績ハ各學科目ニ就キ學期評點ノ平均點及學年評點ノ和ヲ平分シテ之ヲ定ム
(明治四十四年縣令第百三十三號ヲ以テ改正)

第十八條 學年間成績ニ於テ各學科目五十點以上ニシテ其ノ通約點六十點以上ヲ得タル者ヲ及第トス
(同上)

第十九條 正當ノ事由アリテ試驗ニ缺席シタル者ニ對シテハ學校長ノ見込ニ依リ平素ノ學業成績ノミヲ考查シテ其ノ評點ヲ定ムルコトアルヘシ
(明治三十五年縣令第百一十一號ヲ以テ改正)

第二十條 第五學年ノ課程ヲ修了シタルモノニ授與スヘキ卒業証書式左ノ如シ
(明治三十七年縣令第五十五號ヲ以テ本條ヲ改正シ修業証書式ヲ削ル)

卒業証書式

卒業証書

族 籍

氏 名

生年月日

校 印

中學校ノ全學科ヲ履修シ正ニ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス
靜岡縣何中學校長位 動 氏

年 月 日

番 號

名 匣

第四章 授業料及入學料

第二十一條 授業料ハ一箇月金貳圓トス但シ八月分ハ之ヲ徵收セス
(明治四十三年縣令第七號ヲ以テ改正四十三年四月ヨリ施行)

第二十二條 授業料ハ學校ノ休業生徒ノ缺席休學者ハ停學ヲ命シタル場合ニ於テモ之ヲ免除セサルモ

ノトス但シ兵役ニ服スルニヨリ休學シタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス(明治四十五年縣令第二十三號ヲ以テ改正)

第二十三條 授業料ノ納期ハ毎月二十日限トス

第二十四條 納期内ニ授業料ヲ納メサルモノアルトキハ其ノ出席ヲ停止シ仍翌月二十日ヲ超ユルモ之ヲ納メサルトキハ生徒學籍簿ヨリ除キ其ノ未納ニ係ル授業料ハ保證人ヨリ徵收スルモノトス

第二十五條 入學料ハ金壹圓五拾錢トシ入學ノ際之ヲ徵收ス(明治四十三年縣令第七號ヲ以テ改正、同)

第二十六條 生徒左ノ各號ノ一ニ該當シ衆生ノ模範トスルニ足ルトキハ學校長ハ之ヲ撰拔シテ一學年間特待生ト爲スコトアルヘシ

一、品行方正ニシテ平素學業ニ勉勵シ其成績佳良ナル者

二、學業成績普通ナルモ品行方正ニシテ平素奇特ノ行爲アル者

特待生ノ數ハ學級數ト同數以內ニ於テ學校長之ヲ定ム

特待生ノ授業料ハ之ヲ免除ス

特待生ニシテ其要件ニ抵觸スルトキハ其待遇ヲ取消スモノトス

第二十七條 生徒奇特ノ行爲アリテ衆生ノ模範トスルニ足ルトキハ學校長ハ特ニ之ヲ表彰スルコトアルヘシ

第六章 懲戒

第二十八條 生徒ニ對スル懲戒ヲ分テ左ノ三種トス

一 戒 飭

二 謹 慎

三 停 學(明治四十一年縣令第二十號ヲ以テ期間ヲ削除ス)

第七章 寄宿舎

第二十九條 生徒ハ自宅又ハ學校長ノ許可ヲ得テ保證人ノ宅ヨリ通學スル者ノ外總テ寄宿舎ニ入舎セシム但シ寄宿舎滿員ノトキハ學校長ノ指揮ニ依ルヘシ(明治四十四年縣令第百三號ヲ以テ改正)

第三十條 寄宿生徒ノ學資ハ舎監ノ監理ヲ受クヘキモノトス

第八章 服制

第三十一條 生徒ノ服裝ハ左ノ如シ(明治四十四年縣令第百三號ヲ以テ表中改正)

品	目	形	狀	色	品	質
帽	佛	圓	西	形	黑(夏季ハ白色ノ日覆ヲ用フ)	羅紗
朝	章	中學ノ二字ヲ以テ組立タルモノ		金	適	宜
夏	上	衣	達摩形、黒色櫻模標ノ中心ニ中字アル鈕付	藍	鼠	霜
同	同	袴		上	衣	同
冬	上	衣	達摩形、黒色櫻模標ノ中心ニ中字アル鈕付	紺	上	衣
同	同	袴		上	衣	同
靴	短			靴	黑	革

上衣及袴ノ品質ハ本條規定ノ範圍内ニ於テ學校長之ヲ一定スルコトヲ得外套ハ紺若クハ黒羅紗ニシテ乘馬用形トシ其ノ鈕ハ冬上衣ニ同シ(明治四十四年縣令第百三號ヲ以テ改正)

第九章 附則

第十條 則

明治三十三年縣令第十八號ヲ以テ削除ス

第三十五條 明治三十三年^四告示第七十七號静岡縣中學校學則ハ之ヲ廢止ス(明治四十一年縣令第二十號ニ依リ本條廢止ス)

第三十六條 現ニ在學スル第三學年以上ノ生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ其ノ生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルモノトス(上)

明治四十四年縣令第三號改正附則

本令中第五條及第八條ノ改正ハ公布ノ日ヨリ其ノ他ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス明治四十五年四月一日日本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ對シテハ從前ノ學科目及其ノ程度ヲ斟酌シテ之ヲ課スルモノトス

明治四十五年縣令第二十三號附則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年縣令第五十七號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○補習科開始ニ關スル件 (明治三十四年四月十九日 静岡縣訓令丙第二一七號)

縣立中學校長

補習科ノ教授ヲ開始セムトスルトキハ每學年四月五日迄ニ其ノ入學スヘキ生徒數及毎日教授終始ノ時刻ヲ具シ指揮ヲ受クヘシ又其ノ毎日教授終始ノ時刻ヲ變更セムトスルトキハ之ニ准ス但シ本學年ニ限リ本文前段ノ規定ニ依ルヲ要セス
右訓令ス

○公立中學校及高等女學校授業料及入學料ノ額ニ關スル規則 (明治四十一年二月二十八日 静岡縣令第二一十號)

第一條 授業料ハ一人一ヶ月金貳圓以内トス(明治四十三年縣令第五號ヲ以テ改正)

第二條 入學料ハ一人金壹圓五拾錢以下ノ範圍内ニ於テ之ヲ徵收スルコトヲ得(上)

附 則

第三條 明治三十四年^レ静岡縣令第四十八號ハ之ヲ廢止ス

明治四十三年縣令第五號附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ施行ス

○縣立中學校教員服裝 (明治三十二年二月二十日 静岡縣訓令三第八一三號)

縣立中學校

縣立中學校教員執務上着用スヘキ服裝ニ關シ左ノ通改正ス

但明治二十八年八月學第五百八十二號訓令ニ依レル公立尋常中學校職員服ハ當分ノ内着用スルコトヲ得

(師範學校ト同シキニ付略ス)

第二章 高等女學校

○高等女學校令 (明治三十二年二月八日 勅令第三十一號)

朕高等女學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等女學校令

- 第一條 高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス
- 第二條 北海道及府縣ニ於テハ高等女學校ヲ設置スヘシ
- 第三條 前項ノ校數ハ土地ノ情況ニ應ジ文部大臣ノ指揮ヲ承ケ地方長官之ヲ定ム
- 第四條 前條ノ高等女學校ノ經費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス(明治四十三年勅令第四百二十四號ヲ以テ改正)
- 第五條 郡市町村北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限リ高等女學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第六條 郡市町村立ノ高等女學校ニシテ府縣立高等女學校ニ代用スルニ足ルヘキモノアルトキハ地方長官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ府縣費ヲ以テ相當ノ補助ヲ與ヘ第二條ノ設置ニ代フルコトヲ得
- 第七條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ高等女學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第八條 高等女學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第九條 公立高等女學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム
- 第十條 高等女學校ノ修業年限ハ四箇年トス但シ土地ノ情況ニ依リ一箇年ヲ延長スルコトヲ得(明治四十年勅令第二百八十一號ヲ以テ改正)
- 第十一條 高等女學校ニ於テハ二箇年以内ノ補習科ヲ置クコトヲ得
- 第十二條 高等女學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ(同上)
- 第十三條 高等女學校ニ於テハ主トシテ家政ニ關スル學科目ヲ修メムトスル者ノ爲ニ實科ヲ置キ又ハ實科ノミヲ置クコトヲ得(明治四十三年勅令第四百二十四號ヲ以テ本條改正)
- 第十四條 高等女學校ノ名稱ニハ實科ノ文字ヲ冠スヘシ
- 第十五條 高等女學校ニ於テハ其ノ卒業者ニシテ某學科ヲ專攻セントスル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得但シ實科ニ關シテハ此ノ限リニ在ラス
- 第十六條 高等女學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ尋常小學校卒業程度以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ(同上)
- 第十七條 實科ノ修業年限ハ左ノ例ニ依ルヘシ但シ第三號ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ延長スルコトヲ得

- 一 尋常小學校卒業程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル場合ニ於テハ四箇年
- 二 高等小學校第一學年修了程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル場合ニ於テハ三箇年
- 三 修業年限二箇年ノ高等小學校卒業程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル場合ニ於テハ二箇年(明治四十三年勅令第四百二十四號ヲ以テ本條追加)
- 第十八條 修業年限二箇年ノ實科高等女學校ノ設置ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル(同上)
- 第十九條 高等女學校ノ學科及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第二十條 高等女學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スルノ必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得
- 第二十一條 高等女學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第二十二條 高等女學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等女學校教員ノ免許ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十五條 公立高等女學校職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外地方長官之ヲ定ム(明治四十年勅令第二百八十一號ヲ以テ改正)

第十六條 高等女學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 公立高等女學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得

授業料入學料等ノ額ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム(同上本項改正)

第十七條ノ二 第二條ノ規定ハ實科高等女學校ニ之ヲ適用セス(明治四十三年勅令第四百二十四號ヲ以テ追加)

第十八條 本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ高等女學校ト稱スルコトヲ得ス

第十九條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令施行ノ日ヨリ四箇年以内第二條ノ設置ヲ延期スルコトヲ得
明治四十年勅令第二百八十一號附則

本令ハ明治四十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十條ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
修業年限三箇年ノ高等女學校ハ本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ノ卒業ニ至ル迄仍之ヲ存續スルコトヲ得
修業年限四箇年ノ尋常小學校ノ課程ヲ卒リタル者ノ入學ニ付テハ第十條施行後ト雖仍從前ノ例ニ依ル

明治四十三年勅令第四百二十四號附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ技藝專修科ニ在學スル者ノ卒業ニ至ル迄ハ技藝專修科ヲ存置スルコトヲ得

(參照)

高等女學校令(明治三十二年二月八日勅令第三十一號)抜抄
第十一條 高等女學校ニ於テハ女子ニ必要ナル技藝ヲ專修セントスル者ノ爲ニ技藝專修科ヲ置クコトヲ得
高等女學校ニ於テハ其ノ卒業生ニシテ某學科ヲ專攻セントスル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得

○高等女學校令施行規則 (明治三十四年三月二十二日 文部省令第四號)

高等女學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等女學校令施行規則

- 第一章 學科及其ノ程度
- 第二章 學年、教授日數及式日
- 第三章 編制
- 第四章 設備
- 第五章 設置及廢止
- 第六章 入學、在學、退學及懲戒
- 第七章 補則
- 第八章 附則

高等女學校令施行規則

第一條 高等女學校ノ學科目ハ修身、國語、外國語、歷史、地理、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、

音樂、體操トス(明治四十一年文部省令第
二十號ヲ以テ本條改正)

外國語ハ英語又ハ佛語トス

外國語ハ之ヲ缺キ又ハ隨意科目トナスコトヲ得

圖畫、音樂ノ一科目又ハ二科目ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得

第一項ノ學科目ノ外文部大臣ノ認可ヲ受ケ隨意科目トシテ土地ノ情況ニ依リ必要ナル學科目ヲ加フルコトヲ得

生徒身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル學科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セサルコトヲ得

第二條 修身ハ教育ニ關スル勸語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ中等以上ノ社會ニ於ケル

女子ニ必要ナル品格ヲ具ヘシメンコトヲ期シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ初ハ嘉言善行等ニ徴シ又生徒日常ノ行狀ニ因ミテ道德ノ要領ヲ教示シ又作法ヲ授ケ進ミテハ

稍ハ秩序ヲ整ヘテ自己、家族、社會及國家ニ對スル義務ヲ知ラシムヘシ

第三條 國語ハ普通ノ言語、文書ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ得シメ文學上ノ趣味ヲ

養ヒ兼テ智徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語ハ現時ノ文章ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ文章ニ及ホシ又實用簡易ナル文ヲ作ラシメ

文法ノ大要及習字ヲ授クヘシ

第四條 外國語ハ普通ノ英語又ハ佛語ヲ了解シ且之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ兼テ知識ノ増進ニ資スル

ヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字ヨリ始メ簡易ナル文章ノ讀方、譯解、書取、作文ヲ授ケ進ミテハ普通ノ文章ニ

及ホシ又文法ノ大要、會話及習字ヲ授クヘシ

第五條 歴史ハ歷史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、文化ノ由來ヲ理會セシメ特ニ我國ノ發達

ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニスルヲ以テ要旨トス

第六條 地理ハ我國ノ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事歴ヲ授ケ兼テ外國歴史ノ大要ヲ授クヘシ

地理ハ地球ノ形狀、運動並ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國及諸外國ノ國勢ヲ

知ラシムルヲ以テ要旨トス

第七條 數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ兼テ生活上必要ナル事項ヲ知ラシメ思考ヲ精確

ナラシムルヲ以テ要旨トス

第八條 算術ヲ授クヘシ又必要ニ應シ代數ノ初步及幾可ノ初步ヲ授クルコトヲ得(明治四十一年文部省令第
二十號ヲ以テ本項改正)

理科ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則並ニ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ

理會セシメ兼テ日常ノ生活ニ資スルヲ以テ要旨トス

理科ハ重要ナル植物、動物、礦物ニ關スル一般ノ知識、人體ノ構造、生理及衛生ノ大要並ニ重要ナ

ル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化合物ニ關スル知識ヲ授クヘシ

第九條 圖畫ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ

要旨トス

圖畫ハ自在畫トシ寫生畫ヲ主トシ臨畫ヲ加ヘ授ケ又時々自己ノ考案ヲ以テ畫カシムヘシ

前項ノ外幾何畫ノ初步ヲ授クルコトヲ得

第十條 家事ハ家事整理上必要ナル知識ヲ得シメ兼テ勤勉、節儉、秩序、周密、清潔ヲ尙フノ念ヲ養

フヲ以テ要旨トス

家事ハ衣食住、看病、育兒、家計簿記其ノ他一家ノ整理、經濟等ニ關スル事項ヲ授クヘシ

第十一條 裁縫ハ裁縫ニ關スル知識技能ヲ得シメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

裁縫ハ普通ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方及繕ヒ方ヲ授クヘシ
第十二條 音樂ハ音樂ニ關スル知識技能ヲ得シメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ兼テ德性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

音樂ハ單音唱歌ヲ授ケ又便宜輪唱歌及複音唱歌ヲ交ヘ樂器使用法ヲ授クヘシ
第十三條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメテ之ヲ強健ナラシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ容儀ヲ整ヘ精神ヲ快活ニシテ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尚フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ普通體操及遊戲トシ普通體操ニ於テハ矯正術、徒手體操、啞鈴體操ヲ授ケ又便宜球竿體操及豆囊體操ヲ授クヘシ

第十四條 (明治四十一年文部省令) 第二十號ヲ以テ削除

第十五條 (同上)

第十六條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ (明治四十一年文部省令第二十號ヲ以テ本條改正)

學科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	二	二	二	二	二
國語	六	六	六	五	五
外國語	三	三	三	三	三
歷史			三	二	三
地理			三	二	三
數學	二	二	二	二	二
理科	二	二	二	二	二

學科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
圖畫	一	一	一	一	一
家事				二	二
裁縫	四	四	四	四	四
音樂	二	二	二	二	二
體操	三	三	三	三	三
計	二八	二八	二八	二八	二八

修養年限ヲ延長シタルトキハ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	二	二	二	二	二
國語	六	六	六	五	五
外國語	三	三	三	三	三
歷史			三	二	二
地理			三	二	二
數學	二	二	二	二	二
理科	二	二	二	二	二
圖畫	一	一	一	一	一
家事				二	二
裁縫	四	四	四	四	四

音	二	二	二	二
體操	三	三	三	三
計	二八	二八	二八	二八

外國語、圖畫、音樂ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ便宜前二表中ノ學科目ニ配當スヘシ

裁縫ノ每週教授時數ハ六時以內増加スルコトヲ得

第一條第五項ニ依ル加設科目ニ充ツル爲各學年ノ每週教授時數ヲ六時以內増加スルコトヲ得但シ加設科目中實習ニ屬セサルモノニ充ツル爲増加スル時數ハ二時ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ外土地ノ情況ニ依リ前二表中各學科目ノ各學年ノ配當又ハ每週教授時數ヲ變更スルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ各學年每週教授時數ノ増加時數ハ二時ヲ起コルコトヲ得ス

前三項ノ規定ニ依リ每週教授時數ヲ増加スルトキハ其ノ増加時數合計六時ヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條 補習科ノ學科目ハ當該學校ノ學科目中ニ就キ之ヲ定ムヘシ但シ文部大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル他ノ學科目ヲ加フルコトヲ得(明治四十一年文部省令第一三十一號ヲ以テ本項改正)

補習科ノ各學科目ハ隨意科目ト爲スコトヲ得

第十八條 實科ノ學科目ハ修業年限四箇年ノモノ及三箇年ノモノニ在リテハ修身、國語、歴史、數學、理科及家事、裁縫、圖畫、唱歌、實業、體操トシ修業年限二箇年ノモノニ在リテハ修身、國語、數學、家事、裁縫、實業、體操トス(明治四十三年文部省令第一二三號ヲ以テ本條改正) 唱歌及實業ハ之ヲ缺キ又ハ實業ハ之ヲ隨意科目トナスコトヲ得

實科ノ每週教授時數ハ其ノ修業年限ニ依リ甲號表、乙號表又ハ丙號表ニ依ルヘシ但シ高等女學校令第十一條ノ三但書ニ依リ修業年限ヲ三箇年ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ學科目及每週教授時數ハ丙號表ニ準シ適宜之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

學科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	二	二	一	一
國語	六	六	六	六
歴史	二	二		
數學	二	二	二	二
理科及家事	二	二	三	三
裁縫	一四	一四	一八	一八
圖畫	一	一		
唱歌	二	二		
實業			三	三
體操	三	三	三	三
計	三四	三四	三六	三六

乙號表

學科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
-----	------	------	------	------

丙 號 表		第一學年		第二學年	
學科	身年	身年	身年	身年	身年
修身	二	一	一	一	一
國語	六	六	六	六	六
歷史	二				
數學	二	二	二	二	二
理科及家事	二	三	三	三	三
裁縫	一四	一八	一八	一八	一八
圖畫	一				
唱歌	二				
實業	三	三	三	三	三
體操	三	三	三	三	三
計	三四	三六	三六	三六	三六
裁縫		一八	一八	一八	一八
家事		三	三	三	三
數學		二	二	二	二
國語		六	六	六	六
修身		一	一	一	一
計		三六	三六	三六	三六

土地ノ情況ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケ每週教授時數ヲ變更シ又ハ必要ナル學科目ヲ加フルコトヲ得

第十九條 實科ノ學科目ハ第二條、第三條、第五條、第七條乃至第十三條ノ規定ニ準據シテ教授スヘシ

實業ハ實業ニ關シ生活上必要ナル知識技能ヲ得シメ兼テ勸勞ヲ尙フノ念ヲ養フヲ以テ要旨トス
實業ハ農業、工業、商業ノ中ニ就キ當該地方ニ必要ニシテ且女子ニ適切ナル事項ヲ選擇シ又成ルヘク實習ヲ課スヘシ

刺繡、造花、編物等女子ニ適切ナル手藝ハ便宜之ヲ裁縫若ハ實業ノ中ニ加設シ教授スルコトヲ得
(明治四十一年文部省令第二十號、同四十二年文部省令第二十三號ヲ以テ本條改正)

第二十條 專攻科ノ修業年限ハ二箇年又ハ三箇年トス

第二十一條 專攻科ノ學科目及其ノ程度ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 補習科及專攻科ノ每週教授時數ハ三十四時以内トス但シ實科ノ補習科ニ在リテハ三十六時マテ之ヲ増スコトヲ得
(明治四十一年文部省令第二十號、同四十二年文部省令第二十三號ヲ以テ改正)

第二十三條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
前項ニ依ル學年ノ外土地ノ情況ニ依リ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル學年ヲ置クコトヲ得

(明治四十三年文部省令
第二十三號ヲ以テ追加)

前項ノ規定ハ補習科ニ關シテハ之ヲ適用セス(同上)

第二十四條 教授日數ハ每學年二百日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十五條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ事由アルトキハ地方長官ハ道府縣立以外ノ高等女學校ノ休業ヲ命スルコトヲ得

第二十六條 紀元節、天長節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編

(明治四十一年文部省令第
二十號ヲ以テ本章改正)

第二十七條 高等女學校ノ生徒數ハ四百人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ六百人マテ之ヲ増スコトヲ得

補習科及專攻科ノ生徒數ハ前項ノ生徒數ニ算入セス

第二十八條 學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ之ヲ編制スヘシ但シ實科ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス(明治四十
三年文部
省令第二十三號
ヲ以テ但書追加)

一學級ノ生徒數ハ五十人以下トス

第二十九條 修身、裁縫、音樂、體操及隨意科目ハ教授上支障ナキ場合ニ限り學科、學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第三十條 教員ノ數ハ五學級以下ノ學校ニ於テハ一學級毎ニ二人以上トシ五學級以上一學級ヲ加フル毎ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増スヘシ但シ一學級毎ニ一人ハ他ノ職ヲ兼テス又ハ他ノ職ヨリ

兼テサルコトヲ要ス

實科ニ在リテハ特別ノ事情アル場合ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得(同上)

第四章 設

(明治四十一年文部省令第
二十號ヲ以テ本章改正)

第三十一條 高等女學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フヘシ

道府縣立高等女學校及之ニ代用スヘキ公立高等女學校ニ於テハ前項ノ外成ルヘク寄宿舎ヲ備フヘシ

第三十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ教育上並ニ衛生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條 校舍ハ教授上、管理上並ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナランコトヲ要ス

第三十四條 校具ハ圖書、器械、器具、標本、模型及表簿等トス

第三十五條 高等女學校ニ於テ備フヘキ表簿ノ種類左ノ如シ

- 一 高等女學校ニ關係アル法令
- 二 學則、日課表、教科用圖書配當表及學校醫視察簿
- 三 職員ノ名簿、履歷書、出勤簿並ニ擔任學科目及時間表
- 四 生徒ノ學籍簿、出席簿及身體檢查ニ關スル表
- 五 試驗ノ問題、答案及成績表
- 六 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算ニ關スル帳簿及圖書器械器具標本模型ノ目錄
- 七 往復書類

前項ノ表簿中生徒學籍簿ハ十ヶ年以上之ヲ保存シ其ノ他ノ表簿ハ五箇年以上之ヲ保存スヘシ

第三十六條 土地ノ情況ニ依リ學校長、舎監及教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第三十七條 校舍、寄宿舎ノ建設又ハ變更ハ道府縣立高等女學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ届

出ツヘク其ノ他ノ高等女學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
前項ニ依リ地方長官ニ於テ認可シタルトキハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ届出ツヘシ

第五章 設置及廢止 (明治四十一年文部省令第
二十號ヲ以テ本章改正)

第三十八條 高等女學校ノ設置ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

一 名 稱

二 各學科ノ修業年限

三 各學科ノ生徒定員

四 開校年月

五 經費及維持方法

前項ノ事項ノ外公立學校ニ就キテハ地方長官ニ於テ位置ノ認可ヲ申請シ私立學校ニ就キテハ設立者ニ於テ位置ヲ具シ申請スヘシ

第一項第一號乃至第四號及位置ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ第三號ノ變更ニシテ總定員ニ増減ヲ生セサル場合ニ於テハ文部大臣ニ届出ツヘシ

前二項ノ位置ニ關スル申請ニハ校地ノ面積、地質、屋外體操場ノ區域、面積並ニ附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添付スヘシ

第三十九條 高等女學校ノ廢止ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

第四十條 公立高等女學校ノ費用負擔者ヲ變更シ私立高等女學校ヲ公立高等女學校ニ公立高等女學校ヲ私立高等女學校ニ變更セントスルトキハ第三十八條第一項第一號乃至第三號第五號及變更ノ年

月日ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十條ノ二 實科高等女學校ハ高等小學校ニ併置スルコトヲ得 (明治四十三年文部省令第
二十三號ヲ以テ本條追加)

前項ノ場合ニ限リ實科高等女學校ノ修業年限ヲ二箇年トナスコトヲ得 (明治四十一年文部省令第
二十號ヲ以テ本章改正)

第六章 入學、在學、退學及懲戒 (明治四十一年文部省令第
二十號ヲ以テ本章改正)

第四十一條 第一學年入學志願者中尋常小學校ノ課程ヲ卒ラサル者ニ就キテハ試驗ニ依リテ其ノ學力ヲ檢定スヘシ

第一學年入學志願者中尋常小學校ノ課程ヲ卒リタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許スコトヲ得

第四十二條 前條第一項ノ試驗ハ國語、算術、日本歴史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リテ行フヘシ

第四十二條ノ二 高等小學校第一學年修了以上ノ程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル高等女學校實科若ハ實科高等女學校ノ入學ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ第四十二條ノ試驗學科目ニ關シテハ裁縫ヲ加フ (明治四十三年文部省令第
二十三號ヲ以テ追加)

第四十三條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齢ニ達シ相當ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項ノ學力ハ試驗ニ依リテ檢定スヘシ

第四十四條 高等女學校生徒ニシテ退校シタル者一箇年以内ニ其ノ高等女學校若ハ他ノ高等女學校ニ入學ヲ志願シタルトキハ試驗ニ依ラスシテ原學年以下ノ學年ニ入學ヲ許可スルコトヲ得

第四十五條 他ノ高等女學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認めタル場合ニ限リ其ノ生徒ノ在學證明書成績表及其ノ學校ノ學科課程表ヲ移轉先學校ニ送付スヘシ (明治四十一年文部省令第
三十一號
ヲ以テ改正)

移轉先學校ニ於テハ缺員アル場合ニ限り前項生徒ノ轉學ヲ許可スルコトヲ得

第四十六條 各學年ノ課程ヲ修了又ハ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業ヲ考查シテ之ヲ定メ又ハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

第四十七條 補習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ高等女學校ヲ卒業シタル者タルヘシ

第四十八條 實科ノ學科目中心科目又ハ數科目ヲ學修セムトスル者ハ選科生トシテ入學セシムルコトヲ得(明治四十三年文部省令第二十三號ヲ以テ改正)

第四十九條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十條 學校長ハ修業年限ノ終リニ於テ高等女學校ノ學科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第五十一條 學校長ハ左ノ各項ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 成業ノ見込ナシト認メタル者

第五十二條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第五十三條 高等女學校ノ學則ヲ定メタルトキハ遲滯ナク文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一 學年及休業日ニ關スル事項(明治四十三年文部省令第二十三號ヲ以テ改正)

二 學科課程、教授時數ニ關スル事項

三 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

四 生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項

五 授業料、入學料等ニ關スル事項

六 寄宿舎ニ關スル事項

第五十四條 道府縣立以外ノ高等女學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第五十五條 本令中、學校長トアルハ私立學校ニ在リテハ其ノ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ包含ス

第八章 附

則(明治四十一年文部省令第二十三號ヲ以テ本條改正)

第五十六條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十七條 明治三十四年文部省令第四號高等女學校令施行規則第三十七條及第三十八條ノ規定ハ本令ニ依リ効力ヲ失フコトナシ

第五十八條 第一條第五項ノ學科目ニシテ從來ノ規定ニ依リ加設セルモノハ總テ本令ニ依リ認可ヲ受ケタル者ト看做ス

明治四十三年文部省令第二十三號附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ技藝專修科ニ在學スル生徒ハ試験ヲ行ハスシテ實科ノ相當學年ニ編入スルコトヲ得前項ニ依リ實科ニ編入セラレタル生徒ニ關シテハ學科目及毎週教授時數ヲ便宜斟酌スルコトヲ得

(參照)

高等女學校令施行規則(明治三十四年三月二十二日文部省令第四號)抜抄

第十八條 技藝專修科ノ修業年限ハ二箇年乃至三箇年トス

第十九條 技藝專修科ノ學科目ハ技藝ニ關スル學科目ノ外修身、國語、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音樂、體操トス

數學、理科、圖畫ハ之ヲ缺キ又ハ隨意科目ト爲スコトヲ得

音樂ハ學習困難ナリト認メタル生徒ニハ之ヲ課セザルコトヲ得

技藝ニ關スル學科目ノ種類及各學科目ノ程度ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

○高等女學校及實科高等女學校教授要目

(明治四十四年七月二十九日)

文部省訓令第十二號) 北海道廳 府 縣

今般高等女學校及實科高等女學校教授要目左ノ通之ヲ定ム地方長官ハ宜シク各學校長ヲシテ本要目ニ準據シテ適切ナル教授細目ヲ編成セシメ以テ各學科目教授ノ内容ヲ充實シ克ク當該學校教育ノ本旨ヲ貫徹セシメンコトヲ期セラルヘシ

高等女學校及實科高等女學校教授要目

本要目實施上ノ注意

修身 國語 外國語 歷史 地理 數學

理科 圖畫

家事 裁縫

音樂、唱歌

本要目實施上ノ注意

- 一 各學科目ヲ教授スルニハ其ノ固有ノ目的ヲ達スルコトヲカムルト共ニ互ニ聯絡補益シテ統一ヲ保タンコトヲ要ス
- 二 本要目ニ掲ケタル事項及順序ハ斟酌ヲ加フルモ妨ナシ
- 三 教授ハ漫ニ繁多ノ事項ヲ注入シ又ハ形式ニ流ルルコトナク生徒ヲシテ正確ニ理會シ應用自在ナラシメ以テ實用ニ資セシメンコトヲカムヘシ
- 四 教授ハ學年ノ始ニ精シクシテ其ノ終ニ粗ナルカ如キ弊ニ陥ラザランコトヲ要ス
- 五 教授用具ハ教授上差支ナキ限り成ルヘク日用品ヲ利用シ又ハ教員自ラ製作シテ之ニ充テンコトヲカムヘシ又諸學科目ニ通スル用具ハ成ルヘク之ヲ兼用スヘシ
- 六 實科高等女學校ニ於ケル理科及家事ハ交互連結シテ之ヲ授ケテ可ナリ

高等女學校

第一學年及第二學年

每週二時

生徒心得

學校・家庭・國家及社會ニ關聯シテ日常心得ヘキ事項ヲ教授シ生徒タルノ本分ヲ明ニ悟ラシムヘシ

教育ニ關スル勅語

勅語ノ全文ニ就キテ丁寧慎重ニ述義シ且之ヲ暗誦・暗寫セシムヘシ

道德ノ要領

誠實 勤勉 貞淑 温良 忍耐 廉耻 節制 身體ノ鍛鍊等
孝行 友愛等
敬愛 從順 信義 恭儉 禮節 同情 寬恕 謝恩等
忠君 愛國等
以上ノ事項ハ適切ナル例話ヲ舉ケテ平易ニ教授スヘシ

作法

第三學年及第四學年

每週二時

戊申詔書

詔書ノ全文ニ就キテ述義シ聖旨ノ存スル所ヲ知ラシムヘシ
道德ノ要領

皇位及皇室

國體 臣民

家 祖先 父母 兄弟・姉妹 親族 僕婢

夫婦 舅姑 夫ノ兄弟・姉妹 子女

社會ノ秩序 風俗 公益 職業 名譽 財產

人格 女子ノ本分

我國道德ノ特質

我國道德ノ由來 祖先尊崇 忠孝一致 愛國奉公
作法

修業年限五箇年ノモノニ在リテハ本要目中第三學年第四學年ニ掲ケタル事項ヲ第三學年第四學年及第五學年ノ三學年ニ亘リ適宜ニ配當シテ教授スヘシ

實科高等女學校

修業年限四箇年ノモノ

第一學年及第二學年

每週二時

高等女學校第一學年及第二學年ニ準ス

第三學年及第四學年

每週一時

高等女學校第三學年及第四學年ニ準シ適宜斟酌シテ教授スヘシ

修身年限三箇年ノモノ

第一學年

每週二時

高等女學校第一學年及第二學年ニ準シ適宜斟酌シテ教授スヘシ

第二學年及第三學年

每週一時

高等女學校第三學年及第四學年ニ準シ適宜斟酌シテ教授スヘシ

修業年限二箇年ノモノ

第一學年及第二學年

每週一時

生徒心得

教育ニ關スル勅語 戊申詔書

勅語・詔書ノ全文ニ就キテ丁寧慎重ニ述義シ聖旨ノ存スル所ヲ悟ラシムヘシ

道德ノ要領

高等女學校第三學年及第四學年ニ準シ適宜斟酌シテ教授スヘシ

作法

注意

- 一 教育ニ關スル勅語ハ第一學年ニ於テ之ヲ授ケ第二學年以上ニ於テハ每學年適宜若干ノ時間ヲ以テ復習セシムヘキノミナラス常ニ教授ノ歸趣ヲ此ニ求メ聖旨ノ存スル所ヲ切實ニ領得セシムヘシ
- 二 修身ノ教授ハ生徒ノ思想年齡ニ應セシメ又力メテ實際ノ生活ニ適切ナラシメンコトヲ要ス
- 三 本要目中何レノ事項ニ就キテモ本邦古來ノ女子ノ美風ニ鑑ミテ適切ナル教授ヲ爲シ婦徳ヲ養成センコトヲ力メ殊ニ「家」ニ就キテハ意ヲ用ヒテ教授センコトヲ要ス
- 四 本要目中責務ノ對照ヲ示セルモノニ就キテハ主トシテ之ニ對スル責務ヲ説キ且之カ實踐ニ必要ナル諸徳ノ涵養ヲカメンコトヲ要ス
- 五 作法ヲ教授スルニハ克ク其ノ精神ノ存スル所ヲ知ラシメ應用宜シキヲ得シメンコトヲ要ス
- 六 教訓ニ資スヘキ事件ノ偶發シタル時又ハ國民ノ記念スヘキ日及忠良賢哲ノ記念日等ニ於テハ適宜教訓スルヲ可トス

高等女學校

講讀

講讀ノ材料ハ普通文ヲ主トシ口語文・書牘文・韻文ヲ交フ
普通文ハ現代文ヲ主トシ近世文・近古文ヲ交フ 何レモ平易ニシテ作文ノ模範トスヘキモノタルヘ

口語文ハ簡明ニシテ方言ヲ雜フルコトナク口語ノ標準ヲ示スニ足り話方・作文ノ模範トスヘキモノタルヘシ

書牘文ハ平易ニシテ繁縟ニ失セス日用書牘文ノ模範トスヘキモノタルヘシ
韻文ハ新體詩・短歌・今樣・俳句等ニ互リテ格調高雅ナルモノタルヘシ
右諸種ノ文章ハ我國體及民族ノ美風ヲ記シ國民性ヲ發揮スルニ足ルモノ、健全ナル思想ヲ述ヘ温良貞淑ノ女徳ヲ涵養スルニ足ルモノ、古今東西ノ美德善行アル女子ノ事蹟又ハ忠良賢哲ノ言行ヲ叙シ修養ニ資スヘキモノ高尚ナル趣味ニ富ミ心情ヲ優雅ナラシムヘキモノ及日常ノ生活ニ裨益シ常識ヲ養成スルニ足ルモノ等タルヘシ

作文

作文ハ現代文及書牘文ヲ主トシ口語文ヲ併セ課スヘシ

文法

文法ハ現代文ヲ通有セル法則ヲ説明スヘシ

習字

習字ハ楷書・行書・草書ノ三體及假名トシ大字・細字ヲ練習セシムヘシ但シ假名ハ主トシテ平假名ヲ授クヘシ

第一學年

每週六時

講讀

讀本ハ尋常小學校トノ聯絡ヲ圖リ現代文ヲ主トシ口語文・書牘文ヲ交ヘ間ニ韻文ヲ加ヘテ組織セルモノタルヘシ

讀方及解釋 發音ヲ明確ニシ句讀ヲ正シクシ假名遣、漢字ノ字畫・用法及語句・文章ノ意義ヲ領得シテ全文ノ大意ヲ把握セシメ文意・文勢ヲ誦讀ノ上ニ表サシメ材料ニ應シテ文章ノ妙味ヲ玩味セシメ布置・結構ヲ説明シテ思想排列ノ法ヲ知ラシムヘシ

話 方 主トシテ讀本所載ノ事項ニ就キ談話ヲ練習セシム其ノ際發音ニ注意シ方言・訛言ヲ矯正センコトヲ力ムヘシ

暗 誦 隨時適當ナル章句・文章及格言等ヲ暗誦セシムヘシ

書 取 讀本若ハ讀本以外ノ語句・文章ヲ筆記セシメ假名遣ヲ正シ漢字ノ字畫・用法ヲ正確ニシ且速記ノ習慣ヲ養フヘシ

作 文 毎週一時
主トシテ自作文ヲ課シ便宜生徒既習ノ事項ニ關聯シテ文話ヲ爲シ又正誤法・敷衍法・短縮法・改作法復文等種々ノ練習ヲ行フヘシ
自作文ハ種類ニ就キテハ記事文・敘事文・書牘文トシ文體ニ就キテハ文語文ヲ主トシ口語文ヲ併セ課スヘシ

習 字 毎週一時
楷書・行書及假名ノ大字・細字 毎週六時

講 讀 第二學年 毎週四時
前學年ニ準ス
作文及文法 毎週一時
作文

前學年ニ準ス
文 法
品詞類ノ大要 毎週一時
習 字 毎週一時
前學年ニ準ス

講 讀 第三學年 毎週五時
讀本ハ現代文ヲ主トシ近世文・口語文・書牘文ヲ交ヘ間、韻文ヲ加ヘテ組織セルモノタルヘシ
讀方及解釋 話方 暗誦 書取
前學年ニ準ス

作文及文法 毎週一時
作文

前學年ニ準ス但シ自作文ハ其ノ種類ニ就キテハ書牘文ノ比ヲ多クスヘシ
文 法
文章論ノ大要 毎週一時
習 字 毎週一時

行書・草書及假名ノ大字・細字 毎週五時
講 讀 第四學年 毎週三時

讀本ハ現代文ヲ主トシ近世文・近古文ヲ交ヘ間、書牘文・韻文ヲ加ヘテ組織セルモノタルヘシ

讀方及解釋 話方 暗誦 書取

前學年ニ準ス

作 文 每週一時

前學年ニ準ス但シ自作文ハ其ノ種類ニ就キテハ書牘文ヲ主トシ記事文・敘事文及論說文ヲ加ヘ文體ニ就キテハ專ラ文語文ヲ用フヘシ

習 字 每週一時

行書・草書及假名ノ細字

修業年限五箇年ノモノ、第五學年ニ於テハ第四學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ

實科高等女學校

講 讀

講讀ノ材料ハ普通文ヲ主トシ口語文・書牘文ヲ交フ但シ多少ノ韻文ヲ加フルモ妨ナシ

普通文ハ現代文ヲ主トシ數篇ノ近世文・近古文ヲ交フ

普通文・口語文及書牘文等ノ選擇上ノ標準ハ高等女學校教授要目ニ據ル

但シ一層實際ニ適切ナランコトニ注意シ高等女學校ニ比シテ不足セル學科目ノ材料ハ便宜之ヲ加フヘシ

作 文

高等女學校ニ準ス但シ修業年限二箇年ノモノニ在リテハ口語文ヲ缺ク

習 字

高等女學校ニ準ス

修業年限四箇年ノモノ

第一學年

每週六時

講 讀 每週四時

讀本ハ尋常小學校トノ聯絡ヲ圖リ現代文ヲ主トシ口語文・書牘文ヲ交ヘテ組織セルモノタルヘシ

讀方及解釋 話方 暗誦 書取

高等女學校第一學年ニ準ス

習 文 每週一時

習 字 每週一時

高等女學校第一學年ニ準ス

講 讀 第二學年 每週六時

第一學年ニ準ス

習 作文及文法 每週一時

習 字 每週一時

高等女學校第二學年ニ準ス

講 讀 第三學年 每週六時

讀本ハ現代文ヲ主トシ口語文・書牘文ヲ交ヘテ組織セルモノタルヘシ

讀方及解釋 話方 暗誦 書取

高等女學校第三學年ニ準ス

作文及文法 每週一時

習字 每週一時

高等女學校第三學年ニ準ス

第四學年

每週六時

講 每週四時

讀本ハ現代文ヲ主トシ書牘文ヲ交ヘ間ニ近世文・近古文ヲ加ヘテ組織セルモノタルヘシ

讀方及解釋 話方 暗誦 書取

高等女學校第四學年ニ準ス

作文 每週一時

習字 每週一時

高等女學校第四學年ニ準ス

修業年限三箇年ノモノ

第一學年乃至第三學年

每週六時

修業年限四箇年ノモノ、第二學年乃至第四學年ニ準ス

修業年限二箇年ノモノ

第一學年及第二學年

每週六時

修業年限四箇年ノモノ、第三學年及第四學年ニ準ス但シ文法ハ高等女學校第二學年及第三學年ノ要目

ニ據リ便宜講讀・作文等ニ附帶シテ教授スヘシ

注意

一 各分科ノ教授ハ互ニ聯絡補益センコトヲカムヘシ

二 講讀ノ際ニハ常ニ他ノ學科目ト相俟チテ生徒ノ思想・感情ヲ啓發陶治センコトヲ期スヘシ

三 漢字ヲ教授スル際ニハ普通ニ行ハル、字音並俗字・和字・略字等ノ字體ヲ避ケス實用ニ適センコトヲ主トシテ煩瑣ナル考證ニ趨ラサランコトヲ要ス

四 字書及語意ノ異同ハ常ニ相對比シテ教授シ又其ノ語ヲ部分トセル普通ノ熟語ヲ附帶シテ教授スヘシ

五 故事・古語等ハ大體ノ説明ヲ與フルニ止メ其ノ出典等ニ關シテ煩瑣ナル穿鑿ニ趨ラサランコトヲ要ス

六 適當ノ時期ニ於テ字書ノ用法ヲ授ケテ其ノ使用ニ慣レシムヘシ

七 作文ハ達意ヲ主トシ用語ノ爲ニ思想ヲ拘束スルノ弊ニ陥ラサラシメンコトヲ期スヘシ

八 書牘文ハ上級ニ進ムニ隨ヒ草案ヲ起サス直ニ用紙ニ認ムル習慣ヲ養フヘシ

九 作文ハ添削ノ際批正スヘキ部分ニシテ生徒ノ自ラ訂正シ得ヘキモノハ符號ヲ附シテ推敲ヲ促シ

共通セル誤謬又ハ參考ニ資スヘキ事項ハ之ヲ一般ニ知ラシムル等常ニ其ノ成績ヲ利用センコトヲカムヘシ

十 作文ハ初ハ主トシテ即題ヲ課シ學年ノ進ムニ隨ヒテ漸ク之ヲ減シ宿題ト相半スルニ至ラシムヘシ

十一 文法ハ本要目ニ示シタル順序ニ依ラス品詞論ト文章論トヲ相聯結シテ教授スルモ可ナリ

十二 文法ハ特ニ其ノ時間ヲ設ケサル學年ニ在リテモ便宜講讀・作文等ニ附帶シテ之ヲ教授シ又ハ練習セシムヘシ

十三 文法ハ實例ニ就キテ歸納的ニ教授シ實用ニ適切ナラシメンコトヲ要ス

十四 習字ヲ教授スル際ニハ間架・結構ノ大要ヲ知ラシムヘシ但シ專ラ實用ニ適切ナラシメンコトヲ

主トシ徒ニ繁雜ナル書論ニ亘ルコトヲ避クヘシ
十五 作文其ノ他書寫ノ際ニモ毎ニ習字ニ關スル注意ヲ與ヘ又普通ニ用ヒサル變體假名ヲ避クシムヘシ

外國語

高等女學校

外國語ノ各分科ニ於テ授クル事項左ノ如シ

發音 綴字

單語ニ就キテ單音・連音・「あくせん」と及文字ノ組合セテ授ク

讀方及譯解

文章ノ聽方・讀方及解釋ヲ授ク

話方及作文

話方ニ於テハ對話ノ聽方・言方ヲ授ク

作文ニ於テハ凡左ノ諸例ニ準シ適宜之ヲ課ス

一 讀方及譯解又ハ話方ニ於テ練習セル事項ヲ應用シテ記述セシムルモノ

一 國語ヲ外國語ニ譯セシムルモノ

一 記述スヘキ事項ノ梗概ヲ授ケ又ハ使用スヘキ語句ヲ示シテ之ヲ綴ラシムルモノ

文章ヲ監寫セシメ又ハ之ヲ朗讀シテ筆記セシム

習字

書寫文字ノ書方ヲ授ク

文法

他ノ分科教授ノ際便宜簡易ナル事項ヲ知ラシム

第一學年

每週三時

發音 綴字

初ハ專ラ發音・綴字ヲ授ケ後ニハ他ノ分科ニ關聯シテ之ヲ練習セシムヘシ

讀方及譯解 話方及作文 書取

近易ナル文章ニ就キテ讀方及譯解ヲ授ケ之ト關聯シテ近易ナル話方及作文・書取ヲ練習セシムヘシ

習字

成ルヘク既習ノ語句・文章ニ就キテ之ヲ授クヘシ

第二學年

每週三時

讀方及譯解 話方及作文 書取

前學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ

習字

前學年ニ準ス

第三學年及第四學年

每週三時

讀方及譯解 話方及作文 書取

前學年ニ準シ更ニ進ミタル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ

修業年限五箇年ノモノ、第五學年ニ於テハ第四學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ

一 發音ハ何レノ學年ニ於テモ之ヲ忽ニスヘカラスト雖モ初期ノ教授ニ於テハ特ニ注意シテ之ヲ正

注意

- スヘシ
- 二 發音ヲ授クルニ際シ必要アルトキハ舌・齒・唇等ノ位置ヲ説明シ又ハ發音圖ヲ示スヘシ
 - 三 綴字ヲ授クルニ際シテハ便宜羅馬字綴ヲモ授クヘシ
 - 四 讀方及譯解ニ於テハ場合ニ依リ實物・繪畫等ヲ用ヒ又彼我風俗・習慣等ノ相違ヲ説キテ意義ノ了解ヲ助クヘシ
 - 五 教授中教師ハ生徒ノ了解シ得ル程度ニ於テ成ルヘク外國語ヲ使用スヘシ
 - 六 生徒ノ學力ニ應ジ正確明瞭ニ會得セル文章ニ就キ時々暗誦ヲ課スヘシ
 - 七 適當ノ時期ニ於テ豫習ヲ課シ又辭書ノ用法ヲ授クヘシ

高等女學校

日本歷史

第一學年

每週二時

- 神代 皇基ノ遠遠
- 神武天皇 垂仁天皇
- 崇神天皇 任那及三國
- 日本武尊 神功皇后
- 三韓 文物ノ傳來
- 仁德天皇 朝鮮半島ノ變遷
- 大陸トノ交通 蘇我・物部兩氏ノ爭亂
- 佛教ノ傳來

支那ヘノ使節派遣
美術・工藝ノ進歩

- 聖德太子
- 佛教ノ興隆
- 蘇我氏ノ無道
- 大化ノ新政
- 蝦夷ノ服屬
- 朝鮮半島ノ變遷
- 奈良 奠都
- 聖武天皇 隼人及西南諸島ノ服屬
- 和氣清麻呂及廣虫 光明皇后 奈良時代ノ佛教・文物
- 平安 奠都 蝦夷ノ鎮定
- 朝鮮半島ノ變遷 渤海ノ入貢
- 佛教ノ新宗派
- 攝政・關白
- 菅原道真 承平・天慶ノ亂
- 地方ノ情況
- 平安時代ノ文物
- 刀伊ノ入寇 前九年・後三年ノ役
- 後三條天皇 僧兵
- 源平二氏ノ隆替 平氏ノ滅亡

第二學年

每週二時

源 賴 朝 鎌倉幕府
 鎌倉時代ノ佛教・文物
 蒙古ト高麗 元 寇
 朝廷ト幕府
 北條氏ノ滅亡
 建武中興 足利尊氏ノ反 楠木正成 新田義貞等ノ勤王
 吉野ノ朝廷
 室町幕府
 關東管領
 應仁ノ亂
 室町時代ノ佛教・文物
 群雄割據
 明トノ交通 高麗ト朝鮮 歐羅巴人ノ來航
 織田信長 朝鮮征伐
 豊臣秀吉 關ヶ原ノ戰 豊臣氏ノ滅亡
 徳川家康 徳川家光
 江戸幕府 天主教ノ禁 島原ノ亂
 海外諸國トノ交通 徳川吉宗
 徳川綱吉 西洋學術ノ傳來
 江戸時代ノ佛教・文物

諸藩ノ治
 國史古典ノ研究 尊王論
 露國人ノ來航 海防論 蝦夷地ノ開拓
 亞米利加合衆國使節ノ來朝 開港・攘夷ノ論 和親條約
 安政ノ大獄 幕府ノ衰頹
 長州征伐
 大政奉還
 島羽・伏見ノ戰 明治戊辰ノ役
 現代ノ一般
 第四學年 第二學期ノ後半及第三學期 每週二時
 明治維新 東京奠都
 版籍奉還 廢藩置縣
 外 交 歐米文物・制度ノ採用 徵兵ノ制
 朝鮮トノ關係 征韓論
 清國トノ修好 臺灣事件
 北海道ノ拓殖 千島・樺太ノ交換
 地方ノ騷亂
 朝鮮トノ修好
 朝鮮京城ノ變 天津條約
 内閣制度ノ創立 地方自治制ノ實施

憲法發布 帝國議會
 法典編纂 條約改正
 明治二十七八年戰役 戰後ノ經營
 明治三十三年清國事變 日英同盟
 明治三十七八年戰役
 戰後ノ經營 諸外國トノ關係
 韓國併合
 學術ノ進步 交通機關ノ擴張 産業・貿易ノ振興
 世界ニ於ケル日本ノ地位

外國歴史

第三學年

每週一時

甲 支那ヲ中心トセル東方諸國
 上代ノ支那 夏・殷・周ノ三代
 春秋・戰國 秦ノ統一
 孔子
 兩漢ノ興亡
 西域トノ交通 佛教ノ東流
 三國 晉ノ統一
 南北朝 隋ノ統一
 唐ノ興亡 五代 宋ノ統一

遊・金ノ興亡 蒙古ノ勃興 宋ノ滅亡
 元ノ衰亡 明ノ統一
 明ノ衰運 滿洲ノ勃興
 莫臥兒帝國 葡萄牙・和蘭等ノ東洋經路
 清ノ統一 葡萄牙・和蘭等ノ東洋經路
 聖祖 高宗 清・露ノ交渉
 鴉片戰役 英・佛軍ノ侵入
 長髮賊 露國ノ滿洲及中央亞細亞經路
 佛國ノ印度支那經路 清・佛戰爭
 清國ト歐米列強トノ關係

乙 西洋諸國

第一學期、第二學期ノ前半 每週二時

太古ヨリ中古ノ末ニ至ル西洋諸國ノ沿革概要
 中古末ニ於ケル地理上ノ發見
 宗教改革
 南洋及東洋ニ於ケル葡萄牙・西班牙・和蘭・英吉利
 ベーテル大帝
 フレデリック大王

殖民地ニ於ケル英・佛人ノ衝突

亞米利加合衆國ノ獨立

十八世紀ニ於ケル歐洲諸國ノ情勢

佛蘭西革命 ナポレオン一世

亞米利加諸國及希臘ノ獨立

ナポレオン三世

伊太利ノ統一

獨逸ノ統一

露・土戰役

歐洲諸國ノ形勢

亞細亞・亞非利加及大洋洲ニ於ケル歐米諸國ノ經營

最近文明ノ進歩

修業年限五箇年ノモノニ在リテハ左ノ要目ニ依ルヘシ

第一學年

每週一時

修業年限四箇年ノモノ、第一學年ニ準ス

第二學年

每週二時

修業年限四箇年ノモノ、第二學年ニ準ス

第三學年

第一學期及第二學期 每週二時

修業年限四箇年ノモノ、第三學年ニ準シテ外國歷史ノ甲支那ヲ中心トシタル東方諸國ノ部ヲ授ケ特ニ本邦ニ關スル事項、東亞ノ大勢ニ關スル事項ヲ稍詳ニ授クヘシ

第四學年

每週一時

修業年限四箇年ノモノ、第四學年第一學期及第二學期前半ニ準シテ外國歷史ノ乙西洋諸國ノ部ヲ授ケ特ニ本邦ニ關スル事項、東亞ノ大勢ニ關スル事項ヲ稍詳ニ授クヘシ

第五學年

每週一時

修業年限四箇年ノモノ、第四學年第二學期後半及第三學期ニ準ス

實科高等女學校

修業年限四箇年ノモノ

日本歷史

每週二時

修業年限二箇年ノ高等小學校ノ日本歷史ニ準シ稍精深ノ程度ニ於テ之ヲ授クヘシ

日本歷史

每週二時

修業年限三箇年ノモノ

第一學年

每週二時

高等小學校ニ於ケル既授ノ事項ト聯絡シテ授ケ維新以後ノ事蹟ハ特ニ詳ニ教授スヘシ

第二學年

每週二時

注 意

一 歷史ヲ授クルニハ社會ノ變遷、邦國ノ盛衰ニ關スル明晰ナル概念ヲ得シメ特ニ我國體ノ特異ナル所以及大義名分ヲ明カナラシムルコトヲ主トシ徒ニ細密ナル事實ノ穿鑿ニ流レテ其ノ要領ヲ失ハサランコトヲ要ス

二 偉人ノ事蹟ヲ授クルニ當リテハ其ノ性行・事業及當時ノ事情ヲ詳ニシ生徒ノ德性涵養ニ資セン

三 實科高等女學校

每週二時

修業年限四箇年ノモノ、第四學年第二學期後半及第三學期ニ準ス

實科高等女學校

每週二時

修業年限四箇年ノモノ

日本歷史

每週二時

修業年限二箇年ノ高等小學校ノ日本歷史ニ準シ稍精深ノ程度ニ於テ之ヲ授クヘシ

日本歷史

每週二時

コトヲカムヘシ

三 有名ナル詩歌・文章・傳記等ニシテ歴史上ノ事蹟ノ説明ニ資スヘキモノハ便宜之ヲ引用シテ興味ヲ助クヘシ

四 實科高等女學校ニ於テ日本歴史教授ノ際ニハ本邦ニ關係アル主要ナル外國歴史ノ事項ヲモ便宜附帶シテ教授スヘシ

五 特ニ學校所在地方ニ關係多キ事蹟ハ稍詳ニ之ヲ授クルヲ可トス

六 外國歴史ハ特ニ我國ニ關係アル事項ニ留意シテ之ヲ授ケ又我國體ト背馳スルカ如キ事歴ニ就キテハ彼我國情ノ異ナル所以ヲ明ニシ生徒ヲシテ誤解ヲ生セサラシメンコトヲ期スヘシ

七 對照年表ヲ用ヒテ紀年ノ聯絡ヲ知ラシメ又成ルヘク地圖・實物・圖畫・標本等ヲ示シテ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ

八 地名・人名等ノ稱呼ハ必シモ此ノ要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス

地理

高等女學校

第一學年

每週二時

日本地理

帝國ノ位置

地方誌

尋常小學校地理トノ聯絡ヲ圖リ地方又ハ府縣ニ就キ重要ナル事項ヲ選擇シテ補習セシムヘシ

總括勢

山川 湖沼 平野 海岸 島嶼等

氣候及天產物

生業及物產

農業 林業 水産業 鑛業 工業 商業等

住民

人口 都會等

政治

立法 行政 司法 兵備 外交等

教育・神社・宗教

交通

道路 鐵道 航路 郵便 電信・電話等

第二學年及第三學年 每週一時

滿洲地理

關東州

位置 境域 地勢 氣候 生業 交通 住民 政治 都會 沿革等

滿洲 關東州ノ項ニ準ス

世界地理

亞細亞洲

總說

位置・境域・地勢・氣候・天産物・生業・交通・住民・區劃等ノ概要ヲ授クヘシ以下之ニ倣フ

各國又ハ各地方ニ就キテ位置・境域・地勢・氣候・生業・交通・住民・政治・都會等ノ事項ヲ授クヘシ但シ國ノ大小、我國トノ關係ノ多少等ニ依リ教授事項ノ分量ヲ斟酌スヘシ以下之ニ倣フ

清國

亞細亞露西亞

亞細亞土耳其

亞刺比亞

イラン地方

印度支那

馬來諸島

歐羅巴洲

總說

各說

露西亞

スカンデナヴィヤ半島

丁抹

獨逸

奧地利・洪牙利

瑞西

佛蘭西

白耳義

和蘭

英吉利

イペリヤ半島

伊太利

バルガン半島

亞弗利加洲

前例總說記載事項ノ外更ニ政治・都會等ノ事項ヲ加フヘシ

北亞米利加洲

總說

各說

加奈陀及ニエーファウンドランド

亞米利加合衆國

墨西哥

中央亞米利加

西印度諸島

南亞米利加洲

亞弗利加洲ノ項ニ準ス

大洋洲

亞弗利加洲ノ項ニ準ス

第四學年

每週一時

地理概説

太陽系

地球及其ノ運動
月及其ノ運動

曆

陸界ノ狀態

海洋ノ狀態

氣界ノ狀態 天氣及氣候

地勢・氣候・生物相互ノ關係

自然ト人類トノ關係

住民及其ノ狀態

生業及重要產物ノ分布

交通

世界主要諸國ノ國力比較

世界ニ於ケル本邦ノ地位

修業年限五箇年ノモノ、第五學年ニ於テハ日本地理ヲ中心トシ既授ノ事項ヲ補習シテ地理ノ大要ヲ授クヘシ

注意

- 一 地理ヲ授クルニハ成クヘク事實ノ比較聯合ヲ力メ外國地理ヲ授クルニ當リテハ特ニ我國ノ狀態ヲ以テ比較ノ基礎ト爲スヘシ
- 二 學校ノ所在府縣及之ト密接ノ關係アル地方ノ地理ハ稍ニ詳細ニ教授スヘシ
- 三 世界地理ニ於テ政治ヲ授クルニ當リテハ必要ニ應ジ其ノ沿革ノ大要ヲ説クヘシ
- 四 實地ニ觀察シ得ヘキ事項ハ成ルヘク直接ニ觀察セシメ其ノ他ハ常ニ地圖・標本・寫眞・繪畫・表等ニ依リ又之ヲ幻燈等ニ映寫シテ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ
- 五 地圖ヲ使用スルニ當リテハ其ノ讀方ニ注意セシメ又略圖ノ書方ニ慣レシムヘシ
- 六 地理概説ハ特ニ我國ニ關スル事項ニ留意シテ之ヲ授ケ其ノ人文ニ關スルモノハ時々ノ異動ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
- 七 地理ヲ授クルニハ必要ニ應ジテ歴史等トノ關係ニ留意スヘシ
- 八 地名ノ稱方・書方ハ必シモ此ノ要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス

高等女學校

第一學年

每週二時

算術

整數及小數

諸等數

第二學年

每週二時

算術

約數及倍數

分 數

比 例 復 比 例

算 術

第 三 學 年 每 週 二 時

比 例 混 合

步 合 算

算 術 第 四 學 年 每 週 二 時

開 平 積

求 積

既 授 事 項 ノ 練 習 代 數 ノ 初 步 ・ 幾 何 ノ 初 步 ヲ 授 ク ル 場 合 ニ ハ 次 ノ 要 目 ニ 依 リ 第 三 學 年 以 上 ニ 於 テ 之 ヲ 授 ク ヘ シ

簡 易 ナ ル 代 數 式 及 方 程 式

幾 何 簡 易 ナ ル 平 面 圖 形 及 立 體 圖 形

修 業 年 限 五 箇 年 ノ モ ノ 、 第 五 學 年 ニ 於 テ ハ 既 授 事 項 ノ 復 習 及 補 習 ヲ 行 フ ヘ シ

實科高等女學校

修業年限四箇年ノモノ

高等女學校ニ準ス

第 一 學 年 每 週 二 時

高等女學校第一學年及第二學年ニ準シ適宜斟酌シテ教授スヘシ

第 二 學 年 每 週 二 時

高等女學校第三學年ニ準ス

第 三 學 年 每 週 二 時

高等女學校第四學年ニ準ス

修業年限二箇年ノモノ

第 一 學 年 每 週 二 時

高等女學校第一學年・第二學年及第三學年ニ準シ適宜斟酌シテ教授スヘシ

第 二 學 年 每 週 二 時

高等女學校第四學年ニ準ス

注 意

- 一 數學ハ正確ニ理會セシムルノミナラス計算ニ熟シ應用ニ慣レシメンコトヲ要ス
- 二 算術ハ小學校ニ於ケル既授事項トノ聯絡ヲ保チテ之ヲ授クヘシ
- 三 算術ニ於テハ暗算及筆算ノ外成ルヘク珠算ノ加減乗除ヲ課スヘシ
- 四 代數及幾何ハ算術トノ聯絡ヲ保チテ之ヲ教授シ特ニ代數ヲ授クル場合ニハ開平ハ之ト共ニ授ケ

幾何ヲ授クル場合ニハ求積ハ之ト共ニ授クヘシ

理科

高等女學校

第一學年及第二學年

每週二時

植物

凡四十四時

植物ノ教授ハ主要ナル植物ノ觀察・實驗ニ基キ適宜左ノ事項ヲ授クヘシ

主要器官及其ノ構造

養分 吸收 同化 呼吸 蒸散 成長 運動 生殖等

生態・分類・分布ノ大要

應用 (主要ナル食用・嗜好料・藥用・有毒・建築用・工業用・觀賞植物・肥料・飼料ニ用フル植物及農林業ニ有害ナル植物等)

標本ノ調製及植物栽培ノ實習ヲモ爲サシムヘシ

動物 凡四十四時

動物ノ教授ハ主要ナル動物ノ觀察・實驗ニ基キ適宜左ノ事項ヲ授クヘシ

外部 形態

骨骼・筋肉・內臟等ノ位置・形狀・關係 他ノ動物トノ比較

消化 循環 呼吸 排泄 運動 神經作用 發生等

寄生・共生・害敵ニ對スル保護等習性ノ大要

分類・分布ノ大要

應用 (寄生蟲ニ對スル豫防 病毒媒介動物ニ對スル注意 農林・水産業上ノ有益動物・有害動物相互)

ノ關係及其ノ利用 家畜 肥料 食料 衣料 藥品 裝飾品等
標本ノ調製及動物飼養ノ實習ヲモ爲サシムヘシ

生理及衛生 凡三十八時

人體ノ構造

骨 骼・筋 肉

消化器・飲食物

循 環 器

呼 吸 器

排 泄 器

皮 膚

腦髓・脊髓・神經・五官

體溫・新陳代謝・疲勞・恢復・發育・老衰等

衛生ハ左記ノ事項ニ就キ前記ノ事項ト共ニ教授シ又ハ別ニ之ヲ授クヘシ

各機關ノ衛生並普通ノ疾患

節制 清潔 運動 休息 睡眠 修學 執業

鑛 物 凡十八時

鑛物ノ教授ハ左ノ材料ニ就キ觀察・實驗ニ基キ適宜其ノ形態・性質・成分又ハ組成・成因・產地・應用等ヲ

授ク又鑑別ヲモ爲サシムヘシ

土

岩石附造岩鑛物

主要ナル火成岩

主要ナル水成岩

主要ナル變成岩

有用 礦物

主要ナル金屬礦物

主要ナル非金屬礦物

地殼ノ構造及變遷

博物ヲ教授スル際ニハ便宜植物・動物・礦物相互ノ關係ヲ授クヘシ

第三學年

每週二時

第四學年

每週一時

物理

凡五十四時

運動・力 重量 力ノ釣合 挺子・天秤 滑車 斜面・螺旋 摩擦 落體 宇宙引力 仕事 振子・時計

物質ノ三態 分子力 彈性 液體ノ壓力 浮力 比重 大氣ノ壓力・晴雨計 ほんぶ 毛管現象

熱・溫度・寒暖計 熱ノ移動 膨脹 比熱 三態ノ變化 潛熱 濕度 蒸氣機關

音 音ノ強サ及高サ 音色 絃・風琴管 蓄音器

光 反射・鏡 屈折・れんず 分散・ぶりすむ 吸收・色 光學機械

磁石 地球磁氣 電氣 電氣感應・起電機 雷・避雷針 電池・電流・電流計 電鈴・電信機・電話機 電

燈 電氣分解 感應電流・だいなも・發動機 わつくす線 無線電信

化學 凡五十四時

空氣 酸素 窒素

水 水素

炭酸がす 炭素

食鹽 鹽酸 漂白粉

硫黃 硫酸

硝石 硝酸 あむもにあ

磷 まつち

苛性ソーダ 炭酸ソーダ 炭酸かり 石灰

硝子 陶磁器 せめんと

普通ノ金屬及其ノ主要ナル化合物 合金

石油

澱粉 砂糖 酒 醋

せるろーす

脂肪・油 石鹼

蛋白質

煙草 茶

石炭がす こーるたーる 石炭酸 染料

修業年限五箇年ノモノニ在リテハ博物ノ内礦物ハ第三學年ニ於テ之ヲ授クヘシ

實科高等女學校

修業年限四箇年ノモノ

第一學年

每週二時

高等小學校第一學年用理科書ノ項目ニ準ス

第二學年

每週二時

高等小學校第二學年用理科書ノ項目ニ準ス

修業年限三箇年ノモノ

每週二時

高等小學校第二學年用理科書ノ項目ニ準ス

注意

- 一 高等女學校ノ要目ハ各分科ニ就キ區分シテ之ヲ掲クト雖モ適宜分合シテ之ヲ授クルモ可ナリ
- 二 理科ハ成ルヘク生徒既知ノ事實ニ關聯シテ之ヲ授ケ特ニ家事科ト相俟テテ日常生活ノ應用ニ資セシメンコトヲ期スヘシ

圖畫

高等女學校

第一學年

每週一時

寫生畫 臨畫

幾何形態 器物 模型 植物

考案畫

主トシテ幾何的模様ヲ授クヘシ

寫生畫及臨畫ニテ簡易ナル著色ヲ爲サシメ考案畫ニテ配色ノ應用ヲ爲サシムルモ妨ナシ

寫生畫 臨畫

每週一時

器物 模型 植物 動物

考案畫

幾何的模様及天然物ヨリ便化シタル模様ヲ授クヘシ

寫生畫及臨畫ニテ著色ノ練習ヲ爲サシメ考案畫ニテ配色ノ應用ヲ爲サシムヘシ

寫生畫 臨畫

每週一時

器物 植物 動物 建築物 人物 景色

考案畫

前學年ニ準ス

色彩ニ關シテハ前學年ニ準ス

寫生畫 第四學年

每週一時

植物 動物 建築物 人物 景色

考案畫

前學年ニ準シ更ニ器物圖案ヲ授ケ便宜既授ノ模様ヲ之ニ應用セシムヘシ

色彩ニ關シテハ前學年ニ準ス

修業年限五箇年ノモノノ第五學年ニ於テハ第四學年ニ準シ更ニ進ミタル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ

實科高等女學校

修業年限四箇年ノモノ

第一學年

每週一時

寫生 書 臨 畫

幾何形態 器物 模型 植物 動物

考案 畫

幾何的模様及天然物ヨリ便化シタル模様ヲ授クヘシ

寫生畫及臨畫ニテ著色ノ練習ヲ爲サシメ考案畫ニテ配色ノ應用ヲ爲サシムヘシ

第二學年

每週一時

寫生 書 臨 畫

器物 植物 動物 建築物 人物 景色

考案 畫

前學年ニ準ス

修業年限三箇年ノモノニ在リテハ本要目ニ準シテ寫生畫・臨畫・考案畫ヲ授クヘシ

注意

一 幾何畫ヲ授クル際ニハ直線・角・圓・多角形・曲線ヲ授クヘシ

二 寫生畫・臨畫ニ在リテハ寫生畫ヲ主トシテ教授スヘシ

三 自在畫ヲ教授スル際ニハ成ルヘク陰影畫法及透視畫法ニ就キ簡易ニ其ノ理法ヲ説明スヘク又時々記憶畫及見取畫ノ練習ヲ爲サシムヘシ

四 生徒ヲシテ成ルヘク名作品又ハ其ノ複製品ヲ見シメ趣味ノ涵養ニ資スヘシ

家事

高等女學校 第三學年

每週二時

家内ノ整理

住居ノ修理・保存 掃除 室内ノ設備 衣服什器ノ選擇・保存及其ノ整頓 裝飾 戶締 火ノ用心等

家事衛生

採光 換氣 排水 洗濯 清潔法等

飲食物ノ調理

日常食品 嗜好食品 飲料水 飲料 調理 獻立 貯藏等

調理ニ關聯シテ食品・庖廚具及燃料ニ關スル事項ヲ授クヘシ

實習

洗濯 張物 シミスキ 掃除 磨キ物 飲食物ノ調理等

第四學年

每週二時

育兒

懷妊中ノ心得 出産 嬰兒ノ取扱方 哺乳 離乳後ノ食物 小兒ノ衣服 運動 睡眠 疾病 言語

動作 遊戲 玩具 躰方 就學 學校ト家庭トノ關係等

教育ヲ授クル場合ニハ言語以下ヲ省ク

養老及看病

衣食住ノ注意 介抱 藥用 危篤者ノ取扱 應急手當

傳染病及其ノ豫防 消毒法

家事經濟

家計簿記

實習

前學年ニ準シ更ニ應急手當ヲ加フ

修業年限五箇年ノモノニ在リテハ第四學年ニ於テ家内ノ整理・家事衛生ヲ授ケ其ノ實習トシテハ洗濯・張物・シミヌキ・掃除及磨キ物ヲ爲サシメ第五學年ニ於テ飲食物ノ調理・育兒・養老及看病・家事經濟・家計簿記ヲ授ケ其ノ實習トシテハ飲食物ノ調理・應急手當等ヲ爲サシムヘシ

實科高等女學校

修業年限四箇年ノモノ

第三學年及第四學年

每週三時

高等女學校第三學年及第四學年ニ準シ實習ノ度數ヲ増スヘシ

修業年限三箇年ノモノ

第二學年及第三學年

每週三時

高等女學校第三學年及第四學年ニ準シ實習ノ度數ヲ増スヘシ

修業年限二箇年ノモノ

第一學年及第二學年

每週三時

高等女學校第三學年及第四學年ニ準シ實習ノ度數ヲ増スヘシ

注意

- 一 家事ヲ授クルニハ其ノ地方實際ノ事情ニ適切ナラシメンコトヲ注意スヘシ
- 二 家事ヲ授クルニハ理論ニ徧スルコトナク成ルヘク實習ヲ多カラシムヘシ
- 三 他ノ學科目ニ於テ授ケタル事項ハ力メテ之ヲ家事ノ實際ニ應用スルノ法ヲ知ラシムヘシ
- 四 土地ノ情況ニ依リ便宜蔬菜ノ栽培ヲナサシムルモ可ナリ

縫裁

本要目中單ニ衣類ノ名稱ノミヲ掲クルモノハ仕上ケニ至ルマテ生徒ヲシテ實習セシメ「説明」ノ二字ヲ加フルモノハ必要ナル事項ノ説明ニ止メテ實地ノ仕立ヲ省クヘシ

高等女學校

第一學年

每週四時

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方・留メ方・繼キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿チ方等

各種襦袢ノ裁チ方練習

一ツ身單衣

四ツ身單衣

三ツ身身 裕

一ツ身身 綿入

綿布ノ繕ヒ方

第二學年

每週四時

本裁男女單衣

本裁女 裕

本裁男 裕

本裁女 綿入

本裁男 綿入ノ説明

第三學年

每週四時

片面物及中幅・大幅物ニテ小裁・中裁・本裁ノ裁チ方・積リ方

女袴

小裁・中裁女袴ノ説明

本裁女綿入羽織

本裁男綿入羽織ノ説明

本裁男袴羽織

小裁・中裁羽織ノ説明

小裁・中裁・本裁被布 中一枚仕上ケ

片面物及中幅・大幅物ニテ羽織・被布ノ裁チ方・積リ方

腹合セ帯

第四學年

每週四時

絹布單衣

毛織單衣ノ説明

絹布・毛織ノ繕ヒ方

男袴

小裁・中裁男袴ノ説明

本裁男單羽織

丸帶・男帶

本裁女小袖 中一筋仕上ケ

本裁女小袖重ネ物ノ説明

しやつ・づぼん下

足袋・涎掛ノ類

修業年限五箇年ノモノニ在リテハ本要目第四學年ノ教授事項ニ長襦袢・股引・夜着(雛形)蒲團(雛形)等ヲ加ヘ適宜之ヲ第四學年・第五學年ノ二學年ニ配當シ又本要目中説明ニ止メタルモノニ就キテ實習セシムヘシ

實科高等女學校

修業年限四箇年ノモノ

第一學年

每週十四時

基礎的技術ノ練習

運針法・縫ノ結ヒ方・留メ方・繼キ方 縫ヒ合セ方・簀掛ケ方 縮ケ方等

小裁・中裁襦袢

本裁男女襦袢

一ツ身單衣

三ツ身單衣

四ツ身單衣

一ツ身袴

三ツ身袴

四ツ身袴

一ツ身綿入

三ツ身綿入

四ツ身綿入

本裁女單衣
本裁男單衣

第二學年

每週十四時

前衿裁衿

本裁女衿

本裁男衿

本裁女綿入

本裁男綿入

片面物及中幅・大幅物ニテ小裁・中裁・本裁ノ裁チ方・積リ方ノ説明

長襦袢

一ツ身袖無綿入羽織

四ツ身綿入羽織

本裁女綿入羽織

本裁男綿入羽織

本裁男衿羽織

片面物及中幅・大幅物ニテ羽織ノ裁チ方・積リ方

手提袋ノ類

子供腹掛

涎掛

女袴

小裁・中裁女袴

第三學年

每週十八時

綿布男袴

小裁・中裁綿布男袴

絹布女單衣

絹布ノ繕ヒ方

一ツ身袖無被布

四ツ身被布

本裁被布

片面物及中幅・大幅物ニテ被布ノ裁チ方・積リ方

被布合羽

腹合せ帶

みしん使用法

西洋涎掛・西洋前掛各種

しやつ類

づぼん下類

毛織單衣

毛織ノ繕ヒ方

絹布本裁女衿

絹布本裁男袴

絹布本裁男袴羽織

第四學年

每週十八時

絹布本裁男單羽織

絹布本裁女單羽織

絹布本裁女袴羽織

絹布本裁女綿入羽織

本裁女小袖一重

本裁男小袖一重

本裁單衣重(雛形)

比翼(雛形)

絹布本裁男袴

丸帶

男帶

男引

女引

足袋

女兒洋服ノ下着類

簡易ナル小兒洋服

小兒帽子類

夜着 (雛形)

蒲團 (雛形)

蚊帳ノ説明

修業年限三箇年ノモノ

第一學年

每週十四時

第二學年

每週十八時

第三學年

每週十八時

修業年限四箇年ノモノ、第二學年・第三學年・第四學年ニ準シ適宜同第一學年ノ教授事項ヲ加ヘ授クヘシ

シ

修業年限二箇年ノモノ

第一學年

每週十八時

第二學年

每週十八時

修業年限四箇年ノモノ、第三學年・第四學年ニ準シ適宜同第一學年・第二學年ノ教授事項ヲ加ヘ授クヘシ

注意

一 本要目ニ示シタル事項ハ土地ノ情況ニ依リテ取捨選擇ヲ加ヘカメテ實用ニ適切ナラシムル様數授スヘシ

二 本要目中説明ニ止ムルモノ又ハ特別ナル練習ヲ課スルモノ、外ハ通常裁チ方・積リ方・寸法・標付ケ方・縫ヒ方順序ヲ授ケテ仕上ケシムルニアレトモ其ノ物ノ性質ニ隨ヒ便宜或ル事項ヲ加ヘ若クハ之ヲ省クヘシ例ヘハ帶ニ於テハ裁チ方・積リ方ヲ省キ袴ニ於テハ寸法割出シ方・襷取リ方等ヲ加フルカ如シ

- 三 新ニ授クルモノニテ其ノ縫ヒ方ノ緊要ナル部分ニ就キテハ特ニ部分縫ヲ課スヘシ例ヘハ袂ノ丸メ方・襷縫ヒ方等ノ如シ
- 四 本要目中「説明」トシテ掲ケタルモノハ材料ノ性質ニ依リテハ教師ヨリ説明ヲ與フルコトナク既授事項ノ應用トシテ生徒ニ自ラ考案セシムヘシ
- 五 模範トナルヘキ實物・雛形等ヲ示シテ其ノ要點ヲ説キ生徒技能ノ發達ヲ助クヘシ
- 六 實習ノ際家事科・圖書科ト聯絡ヲ保チテ便宜衣服ノ目的・服地ノ種類・其ノ鑑別法・色ノ配合・染色・洗濯等衣服ニ關シテ注意スヘキ事項ヲ授クヘシ
- 七 高等女學校ニ於テハ土地ノ情況ニ依リテハ使用法ヲ授クヘシ
- 八 曲尺ヲ用フル地方ニ在リテハ殊更ニ鯨尺ニ改ムルコトヲ要セス

音樂

高等女學校 第一學年

每週二時

樂典

譜表・音名・音部記號・音符・休止符・縱線・拍子・嬰變及本位記號・速度標語・發相記號及雜記號

基本練習

發聲練習・音程練習・聽音練習・呼吸練習

歌

平易ナル單音唱歌

每週二時

樂典

前學年ニ準シ更ニ音程論ノ大意ヲ授クヘシ

基本練習

前學年ニ準ス

歌

單音唱歌

第三學年

每週二時

樂典

音階論ノ大意

基本練習

前學年ニ準ス

歌

單音唱歌 二部ノ輪唱歌及二部ノ重音唱歌

樂器

おるがんノ構造及各部ノ名稱・使用法・基礎的練習・簡易ナル樂曲

但シビあの若クハばいおりん奏法ヲ授クルコトヲ得

第四學年

每週二時

樂典

和聲ノ初步

基本練習

前學年ニ準メ

歌 曲

單音唱歌 二部三部ノ輪唱歌及二部三部ノ重音唱歌

樂 器

前學年ニ準シ程度稍進ミタル樂曲

修業年限五箇年ノモノ、第五學年ニ於テハ左ノ事項ヲ教授スヘシ

歌曲 樂器

第四學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ授クヘシ

唱 歌

實科高等女學校

修業年限四箇年ノモノ

第一學年及第二學年

每週二時

高等女學校音樂第一學年及第二學年ニ準シ樂典ヲ除ク但シ歌曲ヲ授クル際樂典ニ關スル事項ヲ附帶シ

テ教授スルコトヲ得

修業年限三箇年ノモノ

第一學年

每週二時

高等女學校音樂第二學年ニ準シ樂典ヲ除ク但シ歌曲ヲ授クル際樂典ニ關スル事項ヲ附帶シテ教授スル

コトヲ得

注 意

一 樂典ハ平易ナル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ又之カ爲ニ特ニ時間ヲ設ケス歌曲ヲ授クル際ニ適宜附

帶シテ教授スルモ可ナリ

二 唱歌及樂器ノ教授ニハ總テ本譜ヲ用フヘシ

三 歌曲ハ歌詞・曲調共ニ高尚優雅ナルモノヲ選フヘシ

四 歌曲ハ其ノ數多キヲ求メスシテ十分之ニ熟練セシメンコトヲ期スヘシ

○教授細目ヲ定ムル件 (明治三十六年四月十六日)

(靜岡縣通牒三第一八二四號)

今般文部省ニ於テ高等女學校教授要目ヲ編纂セラレタルニツキテハ右要目ニ依リ (何高等女學校長ヲシテ) 之ヲ斟酌シ適當ナル教授細目ヲ定メ各學科教授ノ效果ヲ完カラシメムコトヲ力メ (シメ) ラルヘク依命此段及通牒候也 (縣立高等女學校長、田方、駿東、濱名三郡長宛)

追テ本文教授要目ハ本年三月九日官報訓令欄ニ就キ了知セラレ度申添候也

○靜岡縣立高等女學校學則 (明治三十九年三月二日)

(靜岡縣令第十三號)

靜岡縣立高等女學校學則

第一章 總 則

則

第一條 本校ニ本科及補習科ヲ置ク

第二條 修業年限ハ本科ヲ四箇年補習科ヲ一箇年トス

第三條 生徒定員ハ本科ヲ四百名トシ補習科ヲ五十名トス (明治四十二年縣令第九號ヲ以テ改正四月一日ヨリ施行)

第四條 本科及補習科ノ各學科課程及每週教授時數ヲ定ムルコト左ノ如シ

本 科 (明治四十五年縣令第二十四號ヲ以テ表中改正)

學科	年	每週時數	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	二	二	德育ノ要領	我國道徳ノ要領	我國道徳ノ要領	我國道徳ノ要領
國語	六	六	讀方及作文	讀方及作文	讀方及作文	讀方及作文
外國語 (英語)	三	三	發音、綴字、讀方及書取、習字	讀方及作文	讀方及作文	讀方及作文
歷史	三	三	日本歷史	世界史	外國史	日本國史
地理	三	三	日本地理	世界地理	地理	地理概説
數學	二	二	算術	算術	算術	代數及幾何ノ初步
理科	二	二	植物及衛生	物理	物理	物理
圖畫	一	一	寫生	寫生	寫生	寫生
家事	四	二	基礎的技術ノ練習、縫方、裁方、繕方	家事ノ整理	家事ノ整理	家事ノ整理
音樂	二	二	基礎的技術ノ練習、縫方、裁方、繕方	音樂ノ練習	音樂ノ練習	音樂ノ練習
體育	二	二	體育ノ原理及應用	體育ノ原理及應用	體育ノ原理及應用	體育ノ原理及應用
手工	二	二	刺繡	刺繡	刺繡	刺繡
計	三〇	三〇	同上	同上	同上	同上

計 二八 三 遊 通 體 裁 三 同 上 三 同 上 二 八 三 同 上

學科	年	每週時數	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	二	二	德育ノ要領	我國道徳ノ要領	我國道徳ノ要領	我國道徳ノ要領
國語	四	四	讀方及作文、習字	讀方及作文	讀方及作文	讀方及作文
外國語 (英語)	三	三	讀方及譯解、話方及作文、書取	讀方及作文	讀方及作文	讀方及作文
歷史	三	三	最近歷史地理補説	世界史	外國史	日本國史
地理	三	三	代數及幾何ノ初步	世界地理	地理	地理概説
數學	二	二	代數及幾何ノ初步	算術	算術	代數及幾何ノ初步
理科	二	二	植物物理及化學ノ補説	物理	物理	物理
圖畫	一	一	寫生	寫生	寫生	寫生
家事	二	二	育兒、養老及看病、家事經濟、家計簿記、實習	家事ノ整理	家事ノ整理	家事ノ整理
音樂	四	一四	縫方、裁方、繕方	音樂ノ練習	音樂ノ練習	音樂ノ練習
體育	三	三	樂典、基本練習、歌曲、樂器	體育ノ原理及應用	體育ノ原理及應用	體育ノ原理及應用
手工	二	二	刺繡	刺繡	刺繡	刺繡
計	三〇	三〇	同上	同上	同上	同上

補習科第一部ニ於テハ教育及手藝ハ隨意科目トス

同第二部ニ於テハ國語、體操、音樂、教育及手藝ハ隨意科目トシ隨意科目ヲ修メサルモノニ對シテハ其ノ時間ヲ裁縫ニ充ツ(明治四十五年縣令第二十四號ヲ以テ改正)

第五條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

學年ヲ分テ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ七月三十一日ニ至ル

第二學期 八月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第五條ノ二 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ(同)

一、祝日 大祭日

二、皇后陛下御誕辰 五月二十八日

三、日 曜 日

四、夏季休業 七月二十三日ヨリ九月十二日ニ至ル

五、冬季休業 十二月二十八日ヨリ翌年一月九日ニ至ル

六、學年末休業 二週間以内

第三章 入學休學及退學(同)

第六條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ每學年ノ始ヨリ三十日以内ニ於テ其ノ都度學校長之ヲ定ム但第二學期ノ始ヨリ十日以内ニ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ(明治四十一年縣令第二十八號ヲ以テ改正)

第七條 本校ニ入學スルコトヲ得ヘキ者ハ身體健康品行方正ノ者タルヘシ

第八條 第一學年入學志願者中尋常小學校ヲ卒業シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許ス(明治四十一年縣令第二十號ヲ以テ改正)

第九條 補習科ニ入學ヲ許スヘキ者ハ修業年限四個年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者ニ限ル但シ本校本科卒業生ハ其他ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許ス

第十條 入學ヲ許スヘキ生徒ノ人員及入學試験ノ期日等ハ生徒募集ノ都度之ヲ廣告ス

第十一條 在學生徒ニシテ他ノ高等女學校ニ轉學ヲ志望スル者ハ其ノ事由ヲ具シ學校長ニ願出ツヘシ

第十二條 入學志願者ハ左式ノ入學願書及履歷書ヲ差出スヘシ(明治四十五年縣令第二十四號、同四十五年縣令第五十八號ヲ以テ改正)

入學願書式(用左東紙)
(八號ヲ以テ書式中改正)

某儀(入學志願者ノ名) 御校本科第何學年(補習科)ヘ入學志願ニ付御許可被成下度尤モ入學ノ上ハ御規則等堅ク相守可申候依テ別紙履歷書相添此段相願候也

年 月 日

入學志願者 氏 名 印

住 所(本籍地) 氏 名 印

族籍職業 父兄若クハ後見人 氏 名 印

住 所(本籍地) 氏 名 印

族籍職業 父兄若クハ後見人 氏 名 印

住 所(本籍地) 氏 名 印

族籍職業 父兄若クハ後見人 氏 名 印

住 所(本籍地) 氏 名 印

族籍職業 父兄若クハ後見人 氏 名 印

生年月日

履歷書式(用左東紙)
(四號ヲ以テ書式中改正)

履 歷 書

住 所(本籍地)

族籍職業

氏

學業

- 一 何年何月何府縣何郡市(町)(村)(私)立何々小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科若クハ高等小學校ノ教科(修業年限何々年)卒業又ハ其ノ第何學年修了
 - 一 何年何月何公(私)立學校ニ於テ何科卒業若ハ其何學年修了
 - 一 何年何月ヨリ何年何月迄何地ニ於テ何某ニ就キ何學修業
 - 一 何年何月何々ノ廉ニヨリ何々ヨリ何々ノ賞(罰)ヲ受ケ
- 賞 罰
- 右 之 通 候 也

第十三條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ學校長指定ノ日ニ父兄若クハ父兄ノ代理人附添出校スヘシ

第十四條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ戶籍吏ノ作リタル戶籍謄本及左式ノ保證書ヲ差出スヘシ (明治四十五年縣令第五十八號)

保證書式 (用紙) (明治四十五年縣令第二十號) (美濃紙) (四號ヲ以テ書式中改正)

參錢 紙入

住所 (本籍地) 族籍 誰女妹等

氏

名

生年月日

住所 (本籍地) 族籍 職業

住所 (現住地) 族籍 職業

氏

名

右今般御校へ入學被差許候ニ就テハ御規則等堅ク爲相守且日本人在學中ニ關スル事件一切引受可申依テ保證書如此候也

年 月 日 (第十五條第二號ノ關係ヲ記入スヘシ)

(上同)

静岡縣立高等女學校長何某殿

第十五條 保證人ハ二名ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニ限ル但シ學校長ニ於テ不適當ト認ムルトキハ之ヲ取換ヘシムルコトアルヘシ

一、一戸ヲ構ヘ相當ナル家計ヲ立ツル成年以上ノ男子ニシテ且ツ禁治産ノ處分ヲ受サルモノ但シ一名ハ静岡市内ニ居住スル者タルヘシ

一、父兄後見人若ハ親戚關係ヲ有スル者又ハ父兄後見人ニ代リ生徒監督ノ責ヲ負フニ足ルヘキ者

(明治四十五年縣令第二十四號ヲ以テ改正)

第十六條 保證人改氏名改印若クハ轉居ノ場合ハ其ノ旨速ニ學校長ニ届出ヘシ (明治四十五年縣令第二十四號ヲ以テ削除)

第十七條 保證人死亡若ハ第十五條ノ要件ヲ失ヒタルトキハ直ニ相當保證人ヲ定メ保證書ヲ差換フヘシ (上同)

第十八條 學校長ハ生徒ニシテ傷痍疾病ノ爲永ク課業ヲ關クヘシト認メタル者ニ對シ一箇年未滿ノ休學ヲ許可スルコトアルヘシ

生徒ニシテ前項ニ該當シ休學セントスルトキハ其ノ事由及期間ヲ具シ主治醫ノ診斷書ヲ添ヘ保證人ノ連署ヲ以テ學校長ニ願出スヘシ (上同)

第十九條 生徒ハ半途ニシテ退學ヲ爲スコトヲ得ス但シ特別ノ事情ニ依リ退學セントスルトキハ保證人ノ連署ヲ以テ其旨學校長ニ届出ヘシ

第四章 修業及卒業

- 第二十條 各學科目ノ成績ハ評點ヲ以テ之ヲ表シ定點ヲ一百トス
- 第二十一條 試験ヲ行ハサル學科目ハ平素ノ成績ヲ考查シテ學期評點ヲ定ム
試験ヲ行フ學科目ハ試験ノ成績ニ平素ノ成績ヲ參酌シテ學期評點ヲ定ム
- 各學科目ノ學年評點ハ各學期評點ノ和ヲ三分シテ之ヲ定ム
- 第二十二條 各學科目ノ學年評點五十點以上ニシテ其通約點六十點以上ヲ得タル者ヲ及第トス但學校長ハ本文ノ及第點ニ達セサル者ニ對シ平素ノ成績ヲ參酌シテ特ニ及第ヲ認ムルコトヲ得(明治四十四年ヲ改正)
- 第二十三條 操行ヲ甲乙丙ノ三等ニ分チ之ヲ評定ス(同上)
- 第二十四條 本科第四學年ノ課程ヲ修了シタル者ニハ卒業證書ヲ補習科ヲ修了シタル者ニハ修業證書ヲ授與ス其證書式左ノ如シ

卒業證書式

卒業證書

校印

族籍

氏

生年月日

高等女學校修業年限ノ學科ヲ履習シ正ニ其業ヲ卒ヘタリ仍マ之ヲ證ス
年 月 日

靜岡縣立高等女學校長位勳爵

氏

名

修業證書式 (明治四十一年縣令第二十)

修業證書

族籍

氏

生年月日

本校補習科第一部(第二部)修業年限ヲ修了セシコトヲ證ス
年 月 日

靜岡縣立高等女學校長位勳爵

氏

名

番號

第二十五條 隨意科目ヲ修メタル者ニハ別ニ證明書ヲ授與ス

第五章 授業料及入學料

- 第二十六條 授業料ハ本科補習科ヲ通シテ一箇月金壹圓八拾錢トス但シ八月分ハ之ヲ徵收セス(明治四十一年縣令第八號ヲ以テ改正)
- 第二十七條 授業料ハ學校ノ休業生徒ノ缺席休學若クハ停學ヲ命シタル場合ニ於テモ免除セサルモノトス(明治四十五年縣令第二十四號ヲ以テ改正)
- 第二十八條 授業料ノ納期ハ毎月二十日限トス
- 第二十九條 納期内ニ授業料ヲ納メサル者アルトキハ其出席ヲ停止シ仍翌月二十日ヲ越セルモ之ヲ納メサルトキハ生徒學籍簿ヨリ除キ其ノ未納ニ係ル授業料ハ保證人ヨリ徵收スルモノトス
- 第三十條 入學料ハ一人壹圓五拾錢トシ入學ノ際之ヲ徵集ス但シ本校本科ヲ卒業シテ直ニ補習科ニ入學スルモノヨリハ入學料ヲ徵集セス(同上)

第六章 懲戒

第三十條 生徒ニ對スル懲戒ヲ分チテ三種トス

一 戒 飾
二 謹 慎
三 停 宿

學(明治四十一年縣令第二十
八號ヲ以テ期間ヲ削除ス)

第七 章 寄 宿 舍

第三十二條 生徒ハ自宅ヨリ通學スル者ヲ除クノ外總テ寄宿舍ニ入舍セシム但シ學校長ハ適當ト認ム
ル場合ニ限り親戚又ハ保證人等ノ宅ヨリ通學セシムルコトヲ得

第三十三條 寄宿舍ニ入舍セントスル生徒ハ保證人連署シテ學校長ニ願出ツヘシ退舍セントスルトキ
亦同シ

第三十四條 本章ニ規定セルモノヲ除クノ外寄宿舍ニ關スル必要ノ規則ハ學校長之ヲ定メ知事ノ認可
ヲ受クヘシ

第八 章 服 裝 及 結 髮

第三十五條 生徒ノ服裝及結髮ニ關スル規則ハ學校長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第九 章 附 則

第三十六條 本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十七條 現ニ在學スル第三學年以上ノ生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ其ノ生徒ノ卒
業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルモノトス

明治四十一年縣令第二十八號附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

修業年限四ヶ年ノ尋常小學校ノ課程ヲ卒業タル者ノ入學ニ就テハ仍從前ノ例ニ依ル
明治四十五年縣令第二十四號附則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ對シテハ從前ノ學
科課程ヲ斟酌シテ之ヲ課スルモノトス

明治四十五年縣令第五十八號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○高等女學校生徒花筍曲並補習科ノ件 (明治三十七年一月二十五日)

高等女學校ニ於テ土地ノ情況ニ依リ必要ナル場合ニ限り正科時間外ニ便宜茶儀生花筍曲等ヲ教授スル
ハ差支無之候尤モ此場合ニ於テハ其教授ハ志望ノ生徒ニノミ限リ之ヲ課スヘキハ勿論程度高キニ失シ
若クハ教授時數多キニ過タルカ如キコト無之様致度候又補習科ハ本科ニ對シテノミナラス技藝專修科
ノ補習科モ設置シ得ル儀ニ有之候右ハ其筋ノ通牒ニ基キ爲御心得此段及移牒候也(縣立高等女學校長及田方
駿東、濱名ノ各郡長宛)

○高等女學校生徒體操缺課ニ關スル件 (明治三十七年一月廿五日)

貴校生徒中心臟病等ノ爲ニ體操科ヲ修ムルコト能ハサルモノ有之候ハ、體操科免除ノ上卒業ト認ムル
モ差支無之候最モ此場合ニ於テハ修業若クハ卒業ノ證書ニハ其一部若クハ全部ヲ缺キタルコトヲ附記
セラレ度爲御心得依命此段通牒候也(縣立高等女
學校長宛)

高等女學校生徒ノ體操科ニ關シ縣立高等女學校長ニ別紙ノ通り通牒候ニ就テハ貴郡下高等女學校長ニ
モ便宜御示置相成度此段及移牒候也(田方、駿東、濱
名三郡長宛)

(別紙前掲ノ通ニ付畧ス)

○授業料及入學料ニ關スル規則 (明治四十二年二月二十八日 靜岡縣令第四十號)

(中學校ノ部へ掲出ニ付此ニ省ク)

第三章 高等中學校

○高等中學校令 (明治四十四年七月三十一日 勅令第二百十七號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ高等中學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等中學校令

第一條 高等中學校ハ中學校ヲ修了セル者ニ對シ更ニ精深ナル程度ニ於テ高等普通教育ヲ爲スヲ以テ

第二條 高等中學校ハ官立トシ其ノ數ハ全國ヲ通シテ二十校以內トシ一校ノ生徒定員ハ四百八十人以内トス

第三條 高等中學校ノ修業年限ハ二年五月乃至二年六月トス

第四條 高等中學校ノ學科ヲ分チテ文科及理科トス

第五條 高等中學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十六年以上ニシテ之ト同等ノ學力アリト檢定セラレタル者タルヘシ

第六條 高等中學校ノ學科目及其ノ程度並入學、退學及懲戒ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條 高等中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ一時之ヲ使用スルコトヲ得

第八條 本令ニ依ラサル學校ハ高等中學校ト稱スルコトヲ得

附 則

第九條 本令ハ明治四十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 高等學校令ハ之ヲ廢止ス

第十一條 高等學校ハ高等中學校ト改稱ス

前項ノ高等中學校ニハ當分ノ内第二條ノ生徒定員ニ關スル規定ヲ適用セス

第十二條 高等學校大學豫科ハ本令施行ノ際現ニ在學スル者ノ爲ニ明治四十八年八月三十一日迄之ヲ存置ス

第十三條 他ノ勅令中等學校トアルハ高等中學校ト看做ス

○高等中學校規程

(明治四十四年七月三十一日 文部省令第二十五號)

高等中學校規程左ノ通相定ム

高等中學校規程

第一條 文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、心理及論理、數學、物理及化學、法制及經濟、體操トス

理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、博物、物理及化學、圖畫、法制及經濟、體操トス

外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語及文科ノ數學、物理及化學並理科ノ法制及經濟ハ隨意科目トス

第二條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家、社會及家族ニ對スル義務並人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ

特ニ我國道德ノ特質ヲ悟ラシムヘシ

第三條 國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハスノ能ヲ得シメ文學上ノ趣味ヲ養ヒ智徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近古、中古及上古ノ國文並普通ノ漢文ヲ講讀セシメ又國語ノ作文ニ習熟セシメ國語文法及國文學史大要ヲ授ケ理科ニ在リテハ主トシテ普通ノ漢文ヲ授ケ又國語ノ作文ニ習熟セシムヘシ

第四條 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ兼テ智識ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取及文法大要ヲ授クヘシ

第五條 歴史ハ歷史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、邦國盛衰ノ由ル所ヲ理會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特質ナル所以ヲ明ニシ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

歴史ハ日本歴史、東洋史及西洋史ヲ授クヘシ

第六條 地理ハ我國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ我國及諸外國ノ政治經濟ニ關スル事項並我國ト諸外國トノ政治經濟上ノ關係等ヲ授クヘシ

第七條

心理及論理ハ各種ノ精神作用、思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授クヘシ

第八條 數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ文科ニ在リテハ數學雜論ヲ授ケ理科ニ在リテハ代數、三角法、初等解析幾何及初等微分積分ヲ授ヘシ

第九條 博物ハ天然物ニ關スル智識ヲ與ヘ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

博物ハ植物學、動物學、礦物學及地質學ノ一斑ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十條 物理及化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシメ兼テ觀察及思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

物理及化學ハ文科ニ在リテハ物理及化學ニ關シ重要ナル事項ヲ授ケ理科ニ在リテハ力學初步、物性論、音響學、熱學、光學、磁氣學、電氣學、理論化學、無機化學及有機化學ノ一斑ヲ授ケヘシ又理科ニ在リテハ主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十一條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ法學通論及經濟通論ヲ授ケヘシ

第十二條 圖畫ハ形體ヲ正確ニ畫クノ方法並其ノ理ヲ會得セシメ兼テ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

圖畫ハ平面幾何畫、射影圖法、圖法幾何、陰影法及遠近法ヲ授ケヘシ

第十三條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメテ身體ヲ強健ナラシメ動作ヲ機敏ナラシメ快活剛毅堅忍持久ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ教練及體操ヲ授ケヘシ又擊劍及柔術ヲ加フルコトヲ得

第十四條 文科及理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科	文科		理科	
	第一學年	第二學年	第一學年	第二學年
國語及漢文	六	五	二	二
第一外國語	九	九	七	六
第二外國語	九	九	七	六
歷史	三	四		五
地理及論理	二			五
數學	隨意(一)		四	五
物理及化學		隨意(二)	二	三
博物		植物、動物	三	二
圖畫			二	三
法制及經濟				隨意(二)
體操	三	三	三	三
計	三三	三三	三三	三三

學科	文科		理科	
	第一學年	第二學年	第一學年	第二學年
國語及漢文	六	五	二	二
第一外國語	九	九	七	六
第二外國語	九	九	七	六
歷史	三	四		五
地理及論理	二			五
數學	隨意(一)		四	五
物理及化學		隨意(二)	二	三
博物		植物、動物	三	二
圖畫			二	三
法制及經濟				隨意(二)
體操	三	三	三	三
計	三三	三三	三三	三三

理科第二學年ノ圖畫ハ生徒ノ志望ニ依リ之ヲ課セサルコトヲ得此ノ場合ニハ其ノ每週教授時數ヲ第一外國語、第二外國語ニ配當スルコトヲ得

本表ノ外理科ニ在リテハ第一學年ニ於テ物理及化學實驗凡二十回、博物實驗凡十五回、第二學年ニ於テ物理及化學實驗凡二十五回、博物實驗凡十回ヲ課ス但シ各學科目ノ實驗總回數ヲ變更セサル限リハ各學年ノ實驗回數ヲ増減スルコトヲ得

修身及體操ヲ除キ各學科目ノ教授總時數ヲ減セサル限リハ各學年ニ於テ前表各學科目ノ每週教授時數ヲ變更スルコトヲ得但シ每週教授時數ノ合計ハ隨意科目ノ教授時數ヲ除キ三十三時ヲ超ユルコトヲ得ス

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得
第一外國語ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	文科		理科	
	第一學年	第二學年	第一學年	第二學年
第一外國語	一四	一四	一四	一二
第二外國語	四	四	二	二

本表ノ場合ニ於テハ理科第二學年ノ圖畫ハ之ヲ課セス

第十五條 第一學年ハ四月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終リ第二學年ハ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル

第一學年ハ分チテ四學期トシ第二學年ハ分チテ三學期トス

第十六條 教授日數ハ第一學年二百八十五日以上、第二學年二百十日以上トス但シ次條ノ場合及特別事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第十七條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第十八條 紀元節、天長節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第十九條 高等中學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等ノ學力アリト檢定セララルヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且體格檢査ヲ受ケ之ニ合格スルコトヲ要ス

一 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者

二 專門學校入學者檢定規程第八條第一號ノ指定ヲ受ケタル者但シ其學校ノ入學ニ限り指定ヲ受ケタル者ヲ除ク

第二十條 第二學年ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ノ課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ第一學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試驗ニ依リテ檢定スヘシ

第二十一條 生徒ニシテ退學シタル者退學シタルトキヨリ一箇年ヲ經過セスシテ更ニ入學ヲ志願シタルトキハ同一學年以下ノ學年ニ限り入學ヲ許可スルコトヲ得

第二十二條 他ノ高等中學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル場合ニ限り其ノ生徒ノ在學證明書及成績表ヲ移轉先學校ニ送付スヘシ移轉先學校ニ於テハ缺員アル場合ニ限り前項生徒ノ轉學ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ轉學ヲ許可スル生徒ハ試驗ヲ行ハスシテ同一學年ニ編入スルコトヲ得

第二十三條 第一學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試驗ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試驗ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ學業ノ成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得

或種類ノ學科目ニ就キテハ試驗ヲ行ハサルコトヲ得

第二十四條 第一學年第三學期ノ終ニ於テ生徒ノ成績ヲ考查シ進級ノ見込ナシト認メタル者ハ其ノ年四月ニ於テ開始スル第一學年ニ編入スヘシ

第一學年ノ學年試驗ニ合格セサル者ハ其ノ年四月ニ於テ開始スル第一學年ニ編入スヘシ
第二十五條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
 - 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
 - 三 引續キ一箇年以上缺席シタル者
 - 四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者
 - 五 出席常ナラサル者
- 第二十六條 學校長ニ於テ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ但シ兵役ニ服スル爲休學ヲ許可シタル期間ハ前條第三號ノ缺席日數ニ算入セス
- 第二十七條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十六年四月一日ヨリ施行ス

明治四十八年八月三十一日マテ存置スル高等學校大學豫科ニ關シテハ仍從來ノ規程ヲ適用ス

明治四十八年八月三十一日マテニ高等學校大學豫科ヲ卒業セサル者アルトキハ學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ高等中學校ニ編入スルコトヲ得

樂 器

山葉 オルガン 金拾八圓以上
 山葉 ピアノ 金貳百圓以上

新製 コツテージピアノノ A形 定價金貳百圓

- 一 規模廣大 品質堅牢 高尚優美 價格低廉ナルハ弊社製品ノ特長
- 二 シテ世界ノ最優等品ニ劣ラサルハ世間既ニ定評アリ
- 三 一月賦販賣並ニ月極賃貸ハ至極御便利ナリ
- 四 御通知次第圖入目錄贈呈ス

靜岡縣濱松市

振替貯金東京一三〇八〇番 電長二四番

本社 日本樂器製造株式會社

東京市京橋區竹川町 東京支店 共 益 商 社
 大連市信濃町 大連支店 山 葉 洋 行

第七編 師範教育

御旅館



靜岡市停車場前

四海館

大吉野屋

●衛生ニ注意シ學校團體ハ特ニ大割引ヲ以テ丁寧切ニ取扱フ

●修學旅行及實業視察團體ノ專門テニシ御賄料ハ至極低廉ナ

第一章 通則

○師範教育令 (明治三十年十月九日 勅令第三百四十六號)

朕師範教育令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

師範教育令

- 第一條 高等師範學校ハ師範學校中學校及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
女子高等師範學校ハ師範學校女子部及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
師範學校ハ小學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
- 前三項ニ記載シタル學校ニ於テハ順良信愛威重ノ徳性ヲ涵養スルコトヲ務ムヘシ
- 第二條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ東京ニ各一校ヲ設置シ師範學校ハ北海道及各府縣ニ各一校若ハ數校ヲ設置ス
- 第三條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ師範學校ハ地方長官ノ管理ニ屬ス
- 第四條 師範學校ノ經費 (北海道及沖繩縣ヲ除ク) ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス
- 第五條 師範學校ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第六條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第七條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ學資ハ文部大臣ノ定ムル所ニヨリ其ノ學校ヨリ之ヲ支給スヘシ
- 前項ノ外文部大臣ノ定ムル所ニ依リ私費生ヲ置クコトヲ得

明治三十年十月九日 勅令第三百四十六號
 師範學校及女子高等師範學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
 女子高等師範學校ハ師範學校女子部及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
 師範學校ハ小學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

明治三十年十月九日 勅令第三百四十六號
 師範學校及女子高等師範學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
 女子高等師範學校ハ師範學校女子部及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
 師範學校ハ小學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

- 第八條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校ノ學科及其ノ程度並教科書ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第九條 師範學校ニ豫備科小學校教員講習科及幼稚園保姆講習科ヲ置クコトヲ得

附則

- 第十條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス
- 明治十九年勅令第十三號師範學校令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
- 第十一條 他ノ法令中尋常師範學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然師範學校ト改正セラレタルモノト看做ス

○高等師範學校、女子高等師範學校及師範學校入學志

望者入學禁止項目 (明治三十五年二月二十四日 文部省令第五號)

- 一 明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢查規程第五條第一項第七號ノ體格薄弱ニ屬スル者
- 二 精神機能ニ障害アル者
- 三 傳染性眼炎ヲ患フル者又ハ眼鏡ヲ以テ補正スルコト能ハサル近視亂視弱視等ヲ有スル者
- 四 聽官又ハ言語ノ障害著シキ者
- 五 肺結核其ノ他結核ノ諸兆アル者
- 六 心臟瓣膜病ヲ患フル者
- 七 惡性腫瘍、腎臟炎、糖尿病、重症貧血等ヲ患フル者
- 八 修學上ニ妨アル疾病ニ罹リ急治ノ見込ナキ者若ハ他ニ感染ノ虞アル疾病ヲ患フル者

附 則
本令ハ明治三十五年三月一日ヨリ施行ス

第二章 師範學校

○師範學校規程 (明治四十年四月十七日
文部省令第十二號)

師範學校規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

師範學校規程

第一章 生徒教養ノ要旨

第二章 豫備科及本科

第一節 學科及其ノ程度

第二節 教授日數及式日

第三節 編 制

第四節 教科用圖書

第五節 入學、退學及懲戒

第六節 學 資

第七節 卒業後ノ服務

第三章 講 習 科

第四章 附屬小學校及附屬幼稚園

第五章 設 備

第六章 設置及廢止

第七章 補 則

第八章 附 則

師範學校規程

第一章 生徒教養ノ要旨

第一條 師範學校ニ於テハ師範教育令ノ旨趣ニ基キ特ニ左ノ事項ニ注意シテ其ノ生徒ヲ教養スヘシ

一 忠君愛國ノ志氣ニ富ムハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素忠孝ノ大義ヲ

明ニシ國民タルノ志操ヲ振起セシメンコトヲ要ス

二 精神ヲ鍛鍊シ德操ヲ磨勵スルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素意ヲ此

ニ用ヒシメンコトヲ要ス

三 規律ヲ守リ秩序ヲ保チ師表タルヘキ威儀ヲ具フルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生

徒ヲシテ平素長上ノ命令訓誨ニ服從シ起居言動ヲ正シクセシメンコトヲ要ス

四 教授ハ教員タルヘキ者ニ適切ニシテ小學校令及小學校令施行規則ノ旨趣ニ副ハンコトヲ旨トス

ヘシ

五 教授ハ常ニ其ノ方法ニ注意シ生徒ヲシテ業ヲ受クル際教授ノ方法ヲ會得セシメンコトヲ務ムヘ

シ

六 學習ノ方法ハ偏ニ教授ノミニ憑ラシムヘキモノニアラス故ニ生徒ヲシテ常ニ自ラ學識ヲ進メ技

藝ヲ研クノ習慣ヲ養ハシメンコトヲ務ムヘシ

第二章 豫備科及本科

第一節 學科及其ノ程度

第二條 本科ヲ分チテ第一部及第二部トス但シ第二部ハ土地ノ情況ニ依リ之ヲ設ケサルコトヲ得

第三條 豫備科ハ本科第一部ニ入學セントスル者ニ必要ナル教授ヲ爲スヲ以テ目的トス

第四條 豫備科ノ修業年限ハ一箇年トス

本科第一部ノ修業年限ハ四箇年トス

本科第二部ノ修業年限ハ男生徒ニ就キテハ一箇年、女生徒ニ就キテハ二箇年又ハ一箇年トス

第五條 豫備科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、數學、習字、圖畫、音樂、體操トシ女生徒ノ爲ニハ裁

縫ヲ加フ

第六條 本科第一部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、英語、歴史、地理、數學、

博物、物理及化學、法制及經濟、習字、圖畫、手工、音樂、體操トス但英語ハ隨意科目トス

前項學科目ノ外農業、商業ノ一科目又ハ二科目ヲ加フ其ノ二科目ヲ加ヘタル場合ニ於テハ生徒ニハ

一科目ヲ學習セシムヘシ

第七條 本科第一部ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、歴史、地理、數學、博物、

物理及化學、家事、裁縫、習字、圖畫、手工、音樂、體操トス

前項學科目ノ外隨意科目トシテ英語ヲ加フルコトヲ得

第八條 修身ハ教育ニ關スル勸語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨シ師表タ

ルノ威儀ヲ具ヘシメ且小學校ニ於ケル修身ノ教授ニ必要ナル知識ヲ授ケ其ノ教授ノ方法ヲ會得セシ

ムルヲ以テ要旨トス

修身ハ初ハ嘉言善行等ニ徴シ生徒日常ノ行狀ニ因ミテ道德ノ要領ヲ教示シ又作法ヲ授ケ進ミテハ

稍ニ秩序ヲ整ヘテ自己、家族、社會及國家ニ對スル責務ヲ知ラシメ倫理學ノ一斑及教授法ヲ授ケヘ

シ

前項ノ外女生徒ニ就キテハ現行法制上ノ事項ノ大要ヲ授クヘシ

第九條 教育ハ教育ニ關スル一般ノ知識ヲ得シメ特ニ小學校教育ノ旨趣方法ヲ詳ニシ教育ノ技能ヲ習

得セシメ兼テ教育者タルノ精神ヲ養フヲ以テ要旨トス

教育ハ心理及論理ノ大要ヨリ始メ教育ノ理論、教授法及保育法ノ概説、近世教育史ノ大要、教育制

度、學校管理法、學校衛生ヲ授ケ又教育實習ヲ課スヘシ

前項ノ外女生徒ニ就キテハ便宜保育實習ヲ課スヘシ

第十條 國語及漢文ハ普通ノ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表出スルノ能ヲ得シメ小學校ニ於

ケル國語教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ文學上ノ趣味ヲ養ヒ智徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ國文ニ及ホシ又言語ノ使用ニ練熟セ

シメ實用簡易ナル文ヲ作ラシメ文法ノ大要ヲ授ケ又平易ナル漢文ヲ講讀セシメ且教授法ヲ授クヘシ

第十一條 英語ハ普通ノ英語ヲ了解スルノ能ヲ得シメ知識ノ増進ニ資シ兼テ小學校ニ於ケル英語教授

ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

英語ハ發音、綴字、讀方、譯解、書取、會話、作文、習字及文法ノ大要ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第十二條 歴史ハ歴史上重要ナル事歴ヲ知ラシメ社會ノ變遷、邦國盛衰ノ由ル所ヲ理會セシメ特ニ我

國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ且小學校ニ於ケル日本歴史教授ノ方法ヲ會得セシム

ルヲ以テ要旨トス

歴史ハ日本歴史及外國歴史トシ日本歴史ニ於テハ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事蹟ヲ授ケ外

國歴史ニ於テハ世界大勢ノ變遷ニ關スル事蹟ヲ主トシ著名ナル諸國ノ興亡、人文ノ發達及我國ノ文

化ニ關係アル事蹟ノ大要ヲ知ラシメ且教授法ヲ授クヘシ

第十三條 地理ハ地球ノ形狀、運動並ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國及諸外國ノ國勢

ヲ知ラシメ且小學校ニ於ケル地理教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ世界地理ノ概略及日本地理並ニ我國ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ知ラシメ又地文ノ一斑及人文地理ノ概説ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第十四條 數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ且小學校ニ於ケル算術教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ生活上必要ナル知識ヲ與ヘ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ算術、代數及幾何ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ
前項ノ外男生徒ニ就キテハ簿記ノ大要ヲ授クヘシ

第十五條 博物ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ理會セシメ且小學校ニ於ケル理科教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

博物ハ重要ナル植物、動物、礦物ニ關スル一般ノ知識、標本ノ採集調製法並ニ人體ノ構造、生理及衛生ノ大要ヲ授ケ又小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル實驗ヲ課シ且教授法ヲ授クヘシ

第十六條 物理及化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則並ニ人生ニ對スル關係ヲ理會セシメ且小學校ニ於ケル理科教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

物理及化學ハ重要ナル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化合物ニ關スル知識ヲ授ケ又小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル實驗ヲ課シ且教授法ヲ授クヘシ

第十七條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民ノ生活上必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常生活ニ適切ナル法制上及經濟上ノ事項ヲ授クヘシ
第十八條 家事ハ家事整理ニ必要ナル知識ヲ得シメ兼テ勤勉、節儉、秩序、周密、清潔ヲ尙フノ念ヲ養フヲ以テ要旨トス

家事ハ衣食住、養老、育兒、看病、家計簿記其ノ他一家ノ整理經濟等ニ關スル事項ヲ授クヘシ

第十九條 裁縫ハ裁縫ニ關スル知識技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル裁縫教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

裁縫ハ普通ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方及繕ヒ方等ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第二十條 習字ハ文字ヲ端正且敏速ニ書寫スルノ能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル國語書キ方教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

習字ハ姿勢及執筆ヲ正シ運筆ノ方法ヲ授ケ楷書、行書ヲ主トシ草書及假名ニ及ホシ兼テ細字ノ速寫及黑板上ニ於ケル練習ヲ爲サシメ且教授法ヲ授クヘシ

第二十一條 圖畫ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル圖畫教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

圖畫ハ寫生畫ヲ主トシ臨畫及考案畫ヲ加ヘ授ケ黑板上ニ於ケル練習ヲ爲サシメ又幾何畫ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第二十二條 手工ハ物體ニ關スル觀念ヲ正確ナラシメ簡易ナル物品ヲ製作スルノ技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル手工教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ工作ノ趣味ヲ長シ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

手工ハ天然物ノ模造、日用器具ノ製作等諸種ノ細工ヲ授ケ又材料ノ性質、工具ノ保存法等ヲ知ラシメ且教授法ヲ授クヘシ

第二十三條 音樂ハ音樂ニ關スル知識技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル唱歌教授ノ方法ヲ會得セシメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

音樂ハ單音唱歌、複音唱歌及樂器使用法ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第二十四條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ姿勢ヲ端正ニシ身體ヲ強健ニシ且其ノ動作ヲ機敏耐久ナラシメ又精神ヲ快活剛毅ナラシメ且小學校ニ於ケル體操ノ教授ニ必要ナル知識技能ヲ得シメ其ノ教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
體操ハ男生徒ニ就キテハ普通體操、遊戲、兵式體操トシ且教授法ヲ授ケ女生徒ニ就キテハ普通體操、遊戲トシ且教授法ヲ授クヘシ

第二十五條 農業ハ農業ニ關スル知識技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル農業教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ農業ノ趣味ヲ長シ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
農業ハ土壤、水利、肥料、農具、耕耘、栽培、森林、養蠶、養畜、農產製造、農業經濟等ニ關スル事項ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第二十六條 商業ハ商業ニ關スル知識ヲ得シメ且小學校ニ於ケル商業教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス
商業ハ商事要項、商業簿記、商業算術、商業地理及其ノ地方ニ於ケル重要ナル商品ノ大要ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第二十七條 豫備科及本科第一部ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ男生徒ニ就キテハ甲號表、女生徒ニ就キテハ乙號表ニ依ルヘシ但シ必要アルトキハ學校長ハ每週教授時數ノ總計及各學科目ノ一學年間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ増減セサル範圍内ニ於テ之ヲ變更スルコトヲ得

甲號表

學科	學年	豫備科	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
國語及漢文		一〇	六	四	三	二
英語			三	三	三	三
歷史			二	二	二	二
地理			二	二	二	二
數學		六	四	三	三	二
博物學			三	二	一	二
物理及化學				二	三	四
法制及經濟						二
習字		三	二			
圖畫		二	三			三
手工				三		三
音樂		二	二			一
體操		六	五	五	五	三
農業又ハ商業				二	二	二
計		三一	三四	三四	三四	三四

乙號表

學科	學年	豫備科	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
國語及漢文		一〇	六	四	三	二
英語			三	三	三	三
歷史			二	二	二	二
地理			二	二	二	二
數學		六	四	三	三	二
博物學			三	二	一	二
物理及化學				二	三	四
法制及經濟						二
習字		三	二			
圖畫		二	三			三
手工				三		三
音樂		二	二			一
體操		六	五	五	五	三
農業又ハ商業				二	二	二
計		三一	三四	三四	三四	三四